

6 昆 虫 類

6 昆虫類

今回の改訂では、昆虫分科会の各委員が現地調査や文献調査、有識者からの聞き取りなどを実施し、231種を絶滅あるいは減少傾向が明らかであると認めた。分類群ごとのカテゴリー別種数の内訳は、表1のとおりである。

全体としては、「広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)- レッドデータブックひろしま2011」(2012年)(以下、「広島県RDB2011年版」)の選定種のうち4種の選定を解除し(表2)、16種を新たに選定した。各カテゴリーへの追加種数は、絶滅(EX):7種、絶滅危惧I類(CR+EN):4種、絶滅危惧II類(VU):16種、準絶滅危惧(NT):10種であった。また、新設した情報不足(DD)に、前回の要注意種(AN)30種を選定し、6種を新たに追加した。

絶滅種の追加選定においては、多くの研究者や在野の愛好者により、複数の調査、採集が繰り返し実施されているにも拘わらず、50年以上あるいは50年近く確認が途絶していることを原則的な条件とした。また、視認しやすい中・大型種あるいは調査の機会が多い多化性で、既知生息地が局所的な種の場合は、途絶期間が30年程度でも追加選定した。

表1 カテゴリー別の種数内訳

目名	絶滅 EX	野生絶滅 EW	絶滅危惧I類 CR+EN	絶滅危惧II類 VU	準絶滅危惧 NT	情報不足 DD	合計
トンボ	1	0	4	7	9	2	23(23)
カマキリ	0	0	0	0	0	1	1(1)
バッタ	0	0	1	2	5	6	14(13)
カメムシ	3	0	4	5	13	3	28(27)
アミメカゲロウ	0	0	0	0	1	0	1(1)
コウチュウ	7	0	25	20	43	16	111(104)
ハチ	0	0	1	1	7	5	14(12)
ハエ	0	0	0	0	0	1	1(1)
トビケラ	0	0	0	1	0	1	2(2)
チョウ	4	0	8	12	11	1	36(35)
合計	15(8)	0(0)	43(46)	48(36)	89(92)	36(37)	231(219)

※ 括弧内の数字は「広島県RDB2011年版」における選定種数を示す。

表2 選定を解除した「広島県RDB2011年版」の選定種

目名	科名	和名	選定を解除した理由
トンボ	イトトンボ	ベニイトトンボ	近年、各地で発見されており、個体数も多い。
コウチュウ	オサムシ	クロカタビロオサムシ	近年、各地で発見されており、生息環境が安定的である。
	チビドロムシ	ババチビドロムシ	県内の自然海岸にある岩礁に、ほぼ普遍的に生息し、個体数も多いことが判明。
	ジョウカイモドキ	イソジョウカイモドキ	

今日の絶滅あるいは絶滅危惧昆虫類の増加傾向は、戦後の農薬の濫用や、1960・1970年代の高度成長期における開発行為に端を発し、その後の中山間地域の過疎化や高齢化、生活様式の変化などに起因するため池や採草地の放棄、雑木林の管理不足、圃場整備の進行など、自然環境の消失や劣化が主な要因となってきた。また、アメリカザリガニやウシガエル、オオクチバスなどの外来種による捕食や植生破壊の影響も大きい。「広島県 RDB 2011 年版」は、それらを反映したものと見える。ところが 2012 年以降、従来とは別の減少要因が台頭し始めた。広島市とその近郊でホンシュウジカの個体密度が増加した結果、旺盛な採餌により植生環境を破壊し、ギフチョウの衰亡を著しく進行させた。また、同様の理由により、当該地域内ではヒサゴクサキリやイタドリハムシ、ベニシジミ、ゴイシシジミなども減少傾向にある。近年頻発する集中豪雨による河川環境破壊や水害予防対策などは、流水性トンボ類やゲンジボタルなどのほか、カワラバタやハマスズなど河原に生息する種にとって大きな脅威となっている。流行しているソーラーパネルの設置も、湿地や草原を消失させる点で見逃ごせない。さらに、ネオニコチノイドやフィプロニルなどを主成分とする農薬は、大規模な水稻栽培地域におけるアキアカネの減少や、シャープツブゲンゴロウやケンゲンゴロウなど小型のゲンゴロウ類の激減をもたらした。特に止水性ミズスマシ類の衰亡は深刻で、急速かつ顕著に進行した結果、数年前まで普通に見られたオオミズスマシでさえ今では稀となっている。今回の改訂において新たに追加された種やランクが上がった種の多くは、これらを主な減少要因としている。さらに、広島県内で死亡したアライグマの胃から、流水性トンボ類の幼虫が大量に発見された。このことから、同種は水生昆虫類の新たな脅威となっていると推測される。アルゼンチンアリは、依然として分布域を拡大している。モニタリング調査は未実施だが、同域内の在来アリ類の多様性の劣化が懸念される。

一方、少数ながら増加傾向にある種もいる。コガタノゲンゴロウは、11 年のブランクを経て 2016 年に再発見された。それ以降、多数の確認例が報告されるようになり、一部地域では繁殖も確認されている。本種の西日本における増加現象は、温暖化に起因するという見解もある。増加傾向は維持されるのか、今後の県内における生息状況の推移を注視することとし、今回は絶滅危惧 I 類 (CR+EN) にとどめた。ベニイトトンボの増加はより顕著で、島嶼部を含む各地で繁殖が確認される普通種となっている。この現象も、温暖化に起因するものと考えられる。また、ホンシュウジカの個体密度が増加した一部の地域では、ゴホンダイコクコガネやオオセンチコガネなど、食糞性コガネムシ類の増加が認められる。

2018 年の西日本豪雨災害の発生を契機に、水害を引き起こす可能性のあるため池の再整備の必要性が広く認識されるようになった。ため池は人工的な環境でありながら、その長い歴史において止水性昆虫類ほかの多くの生物にとって非常に重要な生息環境となっている。ため池の改修や補強などは防災に不可欠な処置であるが、実施にあたってはそこを拠り所としている生物群集の多様性維持への配慮もあわせて望みたい。

今回の改訂作業期間中、豪雨や高温などの影響が障害となり、現地調査の実施や情報収集に多くの滞りが生じた。そうした状況下で、「比和科学博物館研究報告」(庄原市立比和自然科学博物館発行)、「比婆科学」(比婆科学教育振興会発行)、「広島虫の会会報」(広島虫の会発行)に掲載された報文は、昆虫分科会委員だけでは到底知り得ない、多くの有益な情報を提供してくれた。報文の作成者に敬意を表すとともに、編集・発行に当たった各団体に感謝申し上げたい。

(坂本 充)

昆虫類選定種

絶滅 (EX)

- 1 マダラナニワトンボ
- 2 シオアメンボ
- 3 ウミアメンボ
- 4 コバンムシ
- 5 カワラハンミョウ
- 6 アオカタビロオサムシ
- 7 マルコガタノゲンゴロウ
- 8 スジゲンゴロウ
- 9 ミヤマダイコクコガネ
- 10 シナノエンマコガネ
- 11 フサヒゲルリカミキリ
- 12 ヒメシロチョウ
- 13 ムモンアカシジミ
- 14 オオウラギンヒョウモン
- 15 ウスイロヒョウモンモドキ

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

- 1 コバネアオイトトンボ
- 2 ハネビロエゾトンボ
- 3 ミヤジマトンボ
- 4 ナニワトンボ
- 5 カワラバッタ
- 6 タガメ
- 7 トゲナベブタムシ
- 8 イトアメンボ
- 9 オヨギカタビロアメンボ
- 10 カワラゴミムシ
- 11 オオヒラタトックリゴミムシ
- 12 ツヤキベリアオゴミムシ
- 13 キボシチビコツブゲンゴロウ
- 14 ムモンチビコツブゲンゴロウ
- 15 コガタノゲンゴロウ
- 16 ゲンゴロウ
- 17 マルガタゲンゴロウ
- 18 ヤギマルケシゲンゴロウ
- 19 シャープツブゲンゴロウ
- 20 コミズスマシ
- 21 ヒメミズスマシ
- 22 ツマキレオナガミズスマシ
- 23 チュウブホソガムシ
- 24 ヤマトホソガムシ
- 25 コガタガムシ
- 26 ダイコクコガネ
- 27 ナガスネエンマコガネ
- 28 セマルヒメドロムシ
- 29 クロマダラタマムシ
- 30 ヤマトオサムシダマシ
- 31 ツマキトラカミキリ
- 32 シロオビトラカミキリ

- 33 ヒメビロウドカミキリ
- 34 アサカミキリ
- 35 ツノアカヤマアリ
- 36 ホシチャバネセセリ
- 37 カシワアカシジミ(キタアカシジミ)冠高原亜種
- 38 クロシジミ
- 39 キマダラルリツバメ
- 40 シルビアシジミ
- 41 ゴマシジミ中国地方・九州亜種
- 42 ヒョウモンモドキ
- 43 ウラジャノメ本州亜種

絶滅危惧 II 類 (VU)

- 1 ミヤマサナエ
- 2 ナゴヤサナエ
- 3 ヒロシマサナエ
- 4 オグマサナエ
- 5 ネアカヨシヤンマ
- 6 キイロヤマトンボ
- 7 ハッチョウトンボ
- 8 ヤマトマダラバッタ
- 9 ハマスズ
- 10 ミヅナシミズムシ
- 11 ナガミズムシ
- 12 シロウミアメンボ
- 13 フクロクヨコバイ
- 14 ゴミアシナガサシガメ
- 15 ルイスハンミョウ
- 16 ホソハンミョウ
- 17 クチキゴミムシ
- 18 クロモンヒラナガゴミムシ
- 19 クビボソコガシラミズムシ
- 20 ムツボシツヤコツブゲンゴロウ
- 21 キボシケシゲンゴロウ
- 22 ケシゲンゴロウ
- 23 ヒメケシゲンゴロウ
- 24 コウベツブゲンゴロウ
- 25 テラニシセスジゲンゴロウ
- 26 ミズスマシ
- 27 エンデンチビマルガムシ
- 28 セスジダルマガムシ
- 29 コスジマグソコガネ
- 30 ヒメスジマグソコガネ
- 31 クロモンマグソコガネ
- 32 クロツヤマグソコガネ
- 33 ケスジドロムシ
- 34 クロサワドロムシ
- 35 ウマノオバチ
- 36 カラフトゴマフトビケラ
- 37 キバネセセリ

- 38 ギフチョウ
- 39 ヒロオビミドリシジミ
- 40 ウラジロミドリシジミ
- 41 ウラナミアカシジミ
- 42 ベニモンカラスシジミ中国地方亜種
- 43 クロツバメシジミ中国地方・四国・九州内陸亜種
- 44 ヒメシジミ本州・九州亜種
- 45 ウラギンスジヒョウモン
- 46 ヒメヒカゲ本州中部・近畿・中国地方亜種
- 47 キマダラモドキ
- 48 ウラナミジャノメ日本本土亜種

準絶滅危惧 (NT)

- 1 アオハダトンボ
- 2 グンバイトンボ
- 3 モートンイトトンボ
- 4 ムスジイトトンボ
- 5 ムカシヤンマ
- 6 キイロサナエ
- 7 サラサヤンマ
- 8 アオヤンマ
- 9 アキアカネ
- 10 ナギサスズ (ウミコオロギ)
- 11 カワラスズ
- 12 タイワンクツワムシ
- 13 ハタケノウマオイ
- 14 セグロイナゴ
- 15 コオイムシ
- 16 ホッケミズムシ
- 17 オオミズムシ
- 18 ミヤケミズムシ
- 19 ヒメコミズムシ
- 20 ケシウミアメンボ
- 21 エサキアメンボ
- 22 コエゾゼミ
- 23 ヒメハルゼミ
- 24 クヌギヒイロカスミカメ
- 25 ハリサシガメ
- 26 シロヘリツチカメムシ
- 27 ニシキキンカメムシ
- 28 キバネツノトンボ
- 29 エリザハンミョウ
- 30 タイシャクメクラチビゴミムシ
- 31 キバネキバナガミズギワゴミムシ
- 32 キバナガミズギワゴミムシ
- 33 クロホシコガシラミズムシ
- 34 キイロコガシラミズムシ
- 35 マダラコガシラミズムシ
- 36 カンムリセスジゲンゴロウ
- 37 ナチセスジゲンゴロウ

- | | | | |
|----|----------------|----|--------------|
| 38 | オオミズスマシ | 88 | オオシロシタバ |
| 39 | コオナガミズスマシ | 89 | フシキキシタバ |
| 40 | キベリマメゲンゴロウ | | 情報不足 (DD) |
| 41 | オオヒメゲンゴロウ | 1 | ヒメサナエ |
| 42 | マルヒラタガムシ | 2 | ヒメアカネ |
| 43 | ナカネダルマガムシ | 3 | ウスバカマキリ |
| 44 | オオクワガタ | 4 | マメカマドウマ |
| 45 | コブナシコブスジコガネ | 5 | イソカネタタキ |
| 46 | チビコブスジコガネ | 6 | クツワムシ |
| 47 | ゴホンダイコクコガネ | 7 | コバネヒメギス |
| 48 | ツノコガネ | 8 | カヤキリ |
| 49 | マルエンマコガネ | 9 | スオウササキリモドキ |
| 50 | オオフタホシマグソコガネ | 10 | キュウシュウエゾゼミ |
| 51 | コツヤマグソコガネ | 11 | カワムラヨコバイ |
| 52 | オオマガソコガネ | 12 | コリヤナギゲンバイ |
| 53 | ヨツボシマグソコガネ | 13 | キベリマルクビゴミムシ |
| 54 | ヒゲコガネ | 14 | セアカオサムシ |
| 55 | シロスジコガネ | 15 | ナガサキクビナガゴミムシ |
| 56 | オオチャイロハナムグリ | 16 | コマルケシゲンゴロウ |
| 57 | ホソコハナムグリ | 17 | マルケシゲンゴロウ |
| 58 | アカマダラコガネ | 18 | チャイロマメゲンゴロウ |
| 59 | ヨコミゾドロムシ | 19 | ミジンダルマガムシ |
| 60 | ハガマルヒメドロムシ | 20 | チビコエンマコガネ |
| 61 | ジュウクホシテントウ | 21 | マキバマグソコガネ |
| 62 | ジュウサンホシテントウ | 22 | ニセオオマガソコガネ |
| 63 | オオクロカミキリ | 23 | スジマグソコガネ |
| 64 | フタスジカタビロハナカミキリ | 24 | オビマグソコガネ |
| 65 | セラネクイハムシ | 25 | キンイロネクイハムシ |
| 66 | クロガネネクイハムシ | 26 | カツラネクイハムシ |
| 67 | アキミズクサハムシ | 27 | ツヤネクイハムシ |
| 68 | キヌツヤミズクサハムシ | 28 | ネギオオアラメハムシ |
| 69 | ムギクビボソハムシ | 29 | ギンボシツツトビケラ |
| 70 | クロルリハムシ | 30 | マイコトラガ |
| 71 | シラタカハムシ | 31 | カタマルヒラアシキバチ |
| 72 | エゾクシケアリ | 32 | ヒロシマウロコアリ |
| 73 | キゴシジガバチ | 33 | キバジュズフシアリ |
| 74 | フクイアナバチ | 34 | シロスジフトハナバチ |
| 75 | ヤマトスナハキバチ | 35 | ウスルリモンハナバチ |
| 76 | キアシハナダカバチモドキ | 36 | ニホンアミカモドキ |
| 77 | キヌゲハキリバチ | | |
| 78 | キバラハキリバチ | | |
| 79 | ギンイチモンジセセリ | | |
| 80 | スジグロチャバネセセリ | | |
| 81 | ツマグロキチョウ | | |
| 82 | ハヤシミドリシジミ | | |
| 83 | カラスシジミ | | |
| 84 | オオムラサキ | | |
| 85 | クロヒカゲモドキ | | |
| 86 | ホソバミツモンケンモン | | |
| 87 | ナマリキシタバ | | |

マダラナニワトンボ 絶滅(EX) EX-②, EX-③

Sympetrum maculatum Oguma, 1915

トンボ目 トンボ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：本州 国外分布：— 形態：腹長 21～24 mm。後翅長 23～27 mm。雌雄とも、成熟すると体色の黒味が強まる。 生息環境：平地や丘陵地にある、周囲を樹木に囲まれた水生植物が繁茂する遠浅のため池、開放水面がある湿原など。 その他：日本固有種。産卵場所として、秋季にため池の水が落とされた際に露出する、禾本科植物が疎生する緩斜面を必要とする。
生息・生育状況	本種の生息に適した池沼やため池は、県内広域にいくつか残存している。しかし、長年の探索にもかかわらず、過去 50 年近くにわたって再確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事など土地改変による生息環境の消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 管理放棄に起因する植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる幼虫への捕食圧。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。
特記事項	全国的に減少著しい種で、存続に関する研究者や愛好者の関心度は高い。また、特徴的な容姿をしているため、調査の際は認識しやすい。しかし、長年の探索にもかかわらず、過去 50 年近くにわたって再確認されていないため、「絶滅(EX)」に選定した。
産地情報	東広島市、安芸太田町、北広島町

澤野十蔵 1962. 広島県の蜻蛉第 2 報. 比和科学博物館研究報告, 5: 24-27.

水田國康 1971. 西条町の湿原の蝶と蜻蛉. 広島虫の会会報, 13: 1-5.

(坂本 充)

シオアメンボ 絶滅(EX) EX-③

Asclepios shiranui (Esaki, 1924)

カメムシ目 異翅亜目 アメンボ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：九州（佐賀県、長崎県）、対馬 国外分布：韓国 形態：体長 3.5～4.5 mm。体背面は光沢のない灰色～暗灰色で、頭部や胸背には暗黄褐色紋がある。 生息環境：波のほとんどない河口域や内湾の入り江、あるいは塩田跡地やその水路に生息する。長崎県の生息地では、波静かな内湾の最奥部において、干潮時に細く残される滞筋に多数が群れる様子がみられる。ウミアメンボ類の中ではもっとも海への適応度が低い。
生息・生育状況	広島市中区江波にあった養魚場で 1948 年に採集された例が唯一の記録であり、その後再発見されないまま、その生息地は消滅した。最後の生息確認から 70 年以上を経過しており、絶滅と判断した。ただし、芸予諸島を中心に未調査の島嶼が多く残されており、再発見される可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為による入り江、河口、自然海岸の改変（埋め立て、人工護岸化）にともなって、生息環境が悪化、減少している。
特記事項	最後の確認（1948 年）から 50 年以上を経過し、その間、沿岸部における種々の調査においても再発見されていない。
産地情報	広島市（中区）

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫・科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会, 神奈川.

(野崎達也)

ウミアメンボ 絶滅(EX) EX-③

Halobates japonicus Esaki, 1924

カメムシ目異翅亜目 アメンボ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州, 奄美(奄美大島, 喜界島), 沖縄(沖縄本島), 宮古(宮古島, 伊良部島), 八重山(石垣島, 小浜島, 西表島) 国外分布: ー 形態: 体長 4.3~5.5 mm。体はピロード状の灰黒色~灰白色を呈する。シロウミアメンボ <i>H. matsumurai</i> に似るが, 前脚附節の第1節が短く第2節とほぼ同長であることなどで区別できる。 生息環境: 沿岸性で, 波のほとんどない河口域や内湾の入り江等に生息し, とくに岩礁の魚つき林の周辺に多い。多産地では, 時に漁港等の人工環境でも見られ, 係留された船舶や栈橋などの日影部に散見される。
生息・生育状況	広島市中区江波にあった養魚場で 1935 年に採集された例が唯一の記録であり, その後再発見されないまま, その生息地は消滅した。最後の生息確認から 80 年以上を経過しており, 絶滅と判断した。ただし, 芸予諸島を中心に未調査の島嶼が多く残されており, 再発見される可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為による入り江, 河口, 自然海岸の改変(埋め立て, 人工護岸化)にともなって, 生息環境が悪化, 減少している。
特記事項	最後の確認(1935年)から 50 年以上を経過し, その間, 沿岸部における種々の調査においても再発見されていない。
産地情報	広島市(中区)

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫-科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会, 神奈川.

(野崎達也)

コバンムシ 絶滅(EX) EX-③

Ilyocoris cimicoides exclamationis (Scott, 1874)

カメムシ目異翅亜目 コバンムシ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 本州, 九州 国外分布: 韓国, 中国 形態: 体長 11.3~12.8 mm。体は扁平で小判型。生時には前胸背と前翅基部は鮮緑色を呈するが, 死後黄変する。 生息環境: 抽水植物やヒシ, ヒルムシロ等の浮葉植物が繁茂する自然度の高いため池に生息する。
生息・生育状況	旧芸北町八幡高原, および旧吉和村冠高原で 1960 年に採集された例が唯一の記録である。既産地を含め, 県内各所に生息に適したため池が存在するものの, 再確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ため池の統廃合や改修, 管理放棄などにより, 生息環境が悪化, 減少している。また, 外来種アメリカザリガニの侵入によって生じる水生植物の減少, 消失(摂食・切断)も, 生息環境の悪化の一因である。
特記事項	最後の確認(1960年)から 60 年以上を経過し, その間, ため池における種々の調査においても再発見されていない。なお, 2006 年に山口県から発見されたものの, その後の研究により国外移入である可能性が示唆されている。
産地情報	広島市(佐伯区), 廿日市市(吉和), 北広島町(芸北)

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫-科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会, 神奈川.

(野崎達也)

カワラハンミョウ 絶滅(EX) EX-②, EX-③

Chaetodera laetescrpta laetescrpta (Motschulsky, 1860)

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国，サハリン，シベリア南東部，モンゴル 形態：体長 14～17 mm。銅緑色の地に白斑をもつ大型のハンミョウ。白斑の大きさには変異がある。 生息環境：海岸の砂浜や砂質の河原。 その他：いくつかの亜種に分類されるが，広島県産は原名亜種に該当すると思われるが，標本を確認できていない。
生息・生育状況	可部町太田川河原では 1967 年 4 月 23 日に数頭を，八千代町土師ダムでは 1986 年 8 月 28 日に 1 個体を目撃したという記録があるだけで，その後まったく記録されていない。減少原因を探ることは困難だが，生息環境の維持には，洪水による攪乱など砂質の裸地を維持することが必要で，水害対策として河川の改修を行われたことで，全国的に内陸部の生息地は消滅している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川の改修やダム建設による砂質の河原の減少と海岸の砂浜の減少。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区），安芸高田市（八千代）

小阪敏和 1986. 広島県産甲虫ノート（10）. 広島虫の会会報, 25: 55-57.

大澤省三 1972. 広島県の甲虫雑記(4). 広島虫の会会報, 11: 11-13.

(秋山美文)

アオカタビロオサムシ 絶滅(EX) EX-②, EX-③

Calosoma cyanescens (Motschulsky, 1858)

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: なし

広島県 2011: EX

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：北海道，本州中部以北 国外分布：アジア大陸東部 形態：体長 18～25 mm。体は緑銅色の光沢をおびた黒色。クロカタビロオサムシに似るが，前胸背板は密に点刻されるが横じわ状ではないこと，後角はまるいことなどで区別できる。 生息環境：樹上性オサムシで，チョウ目の幼虫を捕食する。 その他：本州中部地方以北に分布するが，飛び離れて広島県でも記録がある。
生息・生育状況	1960～1961 年に灯火に飛来した 3 個体が知られるのみで，追加個体はまったく得られていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	他の分布地から飛び離れて分布しており，絶滅の要因を推測することは困難。
特記事項	—
産地情報	庄原市（高野）

岡本 巖・大澤省三 1967. 広島県の歩行虫類(第 1 報). 広島虫の会会報, 6: 21-29.

(秋山美文)

マルコガタノゲンゴロウ 絶滅(EX) EX-②, EX-③

Cybister lewisianus Sharp, 1873

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: CR

広島県 2011: EX

広島県 2003: EX

概要	国内分布：東北，北陸，関西，中国地方，九州 国外分布：朝鮮半島～インド北東部 形態：体長 21～26 mm。体型は厚みがある卵形。背面は暗緑色～暗褐色で，上翅・前胸背板の側縁と頭楯は淡黄色に縁取られる。ゲンゴロウ <i>C. chinensis</i> より小型。コガタノゲンゴロウ <i>C. tripunctatus</i> によく似るが，同種の腹面が黒褐色となるのに対し，本種は黄色となる。 生息環境：平地や丘陵地にある，抽水植物が繁茂する浅場があるため池。 唯一の既知生息地域である広島市においては，ハス田も主要な繁殖場所となっていたと推測される。
生息・生育状況	既知生息地域は，広島市に限られ，平地のため池，ハス田に少なからず生息していた。しかし，1949 年以降，現在まで 50 年以上にわたり再確認されていないため，「絶滅」と判断した。
存在を脅かす要因・保全の留意点	沿岸平野部での土地改変による生息環境の急激な消失。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	2011 年 4 月，環境省は「国内希少野生動物種」に指定。
産地情報	広島市

藤村俊彦 1957. 広島市江波町産昆虫目録, 86 pp. 自刊プリント, 広島.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

スジゲンゴロウ 絶滅(EX) EX-②, EX-③

Hydaticus satoi Wewalka, 1975

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: EX

広島県 2011: EX

広島県 2003: EX

概要	国内分布：本州（関東以西），四国，九州，屋久島，トカラ中ノ島 国外分布：台湾，中国，フィリピン，東南アジアの広域 形態：体長 12～14.5 mm。体型はやや長い卵形。背面黒色で，上翅側縁に沿って中央やや後方で癒合する 2 本の黄色の縦条斑がある。シマゲンゴロウ <i>H. bowringii</i> に似るが，同種が上翅前縁近くに左右 1 対の円形黄色紋をそなえるのに対し，本種はそれを欠き，上翅に縦条斑以外の斑紋を持たない。 生息環境：平地や丘陵地にある水田やハス田，水生植物が繁茂する浅場のあるため池など。
生息・生育状況	関東以西の広域に分布する普通種であったが，1950～60 年代に激減し，1970 年代以降，確認されていない。環境省が 2012 年に公表した第 4 次レッドリストで「絶滅」に選定された。 広島県においても，1960 年中頃の芦田川（芦田川）での記録以降，50 年以上にわたり確認されていないため，「絶滅(EX)」に選定した。
存在を脅かす要因・保全の留意点	沿岸平野部での土地改変による生息環境の急激な消失。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市（佐伯区），三原市，尾道市，福山市

大林一夫 1935. 尾道付近の龍蝨科目録. 博物（広島県尾道中学校博物学会）, 4(1): 11-13.

中村信吾 1981. 1963 年戸手商業高校生物部採集の芦田川産昆虫類, 広島虫の会会報, 20: 33-36.

(坂本 充)

ミヤマダイコクコガネ 絶滅(EX) EX-②

Copris pecuarius Lewis, 1884

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: EX

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: シベリア 形態: 体長 17~24 mm。ダイコクコガネよりやや小さい。ダイコクコガネよりも標高の高い山地に生息する。前胸角が角張るダイコクコガネに対し, 本種はまるくなることで区別できる。また, 頭楯前縁中央が湾入することや前胸背中央の縦溝が明瞭であることでも区別できる。 生息環境: 標高の高い場所にある放牧地。
生息・生育状況	吾妻山では牛の放牧をやめるとともに見られなくなった。比婆山や道後山でも放牧をやめているため生息の可能性はない。高野町では 1990 年代の記録があるが, 現在では生息の確認はできていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	牛の放牧が継続されても, 配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため, 種の保全のためには, 牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	庄原市 (西城, 東城, 高野, 比和)

中村慎吾 1966. 広島県産コガネムシ・ダイコクコガネ類. 比和科学博物館研究報告, 10: 7-10.

水田國康・小阪敏和・大澤省三 1972. 広島県産の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 11: 3-8.

(秋山美文)

シナノエンマコガネ 絶滅(EX) EX-②

Onthophagus bivertex Heyden, 1887

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: EX

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布: 北海道, 本州, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国, シベリア東部 形態: 体長 6~10 mm。体は黒く, 上翅は暗褐色。雄頭部に 1 対の後ろ向きの角がある。雌は頭楯に横じわ状の顆粒があり, 2 本の横隆起をもつ。横隆起は前方のものは弱い。 生息環境: 牛の放牧場などのオープンランド。
生息・生育状況	1976 年に宮島でシカ糞から採集された個体が最後の記録で, その後の記録はない。世羅町の記録もあるが, これは誤同定によるものである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	餌資源の枯渇が最大の要因である。
特記事項	—
産地情報	廿日市市 (宮島)

小阪敏和 1971. 広島県産甲虫ノート(5). 広島虫の会会報, 10: 7-10.

水田國康・小阪敏和・大澤省三 1972. 広島県産の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 11: 3-8.

(秋山美文)

フサヒゲルリカミキリ 絶滅(EX) EX-②

Agapanthia japonica Kano, 1933

コウチュウ目 カミキリムシ科

環境省: CR

広島県 2011: EX

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：北海道西南部，本州 国外分布：— 形態：体長 15～17 mm。青～紫色を帯びた黒色で，触角には長毛の束をもつ。 生息環境：ユウスゲの生育する草原。 その他：各地で減少し，国内で現在確実に生息しているのは岡山県のみである。
生息・生育状況	旧吉和村で 1952 年 7 月 24 日に採集された記録が唯一のもので，その後の調査でも再発見できていない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	ユウスゲが安定して生育する草原の維持が必要。
特記事項	—
産地情報	廿日市市（吉和）

平田信夫 1968. 広島県のカミキリムシ. 比婆科学, 77: 7-14.

山地 治・奥島雄一編 2008. 平田信夫カミキリムシコレクション. 倉敷市立自然史博物館収蔵資料目録, (13). 倉敷市立自然史博物館.

(秋山美文)

ヒメシロチョウ 絶滅(EX) EX-①

Leptidea amurensis (Menetries, 1858)

チョウ目 シロチョウ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：北海道，本州，九州 国外分布：アムール，朝鮮半島，中国 形態：前翅長 22～24 mm。薄い黄色を帯びた白色。前翅端に黒斑がある。エゾヒメシロチョウ <i>L. morsei</i> と似るが，翅型が尖り，黒斑の発達が強いで区別できる。 生息環境：ススキ・シバ草原。 その他：年 3 化。幼虫の食草はツルフジバカマ。
生息・生育状況	1994 年の春型を最後に，その後は確認されていない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	—
特記事項	1995 年にヒメシロチョウ保護管理計画策定のための現地調査が実施されたが，確認されなかった。さらに，ヒメシロチョウ保護管理計画に基づいて 1996～1997 年の 2 年間，生息地の保全と発生状況の調査が実施されたが，やはり確認されなかった。年 3 化であり比較的目に付きやすい種であるにもかかわらず，その後も現在まで確認されていないことから，本県ではすでに絶滅したものと判断した。県指定野生生物種。
産地情報	庄原市（高野）

中村慎吾 2001. 広島県の蝶 過去と現状. 277 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, p. 1877, 1922. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(亀山 剛・松田 賢)

ムモンアカシジミ 絶滅(EX) EX-③

Shirozua jonasi (Janson, 1877)

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: なし

広島県 2011: EX

広島県 2003: EX

概要	国内分布: 北海道, 奥尻島, 本州 (東北・北関東から岐阜県までの各県, 広島県) 国外分布: アムール, ウスリー, 朝鮮半島, 中国北部 形態: 前翅長 18~22 mm。やや赤みを帯びたオレンジ色。裏面には薄黒い帯がある。アカシジミ <i>Japonica lutea</i> に似るが, 地色がより赤みを帯び, 裏面に銀白色の帯がない。 生息環境: 夏緑広葉樹の二次林。 その他: 年1回, 7月下旬頃から発生する。幼虫はクサアリ亜属 <i>Dendrolasius</i> のアリ類と片利共生関係にあり, おもにカシワ, コナラ等のブナ科植物に寄生するアブラムシ類やカイガラムシ類を食べる。
生息・生育状況	1960年に戸河内町餅ノ木で採集されたのが唯一の記録で, それ以降確認されていないことから本県では絶滅したと考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	安芸太田町 (戸河内)

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌 [改訂増補版] IV, p. 1944. 比婆科学教育振興会, 庄原.

宮川和夫・清原武則 1961. 広島県下におけるムモンアカシジミの発見. 蝶と蛾, 12(1): 14.

(亀山 剛・松田 賢)

オオウラギンヒョウモン 絶滅(EX) EX-③

Fabriciana nerippe (C. & R. Felder, 1862)

チョウ目 タテハチョウ科

環境省: CR

広島県 2011: EX

広島県 2003: EX

概要	国内分布: 本州, 淡路島, 隠岐島, 四国, 九州 国外分布: 中国, 朝鮮半島 形態: 前翅長 33~42 mm。雌はとくに大型で, 日本産ヒョウモンチョウ類の最大種である。後翅裏面にウラギンヒョウモン <i>Fabriciana adippe</i> に似た銀白色の斑紋があるが, 外縁部の斑紋がハート型をしていることで区別できる。 生息環境: ススキ・シバ草原。 その他: 年1回, 6月下旬頃から発生する。幼虫の食草はスミレ類。
生息・生育状況	もともと個体数は少なかったと考えられるが, 1960年代までは沿岸部から中国山地まで県内各地に記録が残っている。全国的な減少に同調するように県内でも1970年代以降急速に減少し, すでに絶滅したものと考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	広島市 (西区, 安佐北区), 呉市 (呉), 尾道市, 福山市 (福山, 沼隈, 神辺), 府中市 (府中), 三次市 (三次, 三良坂), 庄原市 (庄原, 西城, 東城, 高野, 比和), 東広島市 (福富), 廿日市市 (廿日市, 吉和), 府中町, 安芸太田町 (戸河内), 北広島町 (芸北)

中村慎吾 2001. 広島県の蝶 過去と現状. 277 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌 [改訂増補版] IV, p. 1877, 1995. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(亀山 剛・松田 賢)

ウスイロヒョウモンモドキ 絶滅(EX) EX-①

Melitaea protomedia protomedia Menetries, 1858

チョウ目 タテハチョウ科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：本州（兵庫県，岡山県，広島県，鳥取県，島根県） 国外分布：中国北東部，朝鮮半島 形態：前翅長 19～23 mm。明るいオレンジ色の地色で，明瞭な黒紋が多くはいる。前翅裏面は明るい茶褐色，後翅裏面は明るい黄白色で，黒く細い帯と茶褐色の太い帯がはいる。ヒョウモンモドキ <i>M. scotosia</i> に似るが，ずっと小型である。 生息環境：ススキ・シバ草原。 その他：年 1 回，6 月下旬頃から 7 月にかけて発生する。幼虫の食草はオミナエシ，カノコソウ。
生息・生育状況	庄原市高野町で 1982 年に採集（淀江 未発表）されたのが最後で，それ以降は確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	県内では 1982 年を最後に 40 年近く記録が途絶えているうえ，1992・1993 年の 2 年間，広島県野生生物保護検討会が実施した調査においても確認されなかった。また，かつての生息地はいずれも遷移が進み，ススキ草原から落葉広葉樹二次林に遷移しており，生息は絶望的な状況にある。したがって，本県ではすでに絶滅したものと判断した。
産地情報	庄原市（西城，東城，高野，比和）

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, p. 1878-1879, 1976. 比婆科学教育振興会, 庄原.

矢後勝也・平井規央・神保宇嗣（編）2016. 日本産蝶類都道府県別レッドリスト-第四訂（2015 年版）-。やどりが特別号 日本産チョウ類の衰亡と保護 第 7 集, p. 280-284. 日本鱗翅学会, 東京.

（亀山 剛・松田 賢）

コバネアオイトトンボ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Lestes japonicus Selys, 1883

トンボ目 モノサシトンボ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国 形態：腹長 26～33 mm。後翅長 18～22 mm。アオイトトンボ <i>L. sponsa</i> とオオアオイトトンボ <i>L. temporalis</i> によく似るが，本種は雄雌ともに後頭部が黄白色となり，中胸後側板の緑色斑上部が第 2 側縫線に達しない点で区別できる。 生息環境：平地や丘陵地にある，カンガレイやクログワイなどの抽水植物が繁茂する浅場があるため池。
生息・生育状況	近年，確実な繁殖地は，東広島市の数か所に限られる。多産する生息地もあるが，いずれも土地改変されやすい平地や丘陵地にある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地改変による生息環境に劣化や消失。 改修や護岸整備などによる生息環境の劣化。 周辺樹木の伐採や管理不足に起因する植生遷移の進行による生息環境の劣化。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバス，ブルーギルによる幼虫の捕食圧。 ウシガエルによる成虫の捕食圧。
特記事項	—
産地情報	呉市，三原市，庄原市，東広島市，熊野町，北広島町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物（第 3 版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

（坂本 充）

ハネビロエゾトンボ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Somatochlora clavata Oguma, 1913

トンボ目 エゾトンボ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：韓国 形態：腹長 37～50 mm。後翅長 39～45 mm。エゾトンボ <i>S. viridiaenea</i> とタカネトンボ <i>S. uchidai</i> によく似るが，本種の雄の尾部上付属器は基部近くから厚みを増し，雌のくさび状の生殖弁の長さは幅の 2.5 倍に達して斜め下方に突き出る点で区別できる。 生息環境：丘陵地の湿原や樹林内の細流，谷戸の水田周辺の水路など。
生息・生育状況	いずれの生息地においても確認は単発的。安定して繁殖している生息地数は確認されていない，近年，確認例は少なく，2020 年 7 月に三原市大草で未成熟な雄 1 個体が確認されているに過ぎない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅，ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	呉市，三原市，三次市，庄原市，東広島市，江田島市

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

神垣健二・住岡昭彦 2018. 昆虫類. レッドデータブックくれー呉市の絶滅のおそれのある野生動植物(ひろしま自然の会編), p. 30-60. くれ環境市民の会, 呉.

(坂本 充)

ミヤジマトンボ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Orthetrum poecilops miyajimaensis Yuki & Doi, 1938

トンボ目 トンボ科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：宮島 国外分布：原亜種が中国大陸南西部沿岸と香港に分布 形態：腹長 30～36 mm。後翅長 34～37 mm。シオカラトンボ <i>O. albistylum speciosum</i> によく似るが，やや小型で，雄雌ともやや小型で腹部はより細く，成熟雄の腹部は灰青色となる点で区別できる。 生息環境：海と流路でつながり，満潮時の汽水プール化，干潮時の干潟の出現，後背森林からの淡水の常時流入，ヒトモトススキの繁茂，これらの条件をそなえた潮汐湿地。 その他：日本固有亜種。
生息・生育状況	生息地は，宮島南西部沿岸の 4 か所の潮汐湿地に限られる。1990 年代～2004 年に，大型台風の影響で生息環境が劣化し，発生個体数が減少した。2013 年からイノシシによるヒトモトススキの被害が急激に進行したが，全生息地に防獣柵を設置した結果，植生環境は順調に回復した。しかし，一部の生息地では，海砂が堆積して流路を遮断し，湿地内の水質劣化や汽水プールの常態化により，発生個体数が抑制されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	海砂の堆積による生息地の狭小化。 集中豪雨に起因する後背林の表層土壌崩落による生息地の狭小化や消失。 海砂堆積に起因する流路遮断による生息環境の劣化。 違法採集行為や悪質な侵入者の踏圧による幼虫への影響。 防獣柵内におけるヒトモトススキの過剰繁茂。 イノシシによるヒトモトススキの被害と踏圧による幼虫への影響。
特記事項	国際自然保護連合 (IUCN) は，「絶滅危惧 II 類(VU)」に選定。県特定野生生物種。 2005 年以降，「ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会」が保護活動を実施。
産地情報	廿日市市 (宮島)

坂本 充 2019. ミヤジマトンボの現状と生息域外保全. 昆虫と自然, 54(2): 8-11.

坂本 充 2019. ミヤジマトンボの生育状況と保全活動. 昆虫と自然, 50(3): 10-14.

(坂本 充)

ナニワトンボ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Sympetrum gracile Oguma, 1915

トンボ目 トンボ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：近畿・東海地方，中国・四国の瀬戸内海沿岸地域 国外分布：— 形態：腹長 19～24 mm。後翅長 23～26 mm。アカネ属 Gen. <i>Sympetrum</i> ではあるが，雄雌とも成熟しても体色が赤色に変化しない。成熟した雄は，胸部と腹部の全体に青白色の粉をまとう。 生息環境：平地や丘陵地にある，周囲を樹木に囲まれ，水生植物が繁茂するため池。 その他：日本固有種。産卵場所として，秋季にため池の水が落とされた際に露出する緩斜面を必要とする。
生息・生育状況	県内では賀茂台地と，それに続く沿岸平野部や島嶼部に分布する。しかし，近年，生息地の多くで再確認されていない。安定して繁殖が確認される生息地数は，明らかに減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	改修や護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 管理不足に起因する植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる幼虫への捕食圧。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。
特記事項	近年，生息が再確認できない既知生息地が増加していることを鑑みて，「絶滅危惧 II 類(VU)」からカテゴリーを変更した。
産地情報	広島市，呉市，三原市，尾道市，福山市，府中市，東広島市，大崎上島町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物(第3版)に掲載された昆虫類の確認記録(2018～2019). 比婆科学, 268: 31-37.

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

(坂本 充)

カワラバッタ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Eusphingonotus japonicus (Saussure, 1888)

バッタ目 バッタ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 25～43 mm。体色は濃淡のある灰青色。後翅基部は鮮やかな青色を呈し，その外縁は太い褐色帯に縁取られる。他種とは後翅基部の色で区別できる。 生息環境：河川中・下流域にある，堆積した川砂のうえに大小の転石が散在する河原。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	太田川下流の可部に，2004年まで本種を多産する河原があったが，2005年9月の出水による著しい環境変化や，その後の護岸整備工事により，2006年以降の継続調査にもかかわらず再確認されていない。近年，確認例はなく，絶滅が懸念される。ただし，太田川や江の川の中流域に残る小規模な河原に存続している可能性はある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川改修や護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市，大竹市，廿日市市，安芸高田市，安芸太田町

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕II, ORTHOPTERA バッタ目(直翅目), p. 217-260. 比婆科学教育振興会, 庄原.

昆虫類専門分科会 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版). 昆虫類, p. 124-237. 広島県, 広島.

(坂本 充)

タガメ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Kirkaldyia deyrolli (Vuillefroy, 1864)

カメムシ目異翅亜目 コオイムシ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	国内分布：北海道，本州，隠岐諸島，淡路島，四国，九州，対馬，奄美（奄美大島），沖縄（沖縄本島），宮古（宮古島），八重山（石垣島・西表島・与那国島） 国外分布：台湾，韓国，北朝鮮，中国，ロシア極東，東洋区 形態：体長 48～65 mm。体は長円形で扁平，体色は黄褐色で前脚は太く捕獲脚となる。体サイズにわずかな性差があり，雌は雄より一回り大きい。 生息環境：おもにため池や水田等の止水域に生息し，水田から水がなくなる秋には河川や水路などの緩流域も利用する。水面から突き出した杭や植物の茎に産卵し，雄が卵保護を行う。冬には，水際やその近くの林床の落葉下などで越冬する。
生息・生育状況	かつては県内に広く分布していたが，農薬汚染によって個体数，個体群が著しく減少した。その後も，開発行為やため池の統廃合，圃場整備等にもなって生息環境が悪化しており，減少傾向に歯止めがかかっていない。また，近年は，インターネット上で売買されるなど，採集圧も高まっている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	圃場整備，河川改修，ため池の統廃合や改修，ため池や水田の管理放棄，農薬散布による水質汚濁などにより，生息環境が悪化，減少している。また，売買目的での乱獲により，個体数が危機的水準まで減少する可能性がある。
特記事項	種の保存法が改正され，タガメが「特定第二種国内希少野生動植物種」に指定され，販売・頒布等を目的とした捕獲等，譲渡等，陳列・公告が原則禁止された。本施策が奏功し，乱獲による個体数減少の抑止となることが期待される。
産地情報	非公開

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫-科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会, 神奈川.

(野崎達也)

トゲナベブタムシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-⑤

Aphelocheirus nawae Nawa, 1905

カメムシ目異翅亜目 ナベブタムシ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州（岐阜県以西），九州 国外分布：韓国，北朝鮮，ロシア，カザフスタン 形態：体長 8.5～10 mm。体形はほぼ円形で扁平。ナベブタムシ <i>A. vittatus</i> に似るが，前胸背と腹節の側縁が後方に鋭く突出し，棘状を呈することなどで区別できる。 生息環境：プラスチック呼吸を行い一生水中で生活するため，溶存酸素の豊富な河川や水路に生息し，とくに砂礫河床の瀬を選好する。川底に浅く潜る。
生息・生育状況	南原川で 1976 年に採集された例が唯一の記録であり，その後再発見されないまま，ダム建設や河川改修による環境悪化が進んでいる。絶滅が懸念される一方，近年，島根県や兵庫県で農業用水路から再発見される事例が相次いでおり，本県においても未調査の細流から再発見される可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川や水路の改修，ダム建設などにより生息環境が悪化，減少している。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区）

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫-科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会, 神奈川.

(野崎達也)

イトアメンボ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-⑤

Hydrometra albolineata (Scott, 1874)

カメムシ目異翅亜目 イトアメンボ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，隠岐諸島，四国，九州，対馬，トカラ（中之島・宝島），奄美（奄美大島） 国外分布：韓国，中国，台湾 形態：体長 11.2～14 mm。体形は非常に細長く棒状で，複眼は長い頭部の中間より後方につく。通常短翅型であるが，まれに長翅型も出現する。同属他種とは，雄第 7 腹板に長毛を密生することで区別できる。 生息環境：湿地や湖沼（ため池），河川の緩流域，水田等に生息する。
生息・生育状況	本県における標本の残る確実な記録は，1981 年の三次市三良坂が最後である。近年，本種とされた多くの記録が誤同定であることが判明しており，著しく減少している可能性が高い。なお，県内各所に生息に適した湿地や湖沼（ため池），河川の緩流域，水田が存在するため，再確認される可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	圃場整備，河川改修，ため池の統廃合や改修，ため池や水田の管理放棄などにより，生息環境が悪化，減少している。
特記事項	近年の記録について，庄原市立比和自然科学博物館収蔵の標本（n=26）の再検討が行われ，すべてヒメイトアメンボ <i>H. procera</i> もしくはオキナワイトアメンボ <i>H. okinawana</i> の誤同定であることが判明している。その他の記録についても再検討が必要である。
産地情報	三次市（三良坂），廿日市市（吉和）

野崎達也・野崎陽子 2011. 庄原市立比和自然科学博物館所蔵のカメムシ目標本の再検討（1）. 比和科学博物館研究報告, 52: 13-21.

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

(野崎達也)

オヨギカタビロアメンボ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Xiphovelia japonica Esaki & Miyamoto, 1959

カメムシ目異翅亜目 カタビロアメンボ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州（東海地方以西），四国（徳島県），九州（福岡県），対馬 国外分布：— 形態：体長 1.5～2.2 mm。体形は雄で小判型，雌で菱形となる。通常短翅型であるが，まれに長翅型も出現する。体色は光沢のない黒色で，中胸背から腹部背面にかけて銀灰白色毛による斑紋を有する。 生息環境：ため池の流入部や河川の緩流域など，緩やかな流水面に群生する。
生息・生育状況	南原峡で 1963 年に採集された例が唯一の記録であり，その後再発見されないまま，ダム建設や河川改修による環境悪化が進んでいる。絶滅が懸念される一方，ため池の流入部や河川の緩流域といったごく小規模な水域に生息するため，県内各所に生息に適した環境が残されており，再発見される可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川改修，ため池の統廃合や改修，管理放棄などにより，生息環境が悪化，減少している。
特記事項	最後の確認（1963 年）から 50 年以上を経過しているが，生息環境が少なからず残されていること，隣県（岡山・山口・島根）からは近年の報告があることなどから，再発見される可能性がある。
産地情報	広島市（安佐北区），廿日市市（吉和），大崎上島町（東野）

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫-科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会，神奈川.

(野崎達也)

カワラゴミムシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-⑤

Omophron aequale aequale Morawitz, 1863

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島・ロシア極東地域・中国 形態：体長 6 mm 内外。半球形の体型で，黄褐色の地に黒紋をもつ。 生息環境：砂質の河原にすむ。
生息・生育状況	本県においては，1967 年の記録があるが，採集データは記されておらず，当時は普通種だったと思われる。しかし，その後まったく記録されていない。全国的にも減少しており，河川改修の影響で砂質の河原が減少したことが原因と考えられる。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	河川改修やダム建設による砂質の河原の減少，および砂の供給が減ったことによる植物の繁茂などが脅威になっている。
特記事項	—
産地情報	庄原市（庄原，高野）

岡本 巖・大澤省三 1967. 広島県の歩行虫類(第 1 報). 広島虫の会会報, 6: 21-29.

(秋山美文)

オオヒラタツクリゴミムシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-⑤

Brachyodes virens (Wiedemann, 1823)

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：東南アジア，フィリピン，インド，スリランカ 形態：体長 15~17 mm。体は紡錘形で平たく，黒色。上翅第 8 間室はきわめて幅狭く，前部は隆状となる。前胸背の基部凹陷は短い縦溝状。 生息環境：平地の草地や湿地。
生息・生育状況	府中市から 1968 年の記録があるのみで，他には記録がなく，現状は不明。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	全国的にも減少が激しいが，気がついたときにはすでにいなくなっていたため，保全が難しい。平地の草地環境は改変されやすく，詳細な生息調査が欠かせない。
特記事項	—
産地情報	府中市（府中）

岡本 巖・大澤省三 1968. 広島県の歩行虫類(第 2 報). 広島虫の会会報, 7: 29-31.

(秋山美文)

ツヤキベリアオゴミムシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-⑤

Chlaenius spoliatus motschulskyi Andrewes, 1927

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国 国外分布：朝鮮半島，中国 形態：体長 16 mm 前後。上翅は光沢のある緑銅色で，側縁は黄褐色。前胸背は幅広く，基方へ強く狭まり，後角前で波曲する。 生息環境：水辺の湿った草地にすむ。
生息・生育状況	本県では庄原市七塚原で 1966 年 12 月 18 日に採集された 1 頭の記録があるのみで，その後まったく採集されていない。全国的に記録が少なく，レッドデータブックで絶滅危惧種に選定している県も多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	水位の変動がある水辺環境が生息に適していると推測されており，ため池や河川の水害対策が施されると生息に適さなくなると考えられる。
特記事項	—
産地情報	庄原市（庄原）

岡本 巖・大澤省三 1967. 広島県の歩行虫類(第 1 報). 広島虫の会報, 6: 21-29.

(秋山美文)

キボシチビコツブゲンゴロウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Neohydrocoptus bivittis (Motschulsky, 1859)

コウチュウ目 コツブゲンゴロウ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州（茨城県，千葉県，静岡県，愛知県，三重県，京都府，奈良県，広島県），四国（香川県），九州（宮崎県，福岡県，宮崎県） 国外分布：中国，台湾，タイ，ミャンマー，ベトナム，インド 形態：体長 3~3.4 mm。体型はやや長い卵形。腹側は比較的平らで，背側は厚く盛り上がる。上翅は暗褐色～黒色。外縁は淡赤褐色に縁取られ，中央と後方で内方に突出する。また，会合線に平行な縁紋と同色の縦条斑がある。 生息環境：平地や丘陵地にある，水生植物が繁茂し，植物遺体が堆積した浅場があるため池。
生息・生育状況	東広島市西条町の鏡山公園周辺にある，一つのため池でのみ確認されていたが，2015 年に近接した下見でも発見された。いずれもガマやヒシなどの水生植物が繁茂した，富栄養なため池である。鏡山公園周辺では 2015~2020 年に再確認しているが，下見では再確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事などの土地改変による生息環境の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による浅場水域の陸地化。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	—
産地情報	東広島市

濱田将大・木谷昌喜・島添信一・井上大輔 2008. 東広島市の水生甲虫. 広島虫の会報, 47: 1-6.

小坂敏和 2004. 東広島市の甲虫類 (2) -水生の甲虫-. 広島虫の会報, 43: 19-22.

(坂本 充)

ムモンチビコツブゲンゴロウ

絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

環境省: VU

Neohydrocoptus sp.

広島県 2011: CR+EN

コウチュウ目 コツブゲンゴロウ科

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州（三重県、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、広島県）、四国（高知県）、九州（福岡県、宮崎県） 国外分布：不明 形態：体長 2.2 mm。体型は長卵形。腹側は比較的平らで、背側はやや盛り上がる。頭部および前胸背板は淡黄褐色。上翅は黄褐色で無紋。 生息環境：平地や丘陵地にある、水生植物が繁茂する浅場があるため池。
生息・生育状況	生息地域は、東広島市西条町の鏡山公園周辺に限られる。ガマやヒシなどの水生植物が繁茂し、その遺体が堆積した富栄養な一つのため池で確認されている。2015～2020年に数個体を再確認しているが、個体数は非常に少ない。キボシチビコツブゲンゴロウ <i>N. bivittis</i> と混生する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事など土地改変による生息地の消失。 改修や護岸整備による生息環境の劣悪化。 植生遷移の進行による浅場の陸地化。 生活排水や農薬の流入による水質の劣悪化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	—
産地情報	東広島市

濱田将大・木谷昌喜・島添信一・井上大輔 2008. 東広島市の水生甲虫. 広島虫の会会報, 47: 1-6.

(坂本 充)

コガタノゲンゴロウ

絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

環境省: VU

Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner, 1931

広島県 2011: CR+EN

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：本州、四国、九州、南西諸島 国外分布：朝鮮半島～中国、台湾 形態：体長 24～29 mm。体型は厚みがある卵形。背面は暗緑色～暗褐色で、上翅・前胸背板の側縁と頭楯は淡黄色に縁取られる。ゲンゴロウ <i>C. japonicus</i> より小型。マルコガタノゲンゴロウ <i>C. lewisianus</i> によく似るが、本種は腹面が暗褐色となる点で区別できる。 生息環境：平地や丘陵地にある、水生植物が繁茂するため池や水田脇の掘割など。
生息・生育状況	かつては沿岸平野部を中心とした広域に生息していたが、1990年代以降の記録はきわめて少なく、2005年11月の三原市久井における記録を最後に、確認は途絶えていた。ところが、2016年に廿日市市と安芸高田市で相次いで再発見され、その後、散發的ながら、県内の広域で確認されている。明らかに分布拡大の傾向にある。今後、定着する可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地改変による生息環境に劣化や消失。 改修や護岸整備などによる生息環境の劣化。 中干しや冬季乾田の励行による生息環境の劣化。 悪質な昆虫ペット業者による採集圧。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。
特記事項	—
産地情報	広島市、呉市、三原市、尾道市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸太田町、世羅町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

小池周司 2018. 三原市内でコガタノゲンゴロウを確認. 比婆科学, 262: 52.

(坂本 充)

ゲンゴロウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Cybister chinensis Motschulsky, 1854

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島～中国，台湾，シベリア 形態：体長 36～39 mm。体型は厚みがある卵形。背面は暗緑色～暗褐色で，上翅・前胸背板の側縁と頭楯は淡黄色に縁取られる。腹面は黄褐色。 生息環境：水生植物が繁茂するため池や湿地化した休耕田，水田周辺の掘割など。
生息・生育状況	かつては県内広域に普通に見られたが，1960年代頃に平野部から減少し始めた。広島県における減少は比較的緩やかで，1990年代には内陸部や島嶼部に多産地があった。しかし，2000年代になると著しく減少し始め，再確認できない既知生息地が急増した。現在，幼虫が発見される確実な繁殖地は，北広島町にあるハス・クワイ田および湿地化した休耕田など数か所が知られるのみ。北東部では非常にまれ。島嶼部では，近年，確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地改変による生息環境に劣化や消失。 改修や護岸整備などによる生息環境の劣化。 中干しや冬季乾田の励行による生息環境の劣化。 悪質な昆虫ペット業者による採集圧。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。
特記事項	2016年以降，広島市森林公園昆虫館が組織するボランティア団体が，北広島町芸北の湿地化した休耕田において，産卵植物の植栽・栽培と湿地環境の維持に取り組み，繁殖と新成虫の出現など，一定の成果を上げている。
産地情報	広島市，呉市，尾道市，福山市，府中市，三次市，庄原市，大竹市，東広島市，安芸高田市，北広島町，世羅町，神石高原町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

中村慎吾・喜田 賢 2010. 広島県庄原市西条町南部の昆虫, 2006年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, 51: 1-114.

(坂本 充)

マルガタゲンゴロウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Graphoderus adamsii (Clark, 1864)

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島～中国 形態：体長 12～14.5 mm。体型は厚みがある卵形。前胸背板の前・後縁に黒色帯紋がある。上翅は黒色の微細な網目状斑に覆われ，側縁は淡黄色に縁取られる。腹面は暗赤褐色。 生息環境：水生植物が繁茂するため池や水田周辺の掘割など。
生息・生育状況	かつては県内広域に分布していた。1960年代頃に減少し始め，1990年代には内陸部でしか確認されなくなった。2000年代以降の確認例はきわめて少ない。2015年および2020年に高野町の山中にあるため池で確認している。ゲンゴロウ <i>Cybister chinensis</i> よりまれな存在となっている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地改変による生息環境に劣化や消失。 改修や護岸整備などによる生息環境の劣化。 中干しや冬季乾田の励行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。
特記事項	—
産地情報	広島市，尾道市，三次市，庄原市，廿日市市，北広島町

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕II, COLEOPTERA コウチュウ目（鞘翅目）, p. 457-1273. 比婆科学教育振興会, 庄原.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

ヤギマルケシゲンゴロウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Hydrovatus yagii Kitayama, Mori & Matsui, 1993

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州（三重県，和歌山県，京都府，兵庫県），九州（福岡県），奄美大島，石垣島，西表島 国外分布：— 形態：体長 1.7～1.85 mm。体型は厚みがある卵形。頭部と前胸背板は黄褐色で，上翅は黄赤褐色。微小種ながら，近似種 チビマルケシゲンゴロウ <i>H. pumilus</i> は県内に分布しないため，同定は容易。 生息環境：平地や丘陵地にある，水田周辺の堀割や湿地化した休耕田。
生息・生育状況	2009 年に東広島市西条町御菌字で初めて確認された。低茎の湿生植物が繁茂する休耕田とその周辺の堀割に，マルケシゲンゴロウ <i>H. subtilis</i> ，コマルケシゲンゴロウ <i>H. acuminatus</i> と混生する。近隣の休耕田一か所でも数個体が得られている。2020 年にも再確認されている。現在まで新たな生息地は確認されていないため，同所は中国地方唯一の生息地となる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の拡幅工事や法面整備などによる生息環境の劣化や消失。 土地利用の再開による生息環境の消失。 農薬の流入による水質の劣化。 管理不足に起因する植生遷移の進行による湿地の陸地化。
特記事項	生息地は私有地内の一か所の休耕田に局限されるため，土地造成が実施されたり稲作や耕作が再開された場合，一気に絶滅する可能性が高い。
産地情報	東広島市

昆虫類専門分科会 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版). 昆虫類, p. 124-237. 広島県, 広島.

(坂本 充)

シャープツブゲンゴロウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Laccophilus sharpi Regimbart, 1889

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州，南西諸島 国外分布：朝鮮半島～中国，台湾 形態：体長 3.5～4.2 mm。体型はやや細長い卵形。背面は淡黄褐色で，上翅は暗褐色の波状縦条斑に覆われる。コウベツブゲンゴロウ <i>L. kobensis</i> に似るが，本種の方がやや大型で，上翅の縦条斑が明瞭である点で区別できる。 生息環境：配置や丘陵地にある，水生植物が繁茂するため池や湿地化した休耕田など。
生息・生育状況	2000 年頃まで，倉橋島や能美島など島嶼部に複数の多産地があり，同地域の優占種の一つだった。しかし，2000 年代半ばに著しく減少した。近年，いずれの生息地においても，再確認されていない。こうした減少過程は，他のゲンゴロウ類やミズスマシ類と共通している。減少の主要因の一つとして，ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とする農薬の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ミカン類の害虫駆除に使用される農薬の流入。 埋め立てや道路の敷設・拡幅にともなう生息地の消失。
特記事項	島嶼部では 2000 年当初まで多産していたにもかかわらず，急激に減少が進行し，近年，既知生息地においてまったく再確認されていないことを鑑みて，「絶滅危惧 II 類(VU)」からカテゴリーを変更した。沖縄県西表島でも 2010 年代にはいり，本種が所属するツブゲンゴロウ属 <i>Gen. Laccophilus</i> の激減を確認している。同所と広島県ではほぼ同様の殺虫効果を示す農薬が使用されていることから，本属はケシゲンゴロウ属 <i>Gen. Hyphydrus</i> やホソガムシ属 <i>Gen. Hydrochus</i> と同様に，とくに農薬に対する感受性が高いのではないかと推測される。
産地情報	呉市，三原市，尾道市，廿日市市，江田島市，大崎上島町

坂本 充 2000. 広島県産昆虫類の分布資料 (3) -倉橋島，江田島，能美島，上蒲刈島，下蒲刈島の水生甲虫類-. 比婆科学, 193: 1-14.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目，オサムシ上科)，比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

コムズスマシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Gyrinus curtus Motschulsky, 1866

コムチュウ目 ミズスマシ科

環境省: EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：中国 形態：体長 4.9～5.6 mm。背面は光沢のある黒色。ミズスマシ <i>G. japonicus</i> とヒメズスマシ <i>G. gestroi</i> に似るが，本種の体長は 5.6 mm 以下で，腹部第 2・3 節の基部が後基節に沿って強くくぼんでいない点で区別できる。 生息環境：水生植物が繁茂するため池や，河川のワンドなど。 その他：止水性種
生息・生育状況	県内の広域に局地的に分布する。本種を含むミズスマシ類の多くの種は，全国的に著しく減少している。本種の確認例のほとんどは 1990 年代までのもので，2000 年以降は 1 例しかない。こうした減少過程は，他のミズスマシ類やゲンゴロウ類と共通している。減少の主要因の一つとして，ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とするイネの箱苗殺虫殺菌剤の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事など土地改変による生息環境の消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる幼虫への捕食圧。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。
特記事項	既知生息地域には，生息に適した景観を保つため池が残されているにもかかわらず，長年にわたり再確認されないことを鑑み，「絶滅危惧 I 類(CR+EN)」に選定した。
産地情報	庄原市，東広島市，廿日市市

小坂敏和 2004. 東広島市の甲虫類 (2) . 広島虫の会会報, 42: 19-22.

秋山美文 1994. 広島県産甲虫の分布記録. 比和科学博物館研究報告, 32: 39-60.

(坂本 充)

ヒメズスマシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Gyrinus gestroi Regimbart, 1883

コムチュウ目 ミズスマシ科

環境省: EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 4.6～5.2 mm。背面は光沢のある黒色。ミズスマシ <i>G. japonicus</i> とコムズスマシ <i>G. curtus</i> に似るが，本種は体長が 5.2 mm 以下で，腹部第 2・3 節の基部が後基節に沿って強くくぼんでいる点で区別できる。 生息環境：水生植物が繁茂するため池。 その他：日本固有種。止水性種。
生息・生育状況	県内の既知生息地は一か所のみである。1995 年に庄原市高野町で確認されている。それ以降，確認例はない。本種を含むミズスマシ類の多くの種は，全国的に著しく減少している。本種の県内の過去の生息状況は不明ながら，すでに著しく減少したと推測される。減少の主要因の一つとして，ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とする農薬の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事など土地改変による生息環境の消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる幼虫への捕食圧。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。
特記事項	既知生息地域には，生息に適した景観を保つため池が残されているにもかかわらず，長年にわたり再確認されないことを鑑み，「絶滅危惧 I 類(CR+EN)」に選定した。
産地情報	庄原市

中根 猛・秋山美文・中村慎吾 1996. 比和町立科学博物館所蔵の甲虫標本. 比和科学博物館研究報告, 34: 141-170.

中村慎吾・若宮慎二・片山舜輔 1999. 広島県口和町と高野町の昆虫類. 比婆科学, 190: 1-143.

(坂本 充)

ツマキレオナガミズスマシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-⑤

Orectochilus agilis Sharp, 1884
 コウチュウ目 ミズスマシ科

環境省: VU
 広島県 2011: CR+EN
 広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：本州，九州 国外分布：— 形態：体長 6～7.2 mm。体型は長楕円形で，背面に強く膨隆する。背面は黒色で，全面に褐色の短毛を装う。オナガミズスマシ <i>O. regimbarti</i> とコオナガミズスマシ <i>O. punctipennis</i> に似るが，本種は上翅会合部の最先端が上翅側縁翅端の裁断部より内側に位置し，雄交尾器の中央片の側部に細毛をそなえる点で区別できる。 生息環境：河川上・中流域にある，岸辺にツルヨシなどが繁茂する緩流域。 その他：日本固有種。流水性種。
生息・生育状況	1950 年代の記録を最後に，以降，再確認されていない。絶滅の可能性は高いものの，河川上流域に存続している可能性はある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川改修や護岸整備などによる生息環境の改変や消失。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市

藤村俊彦 1957. 広島市江波町産昆虫目録, 86 pp. 自刊プリント, 広島.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

チュウブホソガムシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Hydrochus chubu Balfour-Browne & M. Sato, 1962
 コウチュウ目 ホソガムシ科

環境省: VU
 広島県 2011: CR+EN
 広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 2.4～2.5 mm。体型は細長く，頭部と前胸背板は粗い点刻をそなえる。体色は濃褐色で，緑～銅色の金属光沢がある。ヤマトホソガムシ <i>H. japonicus</i> によく似るが，本種は下唇基節中央に明瞭な円形のくぼみをそなえ，上翅の粗大点刻列の第 3・5・7・9 間室が隆状となる点で区別できる。 生息環境：平地や丘陵地にある，水生植物が繁茂した浅場があるため池。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	県内では 2004 年に西条町鏡山のため池で初めて発見された。2015 年に近隣の下見のため池でも確認された。2020 年に両地で再確認したが，鏡山のため池では植生遷移が著しく進行し，個体数は明らかに減少していた。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。 植生遷移の進行による浅場水域の陸地化。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	—
産地情報	東広島市

小坂敏和 2004. 東広島市の甲虫類 (2) -水生の甲虫-. 広島虫の会会報, 43: 19-22.

(坂本 充)

ヤマトホソガムシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Hydrochus japonicus Sharp, 1873

コウチュウ目 ホソガムシ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州，南西諸島 国外分布：中国，台湾～東南アジア広域 形態：体長 2.6～3.1 mm。体型は細長く，頭部と前胸背板は粗い点刻をそなえる。体色は濃褐色で，かすかな緑～銅色の金属光沢がある。チュウブホソガムシ <i>H. chubu</i> に似るが，本種は下唇基節中央がわずかにへこむ程度で，上翅の粗大点刻列の第 5 間室のみが隆状となる点で区別できる。 生息環境：湿性植物が繁茂し，植物遺体が多く堆積した水田脇の掘割や湿地化した休耕田など。
生息・生育状況	生息地域は神石高原町に限られ，高光，油木，草木，大谷で確認されている。湿地化した休耕田や水田周辺の掘割に生息しているが，個体数は少ない。2015・2020 年の大谷での調査では再確認できなかった。2018 年に高光で再確認されていることから，同所では小個体群が存続していると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による湿地の陸地化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	かつては普通種だったが，全国の生息地で著しく減少している。多産していた沖縄県西表島においても，2010 年以降，激減し，現在ではまれな種となっている。同島と広島県内では同じ農薬が使用されていることから，本属はツブゲンゴロウ属 <i>Gen.Laccophilus</i> やケンゲンゴロウ属 <i>Gen.Hyphidrus</i> と同様に，とくに農薬に対する感受性が高いのではないかと推測される。
産地情報	神石高原町

秋山美文 2018. 神石郡の甲虫類 (17) . 広島虫の会会報, 57: 39-42.

秋山美文 1995. 広島県産甲虫の分布記録 (3) . 比和科学博物館研究報告, 33: 163-176.

(坂本 充)

コガタガムシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Hydrophilus bilineatus cashimirensis Redtenbacher, 1844

コウチュウ目 ガムシ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州，南西諸島 国外分布：台湾，中国，東南アジア，カシミール，インド，スリランカ 形態：体長 23～28 mm。頭部，前胸背板，上翅は光沢のある黒～黒褐色。ガムシ <i>H. acuminatus</i> に似るが，本種はやや小型で，後胸突起の先端が腹部第 4 節に達する点で区別できる。 生息環境：水生植物が繁茂するため池や湿地化した休耕田。
生息・生育状況	県内における確認例は非常に少なく，生息地域は吾妻山と帝釈峽に限られる。近年，確認例はなく，絶滅が懸念される。ただし，2012 年に兵庫県西播磨地方で発見されていることから，県内においても再確認される可能性はある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地改変による生息環境に劣化や消失。 改修や護岸整備などによる生息環境の劣化。 中干しや冬季乾田の励行による生息環境の劣化。 悪質な昆虫ベッタ業者による採集圧。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。
特記事項	—
産地情報	庄原市

稲谷吉則・大庭伸也 2012. 兵庫県西播磨地方にてコガタガムシを採集. きべりはむし, 35 (1) : 13-14.

中村慎吾 1988. 広島県帝釈峽の昆虫類. 帝釈峽の自然 帝釈峽総合学術調査報告, p. 411-448. 「帝釈峽の自然」刊行会, 庄原.

(坂本 充)

ダイコクコガネ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②

Copris ochus Motschulsky, 1860

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国 形態：体長 18～34 mm。黒色で，雄には頭部と前胸に角がある。ミヤマダイコクコガネとは，前胸前角が裁断されて角張ること，前胸背板中央の縦溝は不明瞭なことで区別できる。 生息環境：放牧地の牛糞のある環境。
生息・生育状況	旧豊松村の記録は 1940 年のもので，現在生息の可能性はない。高野町では 2000 年頃まで見られたが，放牧をやめるとともに見られなくなった。周辺の牛の飼育場で生き残っている可能性はあるが，生息の確認はできていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	庄原市（高野，比和），神石高原町（豊松）

水田國康 1987. 1987 年備北のフン虫. 広島虫の会雑報, 48: 7-9.

中村慎吾 1966. 広島県産コガネムシ・クワガタムシ類. 比和科学博物館研究報告, 10: 7-10.

(秋山美文)

ナガスネエンマコガネ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②, CR+EN-⑤

Onthophagus ohbayashii Nomura, 1939

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：中国 形態：体長 5～8.5 mm。黒色で，上翅肩部に赤褐色紋を現すこともある。雄前脛節は細長く，湾曲する。 生息環境：放牧地の牛糞に集まる。
生息・生育状況	庄原市と神石高原町の生息地はともに牛の放牧地であったが，1988 年以降確認できていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	庄原市（庄原），神石高原町（油木）

城戸 毅 1979. 庄原市七塚原と比婆郡吾妻山の糞虫. 広島虫の会会報, 18: 11-14.

水田國康・小阪敏和・大澤省三 1972. 広島県産の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 11: 3-8.

(秋山美文)

セマルヒメドロムシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②

Cleptelmis parvula (Nomura & Baba, 1961)

コウチュウ目 ヒメドロムシ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，九州 国外分布：— 形態：体長 1.5～1.6 mm。体型は円盤状のレモン果実様。体厚は中央がやや盛り上がる。頭部，前胸背板，上翅は光沢のある黒～黒褐色。上翅外方の前後に 1 対の暗黄色斑紋をそなえる。 生息環境：河川上・中流域にある，岸边や中洲の流路沿いにツルヨシなどが繁茂する緩流域。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	県内では 2002 年に高野町高暮で初めて発見された。その後，2008・2009 年に北広島町西八幡原の柴木川とその支流で確認された。いずれも生息範囲はごく狭く，個体数は少ない。他所にも生息していると推測されるが，微小なため，発見は困難である。河川改修や浚渫などによりツルヨシ群落が消滅した場合，容易に局所絶滅すると考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川改修や浚渫，護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 農薬の流入による水質の劣悪化。
特記事項	河川改修や浚渫などによりツルヨシ群落が消滅した場合，容易に地域絶滅すると考えられる。
産地情報	庄原市，北広島町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門委員会編），p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

秋山美文 2003. 広島県産甲虫の分布記録（7），比和科学博物館研究報告, 42: 45-59.

(坂本 充)

クロマダラタマムシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②, CR+EN-⑤

Nipponobuprestis querceti (E. Saunders, 1873)

コウチュウ目 タマムシ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：関東以西の本州，四国，九州 国外分布：中国 形態：体長 17～28 mm。同属のアオマダラタマムシに似るが，上翅のまるい凹陷紋がないこと，上翅側縁の鋸歯は弱いことで区別できる。 生息環境：平地のエノキの大木を交える林。
生息・生育状況	尾道市で 1930 年頃の記録があるのみで，90 年近く記録はなく，現在の生息状況はわからない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	暖地の林は人里に近く，人為的な影響を受けやすい。
特記事項	—
産地情報	尾道市（尾道）

大林一夫 1933. 尾道付近産甲虫類目録. 博物, 3(1): 1-21. 広島縣立尾道中學校博物學會.

(秋山美文)

ヤマトオサムシダマシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②, CR+EN-⑤

Blaps japonensis japonensis Marseul, 1879

コウチュウ目 ゴミムシダマシ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: 中国, 台湾 形態: 体長 22 mm 内外の大型のゴミムシダマシ。触角先端 4 節は算盤玉状で赤褐色の軟毛に覆われる。生息環境: 古い納屋や大きな河川の橋脚の下など乾燥した環境に生息する。 その他: 古い時代の外来種とする考えもある。
生息・生育状況	1970 年 8 月 25 日に呉市石内で農家の庭先で干した麦に集まっていた個体が採集された記録があるのみで、その後の記録はない。古い納屋や古民家の床下, 橋脚の下などで得られているが, 特殊な環境のため生息地は減少していくことが予想される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息環境の消失。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉)

小阪敏和 1970. 広島県産甲虫ノート(4). 広島虫の会会報, 9: 5-9.

(秋山美文)

ツマキトラカミキリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②, CR+EN-⑤

Xylotrechus clarinus Bates, 1884

コウチュウ目 カミキリムシ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国 国外分布: アジア極東地域, 千島列島 形態: 体長 10~20 mm。翅端は狭く汚黄褐色で, その前の黒紋はまるい。生息環境: 温帯樹林帯上部で伐採木に集まる。
生息・生育状況	1970 年前後の, 大規模伐採が行われていた時代に採集された記録があるのみで, 近年の記録はない。愛好者が多いカミキリムシ科であるにもかかわらず, 採集されていないことから減少傾向にあるものと推測されるが, 詳細は不明である。分布西限である山口県 RDB では, 絶滅とされている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息に好適な環境が減少したと考えられるが, 詳細は不明。
特記事項	—
産地情報	廿日市市 (吉和), 安芸太田町 (戸河内)

中村慎吾・本多英文 1966. 広島県三段峡のカミキリムシ. 比和科学博物館研究報告, 10: 3-6.

小阪敏和 1970. 広島県産甲虫ノート(4). 広島虫の会会報, 9: 5-9.

(秋山美文)

シロオビトラカミキリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-⑤

Clytus raddensis Pic, 1904

コウチュウ目 カミキリムシ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州 国外分布: 朝鮮半島, 中国北東部, ロシア極東地域 形態: 体長 8~13.5 mm。シラケトラカミキリ <i>C. melaeus</i> によく似るが, 前胸は光沢がなく, 平坦であること, 翅端外角が尖らないことなどで区別できる。 生息環境: 温帯樹林帯上部で伐採木に集まる。
生息・生育状況	1960年代の記録があるのみで, 近年の記録はない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	近年の記録がなく, 西中国山地で大規模伐採が行われていた時代の記録なので, 自然林の伐採により減少した可能性がある。
特記事項	—
産地情報	尾道市(瀬戸田), 北広島町(芸北)

中村慎吾・小阪敏和 1970. 広島県産のカミキリムシ. 比和科学博物館研究報告, 13: 5-16.

(秋山美文)

ヒメビロウドカミキリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-⑤

Acalolepta degener degener (Bates, 1873)

コウチュウ目 カミキリムシ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布: 本州, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国 形態: 体長 9~14 mm。赤褐色で頭頂と前胸背は密に点刻される。体全体に黄褐色毛を密生するが, 上翅では白色毛を斑状に装う。 生息環境: オトコヨモギの群落がある草原。
生息・生育状況	広島県では, 旧芸北町雲月山で 1962年7月に採集された記録が唯一で, 以降の記録はない。全国的には新しい産地が見つかる例もあるので, 河川敷など小規模なオトコヨモギの群落でも生息している可能性はある。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	県外では, 河川敷などでの生息例もあるが, そうした場所では生息地の改変がされやすい。植生遷移により, 生息に適した環境が失われることが懸念される。
特記事項	—
産地情報	北広島町(芸北)

小島圭三・林 匡夫 1969. 原色日本昆虫生態図鑑 1 カミキリ編. 302 pp. 保育社, 大阪.

(秋山美文)

アサカミキリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-⑤

Thyestilla gebleri (Faldermann, 1835)

コウチュウ目 カミキリムシ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，サハリン，東シベリア，中国，モンゴル 形態：体長 10～15 mm。体は黒く，前胸背板正中部と両側，上翅側縁と会合部に白条をもつ。 生息環境：栽培のアサを食草としていたが，アザミ類に食性転換をした個体群が複数見つかっている。
生息・生育状況	アサの栽培が禁止されて以降，非常にまれな種となっている。一部でアザミ類に食性転換した個体群が見つかっているが，本県ではそうした個体群は発見されていない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	アザミ類を食べている個体群が生存しているならば，産地の重点的な保存が必要である。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉），廿日市市（吉和）

大林一夫 1934. 広島県産天牛科目録. 広島昆虫同好會會誌, 1(2): 28-35.

(秋山美文)

ツノアカヤマアリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-⑤

Formica fukaii Wheeler, 1914

ハチ目 アリ科

環境省: DD

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州（西限は広島県道後山） 国外分布：サハリン，中央アジア 形態：働きアリの体長は 4.5～6.5 mm。頭部と胸部，腹柄節は黄赤褐色で，頭部上方と前胸背頂部はやや暗色，腹部は黒色である。頭部後縁が明瞭に窪むことから，他の赤色系ヤマアリ属から容易に区別される。 生息環境：疎林や草原などの比較的開けた環境を好み，枯草などを集めて小規模な塚を作る。
生息・生育状況	1939 年 6 月に庄原市西城町の道後山で採集された 3 個体が唯一の記録である。これをもとに，2015 年と 2018 年に道後山周辺で現地調査を実施したが，生息は確認されなかった。庄原市北部の中国山地脊梁部周辺で疎林や草地環境を目安に探索すれば，再発見される可能性は残されている。なお，隣県の岡山県真庭市では近年も生息情報がある。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	北方系の種で本県が国内分布の西南限であり，もともと生息範囲や個体群サイズがきわめて小規模であったと考えられる。そのため，近年の地球温暖化の影響により，分布限界が縮退（北上）しつつある可能性がある。
特記事項	—
産地情報	庄原市（西城）

寺山 守・久保田敏・江口克之 2014. 日本産アリ類図鑑, p. 186-187. 朝倉書店, 東京.

安松京三 1941. ツノアカヤマアリの新産地. むし, 14: 39.

(亀山 剛)

ホシチャバネセセリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Aeromachus inachus inachus (Menetries, 1858)

チョウ目 セセリチョウ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 対馬 国外分布: 台湾, 中国, 朝鮮半島, ロシア沿海州 形態: 前翅長 10~11 mm。やや暗い黒褐色の地色で, 前翅には汚白黄色の小紋がはいる。裏面はやや明るい褐色の地色で汚白色の帯と小紋がはいる。 生息環境: ススキ・シバ草原。 その他: 年 1 回, 7~8 月に発生する。幼虫の食草はオオアブラススキなど。
生息・生育状況	もともと個体数は少なかったと考えられるが, 中国山地を中心に 1990 年代までは各地に記録が残っている。その後, 2000 年代以降はいずれの生息地からもほとんど確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	草原や雑木林などの管理の質的低下による生息環境の劣化・消失により, 全国的に減少している。県内でも状況は同じと考えられるが, 地味な小型種で見逃されやすいという側面がある。保全にあたっては, 改めて県内の生息状況の調査が望まれる。
特記事項	—
産地情報	福山市 (福山, 新市), 府中市, 庄原市 (西城, 高野, 比和), 大竹市, 廿日市市 (吉和), 安芸太田町, 北広島町 (芸北, 大朝, 千代田, 豊平), 神石高原町

中村慎吾 2001. 広島県の蝶 過去と現状. 277 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌 [改訂増補版] IV, p. 1880, 1890. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(亀山 剛・松田 賢)

カシワアカシジミ(キタアカシジミ)冠高原亜種 絶滅危惧 I 類(CR+EN)

CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Japonica onoi mizobei Saigusa, 1993

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布: 本州 (広島県, 山口県) 国外分布: — 形態: 前翅長 20~25 mm。やや暗い赤褐色の地色で, 前・後翅とも黒く縁取られ, さらに後翅の下端には黒小紋がはいる。裏面はやや暗い赤褐色の地色で, 前・後翅とも細い銀白帯がはいり, 翅端はオレンジ色の帯と黒小紋がはいる。以上の特徴はアカシジミ <i>J. lutea</i> と共通であるが, 本種ではより大型であること, 裏面の銀白帯の銀色光沢が弱いことなどで, 概ね区別可能である (ただし, 正確には交尾器の検鏡が必要)。 生息環境: 夏緑広葉樹 (カシワ) の二次林。 その他: 年 1 回, 6 月下旬頃から発生する。食樹はカシワ。
生息・生育状況	現地調査では 2017 年と 2018 年に個体数は少ないものの生息を確認した。
存在を脅かす要因・保全の留意点	きわめて狭い範囲のカシワ林に依存しており, 人為的要因により生息地が改変される可能性が高い。2000 年代にはいつてアカシジミとの交雑による遺伝的攪乱が指摘されているが, 少なくとも近年は生息地内でアカシジミを確認していない。毎年成虫の発生期には他県からも多数の採集者が訪れ, 捕獲圧が無視できない状況下にあったが, 2020 年に種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」に指定され, 無許可での採集は禁止となった。
特記事項	環境省 RL2020 に準拠し, 和名「カシワアカシジミ (キタアカシジミ) 冠高原亜種」に変更した。
産地情報	廿日市市 (吉和)

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2012~2017) . 比婆科学, 263: 33-35.

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2018~2019) . 比婆科学, 268: 31-37.

(亀山 剛)

クロシジミ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Niphanda fusca (Bremer & Grey, 1852)

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：本州，四国，九州，対馬 国外分布：朝鮮半島，中国，ロシア（ウスリー，アムール） 形態：前翅長 20～22 mm。翅表は青みがかった灰黒色の地色で，雄は紫色の鈍い光沢が全体に現れ，雌は暗化するが個体により白青色の鱗粉を装い，さらに白色の鱗粉が発達するものもある。翅裏は灰黒色～明るい灰色まで変異が大きく，黒斑列がある。 生息環境：ススキ・シバ草原，疎林。 その他：成虫は年 1 回，6 月下旬頃から発生し 8 月頃までみられる。幼虫は若齢期はアブラムシ類の分泌物を食べ，成長後クロオオアリの巣に運ばれてアリから給餌を受けて育ち，巣内で越冬，翌春に蛹化，羽化し，アリの巣から脱出する。
生息・生育状況	県東部，北部を中心に記録があるが，2000 年代以降，継続的に発生が確認できる生息地は 1 か所（戸河内の深入山）のみである。深入山での 2015～2019 年の調査によると，成虫の出現時期はおもに 7 月で，出現期間は 3 週間程度，日あたり確認個体数は多い年でも 10 個体未満である（上手・松田・上野ほか 2018，松田ほか 未発表）。
存在を脅かす要因・保全の留意点	現在の生息状況では，採集圧が脅威となる。また生息環境である落葉広葉樹・アカマツなどの疎林やススキ型の二次草原は，定期的な火入れや草刈りにより維持され続けてきたため，将来にわたり管理行為を継続していく取り組みが重要となる。
特記事項	安芸太田町では，西中国山地国定公園特別地域内等の町有地への希少な昆虫類の採集目的での立ち入りを禁止する掲示を行い，宿泊観光施設・NPO 団体などが連携・協力し，啓発している。
産地情報	安芸太田町（戸河内）

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, p. 1871-1884, 1961-1962. 比婆科学教育振興会, 庄原.

上手新一・松田 賢・上野吉雄・岩見潤治・本宮宏美・本宮芳太郎・中村康弘 2018. 広島県安芸太田町深入山における希少チョウ類 5 種の生息状況. 高原の自然史, 18: 79-88.

(松田 賢)

キマダラルリツバメ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Spindasis takanonis (Matsumura, 1906)

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：本州（岩手県～広島県） 国外分布：朝鮮半島，中国大陸西部 形態：前翅長 13～17 mm。翅表は雄では青紫色の光沢が広く現れ，外縁は黒く縁取られる。翅裏は淡い黄色の地色で，中央に細い銀色の線のある黒条斑が数本発達する。後翅の肛角部には，表裏ともに橙色斑があり，2 本の尾状突起を備える。 生息環境：落葉広葉樹林の二次林，疎林。 その他：成虫は年 1 回，6～7 月頃にみられる。幼虫は，サクラやマツ，ナラ類などの古木や腐朽部に営巣する樹上性のハリプトシリアゲアリから給餌を受けて育ち，アリには蜜線から分泌物を与える。アリの巣内で越冬，翌春に巣の内外で蛹化・羽化する。
生息・生育状況	発生が確認できる生息地は 1 か所（戸河内の深入山）のみであるが，近年，成虫が確認されない年もあり，危機的な状況とみられる。最近の調査では 2015 年以降，成虫が確認されたのは 2017 年のみである（上手・松田・上野ほか 2018，および私信 2020）。
存在を脅かす要因・保全の留意点	植生遷移などの生息環境の変化に加え，採集圧が脅威である。生息環境である落葉広葉樹，アカマツなどの疎林やススキ型の二次草原は，定期的な山焼きや草刈りにより維持され続けてきたため，将来にわたり管理行為を継続していく取り組みが重要となる。
特記事項	安芸太田町では，西中国山地国定公園特別地域内等の町有地への希少な昆虫類の採集目的での立ち入りを禁止する掲示を行い，宿泊観光施設・NPO 団体などが連携・協力し，啓発している。
産地情報	安芸太田町（戸河内）

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, p. 1871-1884, 1939. 比婆科学教育振興会, 庄原.

上手新一・松田 賢・上野吉雄・岩見潤治・本宮宏美・本宮芳太郎・中村康弘 2018. 広島県安芸太田町深入山における希少チョウ類 5 種の生息状況. 高原の自然史, 18: 79-88.

(松田 賢)

シルビアシジミ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Zizina emelina (de l'Orza, 1869)

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：本州，淡路島，隠岐島，四国，九州，対馬，壱岐，五島列島，種子島 国外分布：朝鮮半島南部，中国西部など 形態：前翅長 10～12 mm。表面は明るい青灰色から黒灰色まで地色の変異が大きく，外縁部は黒くなる。裏面は白色～灰色の地色に小黒紋がはいる。ヤマトシジミ <i>Z. maha</i> に似るが，後翅裏面の中央やや外縁寄りに弧状に並ぶ小黒点の前縁近くのひとつが内側にずれることで区別できる。 生息環境：ススキ・シバ草原。 その他：4月～11月にかけて年4～5回発生する。食草はミヤコグサ類，コマツナギなど。
生息・生育状況	県内各地に記録が散見されるが，1990年代までにほとんどの生息地が消滅していると考えられる。2000年以降では，2003年に宮島と，2016年に安芸太田町の2例のみである。2019～2020年にかけて，過去に記録のある広島市安佐北区，呉市，三次市，庄原市高野町の産地を中心に現地調査を実施したが，いずれもミヤコグサは生育するものの本種の生息は確認できなかった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	食草のミヤコグサ（セイヨウミヤコグサを含む）が生育する低茎草地の減少が要因と考えられるが，山口県や岡山県などの隣県と比較しても，本県における著しい減少は説明が付かず不明な点が多い。本種の保全にあたっては，河川堤防，水田，ため池の法面などにおける除草管理を継続し，ミヤコグサ群落を維持することが重要である。
特記事項	環境省 RL2020 に準拠し，和名「シルビアシジミ」，学名「 <i>Zizina emelina</i> (de l'Orza, 1869)」に変更した。
産地情報	広島市（安佐北区），呉市，福山市，府中市，三次市，庄原市（高野），東広島市，廿日市市（宮島）

神垣健司 2016. 広島県におけるシルビアシジミの新産地. 月刊むし, 550: 33.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, p. 2009-2010. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(亀山 剛)

ゴマシジミ中国地方・九州亜種 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Phengaris teleius daisensis (Matsumura, 1926)

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州（岡山県，広島県，鳥取県，島根県），九州（大分県，熊本県，宮崎県） 国外分布：— 形態：前翅長 18～24 mm。翅表は明るい灰青色の地色が鮮やかで，外縁部に黒帯，翅中央外寄りに黒斑列がよく発達するが，個体差も大きい。翅裏は白色～灰色の地に黒色の斑点列があり，雌の地色は暗化する傾向がある。他の亜種に比べ，一般に大型。 生息環境：ススキ・シバ草原。 その他：日本固有亜種。別亜種が北海道，東北と，本州中部に生息する。成虫は年1回，8月頃発生。ワレモコウ類の花蕾に産卵し，幼虫は花穂に食い入り，老齢となると花から脱出してクシケアリ属の巣に運ばれ，アリの幼虫を食べて育つ。
生息・生育状況	記録のある生息地のうち，2016年以降では庄原市（高野），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北）で継続的に発生が確認されているが，生息箇所数，確認個体数は少なく，確認範囲も限定的である。戸河内，芸北での最近の調査では，成虫の確認期間は12～25日間程度，日あたり確認個体数は最大10個体程度である（上手・松田・上野ほか 2018，上野・上手・本宮ほか 2019，松田ほか 未発表）。
存在を脅かす要因・保全の留意点	圃場整備等による畦畔植生の改変，草地の維持管理の頻度低下や放棄による植生遷移の進行に加え，採集圧が脅威となる。生息環境であるススキ型の二次草原は，定期的な火入れや草刈りにより維持され続けてきたため，将来にわたり管理行為を継続していく取り組みが重要となる。また寄主となるワレモコウ，クシケアリ属は湿った土壌を好むことから，土地の乾燥化にともなう悪影響も懸念される。
特記事項	北広島町では，生物多様性の保全に関する条例に基づき，地域を定めて採集行為等が禁止されている。安芸太田町では，西中国山地国定公園特別地域内等の町有地への希少な昆虫類の採集目的での立ち入りを禁止する掲示を行い，宿泊観光施設・NPO 団体などが連携，協力し，啓発している。
産地情報	庄原市（高野），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北）

進藤真基・千田喜博・中村慎吾・原田樹雄・藤田浩司 2017. 第77回特別展展示解説 広島県のチョウ，その多様性と現状. 14 pp. 庄原市立比和自然科学博物館, 庄原.

上野吉雄・上手新一・本宮芳太郎・本宮宏美・中村康弘 2019. 広島県北広島町雲月山におけるゴマシジミの生息状況. 高原の自然史, 19: 5-8.

(松田 賢)

ヒョウモンモドキ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Melitaea scotosia Butler, 1878

チョウ目 タテハチョウ科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：本州（福島県，群馬県，茨城県，富山県，長野県，岐阜県，愛知県，山梨県，兵庫県，岡山県，広島県，鳥取県，島根県，山口県） 国外分布：中国大陸，朝鮮半島 形態：前翅長 26～29 mm。翅の表面は，橙色の地色に黒～濃褐色の半月状あるいは線状の斑紋が複雑に並ぶ。裏面上翅は赤褐色，後翅の大部分は黄白色で，表面と同様に黒～濃褐色の斑紋が散在する。ウスイロヒョウモンモドキ <i>M. protomedia</i> に似るが，本種の方が明らかに大きいため，容易に区別できる。 生息環境：湧水湿地や湿地化した休耕田，それら周辺の草原。 その他：食草はキセルアザミとタムラソウ。成虫のおもな吸蜜源はノアザミ。
生息・生育状況	県内の広域に分布していた。1970年代から各地で局所絶滅が進行し，2004年以降，生息域は世羅台地のみとなった。2020年現在，約30か所の生息地が人為により維持されている。2007年以降，発生状況はやや安定傾向にあるが，植生遷移の進行や気候変動の影響により，一気に減少に転じる可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 管理不足に起因する植生遷移の進行による生息環境の劣化。 悪質な昆虫売買者による違法な採集圧。 管理不足に起因する植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 集中豪雨や豪雪，顕著な長雨や暖冬など気候変動による影響。 集中豪雨に起因する土砂流入による生息環境の劣化や消失。
特記事項	2001年に有志による「ヒョウモンモドキ保護の会」が発足し，保護活動が始まる。2011年に環境省が「国内希少野生動植物種」に指定。2012年に広島県・三原市・世羅町・地域住民・協賛団体・専門家などで構成される「ヒョウモンモドキ保全地域協議会」が発足。環境省による「地域生物多様性保全活動支援事業」の援助を得ながら保護活動を展開している。国内希少野生動植物種。
産地情報	呉市，三原市，福山市，三次市，庄原市，東広島市，廿日市市，安芸高田市，安芸太田町，北広島町，世羅町，神石高原町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2012～2017）. 比婆科学, 263: 33-357. (坂本 充)

ウラジャノメ本州亜種 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Lopinga achine achinoides (Butler, 1878)

チョウ目 タテハチョウ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	国内分布：本州（東北地方，中部地方，中国地方） 国外分布：— 形態：前翅長 26～29 mm。表面はやや暗い褐色の地色で，黒紋がはいる。裏面はやや明るい褐色の地色で，汚白色の帯と蛇の目状の黒紋がはいる。 生息環境：県内の生息環境は，溪谷沿いと山頂部に分けられる。溪谷沿いでは崖，岩場，露頭，がれ場など，山頂部では夏緑広葉樹林の林床。 その他：年1回，溪谷沿いでは6月，山頂部では7月を中心に発生する。幼虫の食草は溪谷沿いではホソバヒカゲスゲ，山頂部ではニシノホンモンジスゲ。
生息・生育状況	1990年代以降，いずれの生息地においても個体数が減少したとされるが，とくに山頂部の生息地では近年，生息が確認されていない。溪谷沿いの生息地では個体数は少ないものの2017年に廿日市吉和で確認されたほか，2018年には三段峡，奥三段峡でも生息の情報が得られた。
存在を脅かす要因・保全の留意点	山頂部における減少の原因は植生遷移や採集圧などが考えられるが詳細は不明である。溪谷沿いでは道路や遊歩道の拡幅や落石防止のためのコンクリート吹き付けなどが発生地の消滅に繋がるため，生息地付近で工事を実施する場合は，十分な現地調査に基づく食草の生育環境の保全が重要である。
特記事項	—
産地情報	廿日市市（吉和），安芸太田町（戸河内）

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2012～2017）. 比婆科学, 263: 33-35.

渡辺一雄 1993. 中国山地における氷期の依存種ウラジャノメその特異性と現状と保護. やどりが特別号 日本産チョウ類の衰亡と保護 第2集, p. 111-124. 日本鱗翅学会, 東京.

(亀山 剛)

ミヤマサナエ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Anisogomphus maacki (Selys, 1872)

トンボ目 サナエトンボ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: 中国, 中国東北部, 朝鮮半島, アムール, イルクーツク 形態: 腹長 39~41 mm。後翅長 31~33 mm。ナゴヤサナエ <i>Stylurus nagoyanus</i> に似るが, 本種は腹部 7~10 節の腹面が黒色となる点で区別できる。 生息環境: 河川中・下流域にある, 河床に砂泥が堆積した緩流域。
生息・生育状況	県内の広域に分布する。2020 年 8 月に広島市安佐南区権現山の山頂で確認した。幼虫は系流域から河川中流域へと長距離を流下しながら成長するため, 集中豪雨による出水や, その後の浚渫など復旧整備の影響を受けやすい。近年の確認例はきわめて少なく, 減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫, 護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。 生活排水や産業排水, 農薬などの流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 福山市, 府中市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 安芸太田町, 北広島町, 神石高原町

坂本 充 2014. 北広島町の昆虫類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議, 編), p. 353-500. 北広島町教育委員会. 北広島町.
福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

(坂本 充)

ナゴヤサナエ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Stylurus nagoyanus (Asahina, 1951)

トンボ目 サナエトンボ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: — 形態: 腹長 42~47 mm。後翅長 33~37 mm。メガネサナエ属 <i>Gen.Stylurus</i> では, 本種だけが広島県に分布する。ミヤマサナエ <i>Anisogomphus maacki</i> に似るが, 本種は腹部 7~10 節の腹面が黄色となる点で区別できる。 生息環境: 河川下流域にある, 川床に砂泥が堆積した緩流域や周辺の用水路など。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	特異な分布様式を示し, 県内にける生息域は芦田川の下流域に局限される。年変動はあるが, 毎年, 発生が確認されている。2020 年も多数の羽化殻が確認された。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫, 護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。 生活排水や産業排水の流入, 有機物の過剰な堆積などによる水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	福山市

細澤豪志 2008. 芦田川におけるナゴヤサナエの羽化消長. 比婆科学, 227: 17-21.

細澤豪志・平木寿一 2009. ナゴヤサナエの羽化失敗例. 比婆科学, 231: 46-48.

(坂本 充)

ヒロシマサナエ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Davidius moiwanus sawanoi Asahina & Inoue, 1973

トンボ目 サナエトンボ科

環境省：なし

広島県 2011：VU

広島県 2003：VU

概要	国内分布：鳥取県，岡山県，島根県，広島県 国外分布：— 形態：腹長 29～32 mm。後翅長 24～28 mm。モイワサナエ <i>D. moiwanus moiwanus</i> の亜種で，岡山県に分布する別亜種ヒラサナエ <i>D. m. taruii</i> に似るが，本種の大顎基部には黄色斑があり，雄の尾部上付属器の先端が上方に反らない点で区別できる。 生息環境：周囲を木立に囲まれた，細流をとこなう中間湿原。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	県内の分布は2地域に局限される。北広島町八幡高原には広域に多数のメタ個体群が存在する。しかし，乾燥化がすすんでいる湿原もあり，減少が緩やかに進行しているおそれがある。一方，庄原市北部の湿原は狭く，個体群のサイズは小さい。同湿原の上端には，すでに道路が敷設されている。今後，周辺で森林伐採や道路の拡幅工事などが行われた場合，貴重な隔離個体群が一気に局所絶滅する可能性が高い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事など土地改変による生息環境の劣化や消失。 森林伐採や植生遷移の進行などによる生息環境の劣化。 悪質な昆虫愛好家による採集圧。
特記事項	—
産地情報	庄原市，北広島町

神垣敬子・神垣健司 1999. 広島県産トンボ類の調査報告（1999年）. 広島虫の会会報, 38: 7-13.

神垣敬子・神垣健司 2000. 広島県産トンボ類の調査報告（2000年）. 広島虫の会会報, 39: 29-34.

(坂本 充)

オグマサナエ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Trigomphus ogumai Asahina, 1949

トンボ目 サナエトンボ科

環境省：NT

広島県 2011：VU

広島県 2003：なし

概要	国内分布：静岡県，岐阜県，福井県以西の本州，四国，九州 国外分布：— 形態：腹長 33～36 mm。後翅長 27～30 mm。コサナエ属 <i>Gen. Trigomphus</i> の他種に似るが，本種は前肩条を有すとともに，雄尾部付属器背面に突起があり，雌生殖弁は深く切れ込むが左右に開かないなどの点で区別できる。 生息環境：平地～丘陵地にある，周囲を樹木で囲まれた開放的なため池。
生息・生育状況	特異な分布様式を示し，県内にける生息域は沼隈半島とその周辺に限られる。2020年に複数のため池で多くの個体を確認した。同地域の丘陵地には，生息に適したため池が多く残されており，本種の存続を支えている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事など土地改変による生息地の消失。 護岸整備による生息環境の劣悪化。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる幼虫への捕食圧。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。
特記事項	—
産地情報	福山市，庄原市

中村慎吾・金沢成三 2010. 庄原市立比和自然科学博物館に収蔵された小川光昭氏氏採集広島県産昆虫標本. 庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告, 10: 1-44.

神垣敬子・神垣健司 2000. 広島県産トンボ類の調査報告（2000年）. 広島虫の会会報, 39: 29-34.

(坂本 充)

ネアカヨシヤンマ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Aeschnophlebia anisoptera Selys, 1883

トンボ目 ヤンマ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：中国中部 形態：腹長 54～63 mm。後翅長 46～54 mm。腹部第3節はくびれず，円筒形となる。翅の基部に明瞭な橙色斑がある。 生息環境：臨海部にある，アシやガマが繁茂する浅いため池や湿地化した休耕田など。
生息・生育状況	既知生息地は，沿岸部や島嶼部に多い。近年，島嶼部で本種を多産していた複数の湿地が，土地改変や道路の拡幅，ソーラーパネルの設置などによって消失した。緩やかな減少傾向にあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市，福山市，東広島市，大崎上島町

神垣敬子・神垣健司 2000. 広島県産トンボ類の調査報告（2000年）. 広島虫の会会報, 39: 29-34.

原 隆・安立隆昌 2000. 広島県大崎上島のトンボ相について. 比婆科学, 194: 35-45.

(坂本 充)

キイロヤマトンボ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Macromia daimoji Okumura, 1949

トンボ目 エゾトンボ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，九州 国外分布：朝鮮半島南部 形態：腹長 54～64 mm。後翅長 44～52 mm。黒地に黄斑をもつ。コヤマトンボ <i>M. amphigena</i> に似るが，本種は腹部第3節側面の黄色斑が背面側と覆面側に分離している点で区別できる。 生息環境：河川中流域にある，川床に砂が堆積した緩流域。
生息・生育状況	県内の広域に，局地的に分布する。沼田川や芦田川，三篠川などの生息環境は，近年多発している集中豪雨による河川の出水と，その後の復旧工事などにより大きく劣化した。広島市安佐北区の三篠川の生息地では，2018年の豪雨災害後，再確認されていない。県下全域で，緩やかな減少傾向にあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫，護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。 生活排水や産業排水，農薬などの流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市，福山市，三次市，庄原市，東広島市，安芸高田市，安芸太田町

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会，東広島.

小坂一章 2008. 江の川水系馬洗川流域のキイロヤマトンボ，山口の虫, 7: 70-78.

(坂本 充)

ハッチョウトンボ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Nannophya pygmaea Rambur, 1842

トンボ目 トンボ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: 東アジア 形態: 腹長 10~14 mm。後翅長 13~16 mm。雄は地色が橙黄色で, 成熟すると赤化する。雌は黄褐色で縞模様がある。 生息環境: 丘陵地や低山地にある, 湧水湿地や中間湿原, 湿地化した休耕田など。
生息・生育状況	島嶼部から内陸の山間部に至る広域に分布する。生息地の数は少なくないが, そのほとんどが恒久性が脆弱な湿地化した休耕田である。土地改変のほか, 植生遷移の進行や, 長期の渇水・高温など気候変動の影響により, 緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事, ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化や消失。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 三原市, 府中市, 三次市, 庄原市, 大竹市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 江田島市, 府中町, 熊野町, 坂町, 北広島町, 世羅町, 神石高原町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物 (第3版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2018~2019). 比婆科学, 268: 31-37.

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

(坂本 充)

ヤマトマダラバッタ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①

Aiolopus japonicus (Shiraki, 1910)

バッタ目 バッタ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島 形態: 体長 30~35 mm。体色は淡褐色で, 暗褐色の斑紋を散在する。本種の後翅の基部は淡青色となり, この点で他種と容易に区別できる。 生息環境: ハマゴウ, ハマヒルガオ, コウボウムギなどが疎生する, 粒子が細かい海砂からなる海浜。
生息・生育状況	生息地域は, 廿日市市宮島の臨海部に局限される。ハマゴウ, ハマヒルガオ, コウボウムギなどが疎生する砂浜海岸に生息し, ほぼ全周にわたって分布している。土地改変が法律によって禁止されているため, 全体的には安定して発生している。しかし, 南西部の一部の生息地では, 海砂の堆積や波の浸食により海浜地形が不安定に変容するため, 個体数の緩やかな減少が認められる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	大型台風と高潮による生息環境の劣化や消失。 潮流の変化による生息環境の劣化。
特記事項	宮島個体群は孤立しており, 一部の地域においてははあるが, 明らかに減少傾向にあることを鑑みて, 「準絶滅危惧(NT)」からカテゴリーを変更した。
産地情報	廿日市市

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物 (第3版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2018~2019). 比婆科学, 268: 31-37.

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物 (第3版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2012~2017). 比婆科学, 263: 33-35.

(坂本 充)

ハマズ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Dianemobius csikii (Bolivar, 1901)

バッタ目 ヒバリモドキ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州, 南西諸島 (徳之島以北) 国外分布: 朝鮮半島, 中国北部, 台湾 形態: 体長 6.7~7.4 mm。体色は淡黄褐色で, 暗褐色の小斑紋が散在する。 生息環境: 粒子が細かい海砂からなる海浜や, 川砂のうえに大小の転石が散在する河原など。 その他: 雄はジー・ジー…と区切って鳴く。
生息・生育状況	既知生息地域は廿日市市宮島の砂浜海岸と, 広島市安佐北区可部町の太田川河川敷に限られる。宮島の既知生息地の一部では, 海砂の堆積や波の浸食により海浜地形が不安定に変容するため, 緩やかな減少が認められる。可部町の太田川河川敷では, 2005年9月の出水や, その後の護岸整備工事の影響により, 2006年以降の継続調査にもかかわらず再確認されていない。局所絶滅が懸念されるが, 上流域の小規模な河原に存続している可能性はある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	大型台風と高潮による生息環境の劣化や消失。 潮流の変化による生息環境の劣化。 河川改修や護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。
特記事項	2か所しかない既知生息地のうち, 非常に貴重だった可部町太田川河川敷の個体群が絶滅した可能性が高い状況を鑑みて, 「準絶滅危惧(NT)」からカテゴリーを変更した。
産地情報	広島市, 廿日市市

岡本 巖 1981. 広島県コオロギ類. 広島虫の会会報, 20: 1-9.

(坂本 充)

ミゾナシミズムシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Cymatia apparens (Distant, 1911)

カメムシ目異翅亜目 ミズムシ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国 (徳島県), 九州 国外分布: 韓国, 中国, ロシア極東, インド, 東洋区 形態: 体長 5~5.9 mm。一見するとコミズムシ類 (<i>Sigara</i> 属) に似るが, 下唇の横条を欠くほか, 前脚附節が細長い指状となり, その先端に顕著な爪を備えることなどで区別できる。 生息環境: 湖沼 (ため池) など安定した止水域に生息するものの, 生息密度は一般に低い。
生息・生育状況	向島町で 1977 年に記録された例が唯一であり, その後再発見されていない。ただし, 県内各所に生息に適した環境が残されていることから, 再確認される可能性が高い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ため池の統廃合や改修, 管理放棄などにより, 生息環境が悪化, 減少している。
特記事項	詳細な生態は明らかになっていないが, 捕食性が強いとされている。
産地情報	尾道市 (向島)

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫-科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会, 神奈川.

(野崎達也)

ナガミズムシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Hesperocorixa mandshurica (Jaczewski, 1924)

カメムシ目異翅亜目 ミズムシ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州（近畿地方以西）、四国、九州 国外分布：北朝鮮、中国、ロシア極東 形態：体長 9～11.3 mm。同属の他種とは、体形がやや細長いこと、腹面が濃黄色を呈すること、後胸腹面の剣状突起が短く横長の菱形を呈することなどで区別できる。 生息環境：湖沼（ため池）に生息し、時に使用されていない期間のプール等で見つかることもある。
生息・生育状況	志和町で 2010 年に採集された例が唯一の記録である。本県においては、大型ミズムシ類（ <i>Hesperocorixa</i> 属）の中でもっとも個体数が少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ため池の統廃合や改修、管理放棄などにより、生息環境が悪化、減少している。
特記事項	1991 年に大竹市で採集・記録された個体は、再検討の結果ハラグロコミズムシ <i>Sigara nigroventralis</i> の誤同定であることが判明している。
産地情報	東広島市（志和）

野崎達也・野崎陽子 2011. 庄原市立比和自然科学博物館所蔵のカメムシ目標本の再検討 (1). 比和科学博物館研究報告, 52: 13-21.

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

(野崎達也)

シロウミアメンボ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Halobates matsumurai Esaki, 1924

カメムシ目異翅亜目 アメンボ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州、九州 国外分布：韓国、中国、台湾 形態：体長 5.5～6 mm。体はビロード状の白色～灰色を呈する。ウミアメンボ <i>H. japonicus</i> に似るが、前脚跗節の第 1 節が第 2 節より顕著に長いことなどで区別できる。 生息環境：沿岸性で、波のほとんどない河口域や内湾の入り江等に生息し、とくに岩礁の魚つき林の周辺に多い。多産地では、時に漁港等の人工環境でも見られ、係留された船舶や栈橋などの日影部に散見される。
生息・生育状況	広島市中区江波の生息地は消滅したが、近年、島嶼部からの発見が相次いでいる。未調査の島嶼も多く残されていることから、新たな産地が発見される可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為による入り江、河口、自然海岸の改変（埋め立て、人工護岸化）にともなって、生息環境が悪化、減少している。
特記事項	—
産地情報	広島市（中区）、呉市（倉橋）、東広島市（安芸津）、廿日市市（宮島）

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫-科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会, 神奈川.

(野崎達也)

フクロクヨコバイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Glossocratus fukuroki (Matsumura, 1905)

カメムシ目 頸吻亜目 ヨコバイ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：－ 形態：体長は雄で8～9 mm，雌で14 mm。大型のヨコバイ類で，とくに雌は頭部が著しく突出する特異な形態を有する。雄は長翅型，雌は短翅型となる。 生息環境：ススキに依存して生息するため，生息環境は多く存在する。しかし，雌が短翅型で飛翔能力がなく，分散能力がきわめて低いため，長期間安定的に維持されたススキ草地が不可欠である。
生息・生育状況	呉市灰ヶ峰で1965年に記録されて以降，再確認されていなかったが，2010年に北広島町雲月山で確認された。さらに，2019年には広島・島根県境の大万木山（島根県側）においても確認されており，県北の山地域に点在する草原環境に少なからず生息している可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為にともなう二次草地（ススキ草地）の改変，管理放棄などにより，生息環境が悪化，減少している。
特記事項	－
産地情報	呉市（呉），北広島町（芸北）

野崎達也・野崎陽子 2013. フクロクヨコバイ *Glossocratus fukuroki* (Matsumura) の雲月山における採集記録. 高原の自然史, 15: 83.

林 成多・野崎達也・片岡大輔・大對桂一 (2021) 大万木山におけるカメムシ類調査 (2018・2019年). ホシザキグリーン財団研究報告, 24: 43-59.

(野崎達也)

ゴミアシナガサシガメ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Myiophanes tipulina Reuter, 1881

カメムシ目 異翅亜目 サシガメ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，伊豆（三宅島），佐渡島，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国，オーストラリア 形態：体長16～17 mm。一見するとガガンボ類に似た細長く華奢な体形をしており，淡褐色地に褐色斑を装う。体表には長毛をそなえ，とくに脚部を中心とした長毛にはごみを付着させる特異な生態を有する。 生息環境：農山村の人家周辺に生息する。古い木造家屋から発見されることが多く，灯火にも飛来する。
生息・生育状況	広島市および呉市では，1937年の記録以降生息が確認されておらず，絶滅した可能性が高い。庄原市と世羅町では，農家周辺に生息している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	典型的な里山依存種と考えられ，古い家屋の減少が個体数減少の一要因である可能性が高い。
特記事項	－
産地情報	広島市，呉市，庄原市，世羅町

(野崎達也)

ルイスハンミョウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Cicindela lewisi lewisi Bates, 1873

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州中部以西，四国，九州 国外分布：朝鮮半島・中国北部 形態：体長 15～18 mm。褐色を帯びた黒色で，黄白斑があるが，色彩変異がある。 生息環境：砂浜海岸。
生息・生育状況	本県の生息地は，小さな砂浜海岸がいくつか存在し，それぞれの産地での個体数はそれほど多くない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	生息地の面積が小さいため，人の立ち入りや改変，高波などによる影響を受けやすい。
特記事項	—
産地情報	廿日市市（宮島）

中村慎吾・秋山美文・寺田勝幸 1993. 広島県のオサムシ類. 比和科学博物館研究報告, 31: 1-42.

大澤省三 1972. 広島県の甲虫雑記(4). 広島虫の会会報, 11: 11-13.

(秋山美文)

ホソハンミョウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Cylindera gracilis Pallas, 1777

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国北東部，シベリア 形態：体長 10～12 mm。細身で小型のハンミョウで黒色の体に小さな白斑をもつ。 生息環境：芝生草原や草丈の低い草原，裸地などで見られるがきわめて局所的。 その他：後翅はあるが，飛翔はしないようである。行動や形がアリによく似ており，地面を素早く歩き回る。
生息・生育状況	2か所の墓地では継続的に観察されているが，個体数は減少傾向である。墓地であるため，砂利を入れるなどの改変により生息面積が狭められている。芝生草原の2か所では，それぞれ1頭のみの記録であり，現状は不明である。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	墓地の整備や，芝生草原の植生遷移により影響を受けやすい。
特記事項	—
産地情報	安芸太田町（戸河内），神石高原町（神石，豊松）

秋山美文 1984. 神石郡の甲虫類（1）. 広島虫の会会報, 23: 13-17.

秋山美文 2013. 深入山周辺で採集した甲虫の記録. 広島虫の会会報, 52: 40.

(秋山美文)

クチキゴミムシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Morion japonicum (Bates, 1883)

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：北海道，本州，九州，屋久島，沖縄本島 国外分布：— 形態：体長 14～17 mm。光沢のある黒色で，側縁は平行に近く，扁平な体型をしている。 生息環境：自然度の高い照葉樹林に生息する。 その他：南方系の種で，全国的にまれである。
生息・生育状況	個体数は少ないが，生息環境は安定している。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	生息地は安定しているので，現在の生息地を守るが必要で，朽ち木を安易に伐採しないことが大切である。
特記事項	—
産地情報	廿日市市（宮島）

村上貴望 1977. 広島県産甲虫 3 種. 広島虫の会会報, 15: 8.

小阪敏和 1994. 広島県産甲虫ノート(14). 広島虫の会会報, 33: 11-15.

(秋山美文)

クロモンヒラナガゴミムシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Hexagonia insignis (Bates, 1883)

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：台湾 形態：体長 8 mm 内外。体は扁平で黒色，上翅前半は赤褐色，後半に大きな水滴型の黒紋がある。 生息環境：ススキ草原やアシ原。
生息・生育状況	1967 年に灯火に飛来した 1 頭の報告しかなく，現状は不明である。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	採集当時の環境は現地に残されていないと思われ，他の場所で確認されたらその周辺の環境を維持することが必要。
特記事項	—
産地情報	広島市（西区）

岡本 巖・大澤省三 1967. 広島県の歩行虫類(第 1 報). 広島虫の会会報, 6: 21-29.

(秋山美文)

クビボソコガシラミズムシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Haliplus japonicus Sharp, 1873

コウチュウ目 コガシラミズムシ科

環境省: DD

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：中国，ロシア 形態：体長 2.7～3.3 mm。体型は卵形。ヒメコガシラミズムシ属 <i>Gen. Haliplus</i> の他種に似るが，本種は頭部が暗赤褐色を帯び，前胸腹板突起の先端中央が鋭く角ばるなどの点で区別できる。 生息環境：水生植物が繁茂するため池や水田周辺の掘割，湿地化した休耕田など。 その他：成虫は動物質を，幼虫は糸状の藻類を食べる。
生息・生育状況	確認例は少なく，既知生息地は数か所に限られる。掘割や河川敷の定常的なたまり水，湿地化した休耕田などの生息環境が，土地改変や出水によって失われ，農薬の流入や植生遷移の進行などによって劣化し続けていることから，減少傾向にあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫，護岸整備などによる生息環境の消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	尾道市，東広島市，神石高原町

小坂敏和 2004. 東広島市の甲虫類 (2) . 広島虫の会会報, 43: 19-22.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

ムツボシツヤコツブゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Canthydrus politus (Sharp, 1873)

コウチュウ目 コツブゲンゴロウ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：中国 形態：体長 2.4～2.6 mm。体型は卵形。背面に向けて著しく盛り上がる。頭部，前胸背板は光沢のある黄色。上翅は光沢のある黒色～黒褐色の地色に黄色斑紋をそなえるが，その大きさや個数は多様に変異する。 生息環境：平地や丘陵地にある，水生植物が繁茂する浅場があるため池。
生息・生育状況	既知生息地域は賀茂台地に限られる。いずれの生息地も人里近くに位置しているため，土地造成や耕作地化により消失した。残存する生息地で確認される個体数も，過去と比較して明らかに少ない。近年，新たな生息地は確認されていないことから，明らかに減少傾向にあると推測される。近年の著しい減少の主要因の一つとして，ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とする農薬の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	宅地造成や道路の敷設，ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の消失。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	生息するため池の消失や埋め立てによる狭小化，残存する生息地における確認個体数の明らかな減少，これらの事態を鑑みて，「準絶滅危惧(NT)」からカテゴリーを変更した。
産地情報	呉市，福山市，東広島市

小坂敏和 2004. 東広島市の甲虫類 (2) -水生の甲虫-. 広島虫の会会報, 43: 19-22.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

キボシケンゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Allopachria flavomaculata (Kamiya, 1938)

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: DD

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州，対馬，種子島，屋久島 国外分布：中国 形態：体長 2.5 mm 前後。体型は厚みがある円に近い短卵形。頭部は黄色。前胸背板と上翅は黒～暗褐色。左右の上翅に大中小の淡黄色紋をそれぞれ 1 対ずつそなえる。 生息環境：河川上～下流にある，ツルヨシなどが茂る緩流域。
生息・生育状況	確認例は少ない。既知生息地は，安芸太田町戸河内の滝山川と大竹市防鹿の小瀬川に限られる。2020 年に小瀬川で再確認された。もともと個体数が少ないため，生息の現状把握は困難であるが，近年多発する河川の出水やその後の復旧工事により，減少傾向にあると推測される。減少の主要因の一つとして，ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とするイネの箱苗殺虫殺菌剤の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫，護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。 生活排水や産業排水，農薬などの流入による水質の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	近年，集中豪雨による激しい増水が河川の河床構造を一気に破壊してしまう事態が多発していることを鑑み，「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」に選定した。
産地情報	大竹市，安芸太田町

(坂本 充)

ケンゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Hyphydrus japonicus Sharp, 1873

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州，対馬，南西諸島（沖永良部島以北） 国外分布：朝鮮半島，中国，ロシア極東部。 形態：体長 4～5 mm 前後。体型は厚みがある短卵形。頭部は黄褐色で，複眼間に微小な黒点を 1 対そなえる。上翅の地色は黄色で，大きく複雑な黒から暗褐色斑に覆われる。ヒメケンゲンゴロウ <i>H. laeiventris</i> に似るが，本種は前胸背板の前縁が黒色に縁取られずに黄褐色を呈す点で区別できる。 生息環境：平地から丘陵地にある，水生植物が繁茂するため池。
生息・生育状況	島嶼部から内陸の山間部に至る広域に分布する。生息地数は少なくないが，ほとんどの既知生息地で再確認できない。確実に確認できる安定した生息地数，個体数とも，近年，著しく減少している。減少の主要因の一つとして，ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とする農薬の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣悪化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 生活排水や農薬の流入による水質の劣悪化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	本種が残存しているのは，イネやミカン類の殺虫殺菌に使用される農薬が流入しにくい場所にある池沼やため池に限られる。本属はツブゲンゴロウ属 <i>Gen.Laccophilus</i> やホソガムシ属 <i>Gen.Hydrochus</i> と同様に，とくに農薬に対する感受性が高いのではないかと推測される。 近年，明らかに激減しつつあることを鑑み，「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」に選定した。
産地情報	尾道市，庄原市，東広島市，北広島町，大崎上島町，神石高原町

濱田将大・木谷昌喜・島添信一・井上大輔 2008. 東広島市の水生甲虫. 広島虫の会会報, 47: 1-6.

小坂敏和 2004. 東広島市の甲虫類 (2) -水生の甲虫-. 広島虫の会会報, 43: 19-22.

(坂本 充)

ヒメケンゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Hyphydrus laeviventris Sharp, 1882

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 4～5 mm 前後。体型は厚みがある短卵形。頭部は黄褐色で，複眼間に不明瞭な黒点を 1 対そなえる。上翅の地色は黄褐色で，大きく複雑な黒～暗褐色斑に覆われる。ケンゲンゴロウ <i>H. japonicus</i> によく似るが，本種は前胸背板の前縁が黒色に縁取られる点で区別できる。 生息環境：平地や丘陵地にある，湿地化した休耕田やハス田，水生植物が繁茂する浅場があるため池など。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	既知生息地域は，倉橋島と能美島に局限される。複数あった生息地のうち，近年，生息が再確認されたのは，農薬が流入しない二か所のため池のみ。確認される個体数も，過去に比較して少ない。その他の生息地のうち数か所は土地改変により消失した。近年の著しい減少の主要因の一つとして，ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とする農薬の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣悪化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 生活排水や農薬の流入による水質の劣悪化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	本種が残存しているのは，イネやミカン類の殺虫殺菌に使用される農薬が流入しにくい場所にある池沼やため池に限られる。本属はツブゲンゴロウ属 <i>Gen.Laccophilus</i> やホソガムシ属 <i>Gen.Hydrochus</i> と同様に，とくに農薬に対する感受性が高いのではないかと推測される。 近年，著しく減少していることを鑑み，「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」に選定した。
産地情報	呉市，江田島市

坂本 充 2000. 広島県産昆虫類の分布資料 (3) -倉橋島，江田島，能美島，上蒲刈島，下蒲刈島の水生甲虫類-. 比婆科学, 193: 1-14.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目，オサムシ上科)，比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

コウベツブゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Laccophilus kobensis Sharp, 1873

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 3.4～3.8 mm。体型はゆるやかな長卵形。頭部，前胸背板は緑色がかった黄土色。ツブゲンゴロウ <i>L. difficilis</i> に似るが，本種は上翅の基部が暗色となり，複雑に連結する暗褐色の縦条班紋を多数そなえる点で区別できる。 生息環境：平地や丘陵地にある，水生植物が繁茂するため池や，低茎草原にある定常的な水たまりなど。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	県内の既知生息地域数は少ない。島嶼部には多産地もあったが，近年，生息が再確認されたのは，倉橋島の山中にある農薬が流入しない一か所のため池のみ。近年の著しい減少の主要因の一つとして，ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とする農薬の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の消失。 護岸整備による生息環境の劣悪化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	島嶼部において本種が残存しているのは，水田やミカン類の殺虫殺菌に使用される農薬が流入しにくい場所にある池沼やため池に限られる。本属はケンゲンゴロウ属 <i>Gen. Hyphydrus</i> やホソガムシ属 <i>Gen. Hydrochus</i> と同様に，とくに農薬に対する感受性が高いのではないかと推測される。 近年，著しく減少していることを鑑み，「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」に選定した。
産地情報	呉市，三原市，福山市，東広島市

小坂敏和 2004. 東広島市の甲虫類 (2) -水生の甲虫-. 広島虫の会会報, 43: 19-22.

秋山美文 2003. 広島県産甲虫の分布記録 (7) . 比和科学博物館研究報告, 42: 45-60.

(坂本 充)

テラニシセスジゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Copelatus teranishii Kamiya, 1938

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州, 対馬 国外分布: ー 形態: 体長 5~5.5 mm。体型は長楕円形で, 上翅端はやや細まる。体厚は扁平。頭部, 前胸背板は褐色~暗褐色で, やや光沢がある。前翅の基部および側縁は淡黄色に縁取られる。カンムリセスジゲンゴロウ <i>C. kammuriensis</i> やナチセスジゲンゴロウ <i>C. tomokunii</i> に似るが, 本種の雄交尾器中央片は, 中央部が湾曲とは反対方向(外方)にとさか状に突出する点で区別できる。雌の区別は困難。 生息環境: 大河川中・下流域の河川敷にある, 水路や定常的な水たまりなど。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	既知生息地は, 太田川下流の河川敷に局限される。低茎草原にできた定常的な水たまりや水路で繁殖していた。2014年8月の集中豪雨は, 激しい出水で生息環境を一気に劣化させた。また, その後の復旧工事や廃棄物の長期間にわたる集積, 河川敷の整備などにより, 本種が繁殖していた環境のほとんどが失われた。2020年に遊泳する数個体を確認したが, 明らかに減少傾向にある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	護岸や河川敷の整備による生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。
特記事項	生息環境の著しい変化や消失, 生息地における確認個体数の明らかな減少, これらの事態を鑑みて, 「準絶滅危惧(NT)」からカテゴリーを変更した。
産地情報	広島市

亀山 剛・中村慎吾 2011. 広島県太田川の昆虫類 2007年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, 52: 45-203.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

ミズスマシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Gyrinus japonicus Sharp, 1873

コウチュウ目 ミズスマシ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国 形態: 体長 6~7.5 mm。背面は光沢のある黒色。ヒメミズスマシ <i>G. jgestroi</i> とコミズスマシ <i>G. curtus</i> に似るが, 体長が 6 mm 以上となる点で区別できる。 生息環境: 水生植物が繁茂するため池。 その他: 止水性種。
生息・生育状況	県内の広域に分布する。既知生息地数はオオミズスマシ <i>D. orientalis</i> とともに多く, かつては普通種だった。本種を含むミズスマシ類の多くの種は, 全国的に著しく減少している。本種の確認例のほとんどは 2000年代までのもので, 2010年以降は途絶えている。こうした減少過程は, 他のミズスマシ類やゲンゴロウ類と共通している。減少の主要因の一つとして, ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とするイネの箱苗殺虫殺菌剤の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事など土地変化による生息環境の消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる幼虫への捕食圧。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。
特記事項	広域分布種で, 既知生息地数も多い普通種であったが, 2000年代以降, 明らかに減少していることを鑑み, 「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」に選定した。
産地情報	呉市, 三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 江田島市, 熊野町, 坂町, 北広島町, 大崎上島町, 世羅町, 神石高原町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然(北広島町生物多様性専門員会議編), p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

東常哲也・中井和彦 2009. 昆虫. 坂町史自然編(坂町史編纂委員会, 編), p. 195-307. 広島県坂町.

(坂本 充)

エンデンチビマルガムシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Paracymus aeneus (Germar, 1824)

コウチュウ目 ガムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州 (岡山県, 広島県), 九州 (大分県), 対馬 国外分布: ロシア極東部~ヨーロッパ 形態: 体長 2.2~2.3 mm。体型は楕円形。背面に向かって強く膨隆する。体色は全体がほぼ黒色。チビマルガムシ <i>P. orientalis</i> に似るが, 本種の三角状に突出した中胸腹板の後側 (裏面) は板状となり, 突出部の頂点から稜をなして下方へと連なる点で区別できる。 生息環境: 臨海部にある, 水生植物が繁茂し, 植物遺体が堆積した浅いため池や湿地など。
生息・生育状況	県内の既知生息地は, 大崎上島と倉橋島に限られる。大崎上島の生息地は, 埋め立てによって消失した。倉橋島の生息地も土地改変のため, 生息する湿地の面積が半減した。2019年に生息を再確認したが, 個体数は過去に比較して少なかった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事, ソーラーパネル設置などによる生息環境の劣化や消失。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	第3版では, チビマルガムシ <i>Paracymus orientalis</i> Orchymont, 1925 として掲載していた。新たな分類がなされた結果, 広島県産の種はエンデンチビマルガムシ <i>Paracymus aeneus</i> (Germar, 1824) であることが判明した。 わずか二か所の既知生息地のうち一か所が消失し, 残りの生息地の環境劣化も進行していることを鑑みて, 「準絶滅危惧(NT)」からカテゴリーを変更した。
産地情報	呉市, 大崎上島町

秋山美文 2020. 広島県のコヒラタガムシとエンデンチビマルガムシの記録. 月刊むし, 598: 54-55.

(坂本 充)

セスジダルマガムシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Ochthebius inermis Sharp, 1884

コウチュウ目 ダルマガムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州, 九州 国外分布: 台湾 形態: 体長 1.9~2.3 mm。体型はゆるやかな長楕円形。体色は黒色でかすかに青銅色の金属光沢がある。上翅に白色の微細な短毛をそなえる。セスジダルマガムシ属 Gen. <i>Ochthebius</i> の他種に似るが, 本種は上唇の前縁は凹まない点で区別できる。 生息環境: 河川上流域の小河川の河床や, 緑藻類が繁茂する染み出し水の水路など。
生息・生育状況	既知生息地域は, 北広島町芸北に限られる。緑藻類が繁茂する, 数か所のコンクリート壁面からの染み出し水の流れに, 少数が繁殖していた。生息環境の恒久性はきわめて脆弱で, 陸生植物の繁茂によって, 流路の乾燥化が進み, 再確認できなくなった生息地もある。また, 2014年8月の集中豪雨による激しい出水は, 生息環境を一気に劣化させ, 2015年以降, いずれの生息地においても再確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	植生遷移の進行による生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。
特記事項	生息環境の著しい改変や消失, 2014年以降の確認の途絶, これらの事態を鑑みて, 「準絶滅危惧(NT)」からカテゴリーを変更した。
産地情報	北広島町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議, 編), p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

(坂本 充)

コスジマグソコガネ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Aphodius lewisi Waterhouse, 1875

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：北海道，本州，九州，奄美大島 国外分布：中国・台湾・東南アジア・南アジア 形態：体長 2.9～4 mm。体色は赤褐色から褐色で，上翅条溝は低い隆条で縁取られる。 生息環境：オープンランドの牛・シカ糞に集まる。
生息・生育状況	吾妻山で 1979 年 7 月 16 日に採集された記録があるが，その後吾妻山では放牧が中止となり，現在生息の可能性はない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	庄原市（比和）

城戸 毅 1979. 庄原市七塚原と比婆郡吾妻山の糞虫. 広島虫の会会報, 18: 11-14.

(秋山美文)

ヒメスジマグソコガネ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Aphodius hasegawai Nomura & Nakane, 1951

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 3～4.3 mm。体は黒色で，上翅が黒いものと，部分的または全体が赤褐色となるものがある。上翅は，隆起した間室と細い隆起に縁取られた条溝をもつ。 生息環境：草原や林の獣糞や鳥類の死骸，猛禽類のペリットなどに集まる。
生息・生育状況	庄原市と比和町から 1979 年に記録されているのみで，その後 40 年間採集されていない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	庄原市（庄原，比和）

山下 泉・小島圭三 1979. 広島県七塚原と吾妻山の糞虫類. 比婆科学, 110: 11-14.

(秋山美文)

クロモンマゲソコガネ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Aphodius variabilis Waterhouse, 1875

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島・シベリア・中国・トルキスタン 形態：体長 4.9～7.3 mm。光沢のある黄褐色で，上翅に黒紋をもつ。やや扁平。 生息環境：獣糞があるオープンランドに生息する。
生息・生育状況	野呂山では 1962 年 11 月に多数が採集されているが，その後記録はなく，現状は不明。他の場所で牛以外の獣糞を食べている生息地が見つかる可能性がある。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉，川尻）

水田國康・小阪敏和・大澤省三 1972. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 11: 3-8.

(秋山美文)

クロツヤマゲソコガネ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Aphodius atratus Waterhouse, 1875

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 6.4～7.5 mm。光沢のある黒色で，頭部は小点刻，前胸背は強い点刻，上翅は粗大点刻を密布する。上翅間室は盛り上がる。 生息環境：牛の放牧場。
生息・生育状況	本州では激減している。本県では，吾妻山で放牧地の牛糞に見られたが，放牧が中止されて以降記録がない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	庄原市（比和）

城戸 毅 1979. 庄原市七塚原と比婆郡吾妻山の糞虫. 広島虫の会会報, 18: 11-14.

水田國康 1988. 1987 年備北のフン虫. 広島虫の会雑報, 48: 7-9.

(秋山美文)

ケスジドロムシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Pseudamophilus japonicus Nomura, 1958

コウチュウ目 ヒメドロムシ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，九州 国外分布：— 形態：体長 4.8～5.3 mm。日本産ヒメドロムシ類の最大種。体型は長楕円形。体厚は厚く，背面は膨隆する。体色は暗褐色。上翅には明瞭な縦条溝があり，間室にある黄褐色の短毛列はよく目立つ。 生息環境：河床に流木が散在する河川上・中流域。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	局地的に分布する。成虫，幼虫とも河床に沈んだ流木に付着して生活するため，集中豪雨による出水や，その後の浚渫など復旧整備の影響を受けやすい。2014年8月の集中豪雨は激しい出水で可愛川と志路原川の生息環境を大きく改変した。緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫，護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。 生活排水や産業排水，農薬などの流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	庄原市，北広島町，神石高原町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門委員会編），p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

秋山美文 2005. 広島県のヒメドロムシ科，比和科学博物館研究報告，44: 205-219.

(坂本 充)

クロサワドロムシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Neoriohelmis kurosawai Nomura, 1958

コウチュウ目 ヒメドロムシ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，九州 国外分布：— 形態：体長 3.8～4.1 mm。体型はやや細長い卵形。体厚は厚く，背面は膨隆する。体色は全体が黒色で，光沢がある。ムナビロツヤドロムシ <i>Elmomorphus brevicornis</i> に似るが，本種は触角が頭幅を超えるほど長く，上翅に深い点刻列からなる縦条溝がある点で区別できる。 生息環境：山地にある，周囲を樹木に囲まれた小河川や溪流など。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	確認例は少なく，既知生息地は4か所に限られる。生息地における確認個体数も少ない。溪流や小河川の上流域に生息するため，集中豪雨による出水などの影響を受けやすい。近年，北広島町の生息地では再確認されていない。緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	庄原市，北広島町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門委員会編），p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

秋山美文 2008. 広島県のヒメドロムシ科の記録と訂正と産地の追加，比和科学博物館研究報告，49: 113-117.

(坂本 充)

ウマノオバチ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Euurobracon yokohamae (Dalla Torre, 1898)

ハチ目 コマユバチ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：台湾 形態：体長約 20 mm。雌の産卵管長は全長約 150 mm に達する。 生息環境：寄主となるミヤマカミキリ <i>Massicus raddei</i> が生息する雑木林。
生息・生育状況	県内の確認例は少ない。2012 年に広島市東区で雌 1 個体が確認されたが、それ以降は途絶えている。寄主であるミヤマカミキリの減少にともない、本種もまた減少傾向にあると推測される。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置などによる生息環境の劣化や消失。 雑木林や栽培クリ林の荒廃にともなう寄主昆虫（ミヤマカミキリ）の減少。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市，廿日市市

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, HYMENOPTERA ハチ目（膜翅目）, p. 2069-2228. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(坂本 充)

カラフトゴマフトビケラ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Sembris phalaenoides (Linnaeus, 1758)

トビケラ目 トビケラ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：北海道，本州（広島・島根） 国外分布：北ヨーロッパから極東アジアの広域 形態：開翅長 52～65 mm。大型の昼行性種。ゴマフトビケラ <i>S. melaleuca</i> によく似るが、本種は翅の地色が乳白色で、散在する濃灰色の斑紋が大きく明瞭となる点で区別できる。 生息環境：西中国山地にある，周囲を樹林に囲まれた細流をともなう中間湿原。
生息・生育状況	本州では広島県北広島町と島根県赤木町のみが生息し，遺存種として学術的にきわめて貴重である。北広島町八幡高原では広域に生息し，生息環境は良好に維持されている。しかし，乾燥化が進んでいる湿原もあり，緩やかに減少しているおそれがある。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	林道の敷設や拡幅による生息環境の劣化や消失。 森林伐採や植生遷移の進行，人の踏み込みなどによる生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	北広島町

野崎隆夫 2000. 広島県産カラフトゴマフトビケラの確認. 比和科学博物館研究報告, 39: 1-4.

谷 幸三・中村慎吾 1997. 広島県のカゲロウ目，カワゲラ目，ヘビトンボ目とトビケラ目. 比和科学博物館研究報告, 35: 53-66.

(坂本 充)

キバネセセリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Bibasis aquilina chrysaeglia (Butler, 1882)

チョウ目 セセリチョウ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 北海道, 利尻列島, 本州, 四国, 九州, 対馬 国外分布: 朝鮮半島, 中国北東部, ロシア南東部 形態: 前翅長 21~22 mm。やや暗い黄褐色の地色に灰黄白色の小紋がはいる。 生息環境: 夏緑広葉樹林の自然林と草地。 その他: 年1回, 7月中旬頃から発生する。幼虫の食樹はハリギリ。
生息・生育状況	もともと個体数が少ない種であるが, 2000年以降の報告がほとんどない。ただし, 食樹のハリギリは中国山地を中心に広く分布しており, 新たな生息地が発見される可能性はある。2019年に北広島町で確認されている(上手 未発表)。
存在を脅かす要因・保全の留意点	夏緑広葉樹林帯における自然林の伐採等が生息環境の消失や劣化に繋がる可能性がある。発生木のハリギリが特定されている場合には, 残置または移植するなどの配慮が望まれる。
特記事項	—
産地情報	庄原市(西城, 東城, 高野, 比和), 廿日市市(吉和), 安芸太田町, 北広島町(芸北)

中村慎吾 2001. 広島県の蝶 過去と現状. 277pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, p. 1884. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(亀山 剛・松田 賢)

ギフチョウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Luehdorfia japonica Leech, 1889

チョウ目 アゲハチョウ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州 国外分布: — 形態: 前翅長 29~32 mm。明るい黄白色の地色に黒く太い帯がはいる。後翅外縁部には朱色, オレンジ色, 青色の紋がはいる。ヒメギフチョウ <i>L. puziloi</i> に似るが, 前翅端の黄色紋が内側にずれることで区別できる。 生息環境: 夏緑広葉樹の二次林(時にアカマツ林)。 その他: 年1回, 4月上旬頃から発生する。食草はサンヨウアオイ, ミヤコアオイ, ヒメカンアオイなど。
生息・生育状況	1995年頃から多くの生息地で発生数が減少しており, 例えば多産地として知られた東広島市蚊無峠では2015年に確認できない, 安佐北区可部の産地も近年は確認できないという情報が得られている。一方, 現地調査では2016年~2020年の間に三次市, 世羅町, 廿日市市, 広島市佐伯区, 同安芸区, 呉市などで生息が確認されたが, 世羅町を除いていずれも個体数は少なく予断を許さない状況である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各種開発にともなう夏緑広葉樹林の減少のほか, 薪炭林として利用されなくなった里山放置林の増加にともなう生息環境の悪化・消失が続いている。また, 近年はホンシュウジカが増加してこれまで被害のなかったカンアオイ類が被害を受けるという新たな問題が生じ, ギフチョウ発生地の消滅に拍車がかかっている。本種の保全にあたっては, 地域によっては夏緑広葉樹林の里山管理に加え「シカ防護柵」の設置なども併せて実施する必要がある。
特記事項	第3版では「準絶滅危惧(NT)」であったが, 従来の里山放置林の増加にともなう生息地の消滅に加え, シカによる食草の被害という新たな問題が生じていること, 産地によっては無視できない採集圧の影響などを考慮し, 「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」にカテゴリーを変更した。 世羅町の八田原ダム(国土交通省)では, 地域住民と連携して本種の生息地の維持管理を継続しており, 一定の成果を上げている。
産地情報	広島市, 呉市, 竹原市, 三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 府中町, 熊野町, 坂町, 北広島町, 世羅町

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)に掲載された昆虫類の確認記録(2012~2017). 比婆科学, 263: 33-35.

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)に掲載された昆虫類の確認記録(2018~2019). 比婆科学, 268:

31-37.

(亀山 剛)

ヒロオビミドリシジミ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Favonius latifasciatus Shirozu & Hayashi, 1959

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州（近畿地方西部，中国地方） 国外分布：朝鮮半島，ロシア沿海州 形態：前翅長 20～22 mm。雄は緑がかかった金属光沢の青緑色で，翅端には細い黒帯がはいる。雌は黒褐色の地色で前翅に汚白色の紋がはいる。裏面はやや暗い銀灰白色で黒褐色に縁どられた白色の太い帯がはいる。 生息環境：夏緑広葉樹（ナラガシワ）の二次林。 その他：年1回，6月上旬頃から発生する。食樹はナラガシワ。
生息・生育状況	1990年代以降生息地の環境悪化が続き，多くの場所で確認が困難となっている。現地調査では2017～2020年に庄原市，2018年に安芸太田町で生息が確認されたほか，広島市安佐北区でも現存の情報が得られた。通常，生息地での個体数は比較的多いが，安芸太田町ではわずかに数本のナラガシワからの発生で個体数が少ないうえ，いつ伐採されてもおかしくない状況にあり，存続が危ぶまれる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ナラガシワを主体とする二次林がまとまって残っている地域では現在も生き残っている可能性があるが，森林伐採や農業形態の変化による里山管理の質的低下により，多くの産地で生息環境の劣化・消失が進んでいると思われる。本種の保全にあたっては，ナラガシワ林の大規模な伐採を極力避けるとともに，やむを得ず伐採する場合には近隣に苗木を植栽するなど有効と考えられるが，根本的にはナラガシワ林の維持管理が重要である。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区），福山市（福山，新市），府中市，三次市（三次，君田，布野，三良坂），庄原市（庄原，西城，東城，高野），廿日市市（吉和），安芸高田市（吉田，八千代），安芸太田町（加計），北広島町（芸北，千代田，豊平），神石高原町

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2012～2017）. 比婆科学, 263: 33-35.
 亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

（亀山 剛）

ウラジロミドリシジミ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Favonius saphirinus (Staudinger, 1887)

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：北海道，本州，淡路島，隠岐島，四国，九州，対馬 国外分布：ウスリー，アムール，中国北東部，朝鮮半島 形態：前翅長 17～19 mm。雄は緑がかかった青銀色の地色で，翅端には細い黒帯がはいる。雌はやや暗い茶褐色の地色で前翅に汚黄白色の紋がはいる。裏面はやや暗い灰白色で黒褐色の細い帯がはいる。 生息環境：夏緑広葉樹（ナラガシワ）の二次林。 その他：年1回，6月中旬頃から発生する。食樹はナラガシワ。
生息・生育状況	1990年代以降生息地の環境悪化が続き，多くの場所で確認が困難となっている。現地調査では2017～2019年に広島市，2020年に三次市と庄原市で生息が確認されたが，いずれも個体数は少ない。ある程度まとまったナラガシワ林で発生するヒロオビミドリシジミと異なり，本種はナラガシワ単木でも発生する。ヒロオビミドリシジミと混生することが多く，本種の方が1週間程度発生が遅い傾向がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ナラガシワを主体とする二次林がまとまって残っている地域では現在も生き残っている可能性があるが，森林伐採や農業形態の変化による里山管理の質的低下により，多くの産地で生息環境の劣化・消失が進んでいると思われる。本種の保全にあたっては，ナラガシワ林の大規模な伐採の回避，単木でも発生木の場合は残置するなど有効であると考えられるが，根本的にはナラガシワ林の維持管理が重要である。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区，佐伯区），福山市，三次市，庄原市，東広島市，安芸高田市，安芸太田町，北広島町，神石高原町

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2012～2017）. 比婆科学, 263: 33-35.
 亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

（亀山 剛）

ウラナミアカシジミ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Japonica saepestriata (Hewitson, 1865)

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 北海道, 本州, 淡路島, 四国 国外分布: ウスリー, 中国北東部, 朝鮮半島 形態: 前翅長 18~22 mm。明るいオレンジ色の地色で, 翅端には細い黒帯がはいる。裏面は明るい黄褐色の地色で, 黒紋が帯状にはいる。アカシジミ <i>J. lutea</i> に似るが, 裏面の黒紋により区別できる。 生息環境: 夏緑広葉樹の二次林 (若齢林)。 その他: 年 1 回, 6 月下旬頃から発生する。食樹はクスギ, アベマキ, コナラなど。
生息・生育状況	1990 年代以降生息地の環境悪化が続き, 多くの生息地で個体数が減少している。現地調査では 2016 年に廿日市市, 2017 年に庄原市で生息が確認されたが, いずれも個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各種開発にともなう夏緑広葉樹林の減少のほか, 薪炭林として利用されなくなった里山放置林の増加にともない, 本種が好む樹齢の若いクスギ・アベマキを主体とした二次林の減少が本種の存続の脅威となっている。本種の保全にあたっては, 単に夏緑広葉樹林を残すだけでなく, 定期的に輪伐して萌芽更新を促すなどの管理を検討する必要がある。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 府中町, 安芸太田町, 北広島町, 神石高原町

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2012~2017) . 比婆科学, 263: 33-35.
矢後勝也・平井規央・神保宇嗣 (編) 2016. 日本産蝶類都道府県別レッドリスト—第四訂 (2015 年版) —. やどりが特別号 日本産チョウ類の衰亡と保護 第 7 集, p. 280-284. 日本鱗翅学会, 東京.

(亀山 剛)

ベニモンカラスシジミ中国地方亜種 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Strymonidia iyonis kibiensis Shirozu & M. Nanba, 1973

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 本州 (広島県, 岡山県) 国外分布: — 形態: 前翅長 15~18 mm。黒褐色の地色で前翅中央に暗いオレンジ色の斑紋がはいる。裏面はやや明るい茶褐色の地色で, 細い白帯がはいる。後翅にはオレンジ色と黒色の小紋がはいる。近縁のカラスシジミ <i>S. w-album fentoni</i> , ミヤマカラスシジミ <i>S. mera</i> とは, 前翅表面にオレンジ色の斑紋がはいることで区別できる。 生息環境: 常緑広葉樹・夏緑広葉樹の自然林, 石灰岩の岩場。 その他: 年 1 回, 5~6 月に発生する。幼虫の食樹はキビノクロウメモドキ, タイシャククロウメモドキなど。
生息・生育状況	1990 年代中頃から各生息地で急速に個体数が減少し, 2000 年以降は生息が確認できない場所が目立つようになったとの情報があるが, 現状の詳細は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発などによる生息環境の悪化のほか, 捕獲・採集圧 (とくに採卵) の影響も考えられる。
特記事項	—
産地情報	福山市, 庄原市 (東城), 神石高原町

中村慎吾 2001. 広島県の蝶 過去と現状. 277pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌 [改訂増補版] IV, p. 1957-1958. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(亀山 剛・松田 賢)

クロツバメシジミ中国地方・四国・九州内陸亜種 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①,

VU-②, VU-③

Tongeia fischeri shoji (Eversmann, 1843)

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，小豆島，四国，九州，対馬，壱岐，五島列島，甌島 国外分布：ロシア南東部，中国東北部，朝鮮半島，モンゴル，ウラル 形態：前翅長 11～14 mm。表面はやや暗い茶褐色の地色で，後翅端に細い白帯がはいる。裏面は白灰色の地色で，黒色の小紋が並び，肛角部付近にはオレンジ色と青色の小紋がはいる。短い尾状突起がある。 生息環境：古い石垣，海岸の崖地，岩場，露頭。 その他：第1化は4月下旬頃から発生し，年3～4回発生する。食草はツメレンゲ，ツルマンネングサなど。
生息・生育状況	小規模で不安定な発生地が多い。東広島市河内町では1990年代後半の住宅団地整備により多くの発生地が消滅したとの情報がある。現地調査では，2018年に東広島市，2019年に三次市，世羅町，呉市でそれぞれ生息が確認された。いずれも古い石垣に生育するツメレンゲで発生しており個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	海岸の崖地に生育するツメレンゲ群落では安定的に発生していると考えられるが，道路沿いの露頭などでは落石防止のコンクリート吹き付けなどにより発生地が消滅していると考えられる。石垣の発生地では道路拡幅などによる石垣の撤去や改修などで消失する可能性が高く非常に不安定である。また，場所によっては食草も含めた採集圧が脅威となる。本種の保全にあたっては，分布地におけるツメレンゲ群落の維持・保全が重要である。
特記事項	もともと産地が局地的であるうえ，発生地の消滅が進んでいることを鑑みて，「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」にカテゴリを変更した。 環境省 RL2020 に準拠し，和名「クロツバメシジミ中国地方・四国・九州内陸亜種」に変更した。
産地情報	呉市，竹原市，三原市，尾道市，福山市，府中市，三次市，東広島市，世羅町，神石高原町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)に掲載された昆虫類の確認記録(2018～2019). 比婆科学, 268: 31-37.

矢後勝也・平井規央・神保宇嗣(編) 2016. 日本産蝶類都道府県別レッドリスト-第四訂(2015年版)一. やどりが特別号 日本産チョウ類の衰亡と保護 第7集, p. 280-284. 日本鱗翅学会, 東京.

(亀山 剛)

ヒメシジミ本州・九州亜種 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Plebejus argus micrargus (Butler, 1878)

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州・九州 国外分布：一 形態：前翅長 20～22 mm。翅表は，雄は明るい青紫色で外縁が黒帯で縁取られるが，雌では全体がほぼ黒褐色で後翅の亜外縁にオレンジ色をともなったやや濃い黒褐色の斑列があるなど明瞭な違いがある。翅裏は白色～灰褐色で，雌は暗化する傾向がある。前・後翅ともに黒斑が散らばり，亜外縁のオレンジ色の斑列がよく目立つ。 生息環境：ススキ・シバ草原，湿地(湧水のある草原，湿性草地)。 その他：成虫は年1回，6～7月に発生する。幼虫の食草はキセルアザミやヨモギ類のほか，マメ科，タデ科，バラ科などでも知られている。
生息・生育状況	安定して継続的に発生が確認される地域は，庄原市(高野)，安芸太田町(戸河内)，北広島町(芸北)とみられる。とくに北広島町(芸北)では山地の草原，湿性草地，自然再生された湿原などの環境に比較的多くの生息地があり，個体数も少なくない。一方，開発・改変や草地・湿地の環境変化により個体数が減少した生息地もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各種開発や圃場整備等による草地，湿地等の生息地の消失，縮小や，草地管理の頻度低下による草地植生の変化など。
特記事項	北広島町では，生物多様性の保全に関する条例に基づき，地域を定めて採集行為等が禁止されている。安芸太田町では，西中国山地国定公園特別地域内等の町有地への希少な昆虫類の採集目的での立ち入りを禁止する掲示を行い，宿泊観光施設・NPO 団体などが連携・協力し，啓発している。
産地情報	庄原市(口和，高野)，廿日市市(吉和)，安芸太田町(戸河内)，北広島町(芸北，大朝)，世羅町(世羅，世羅西)

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, p. 1871-1884, 1971-1972. 比婆科学教育振興会, 庄原.

上手新一・松田 賢・上野吉雄・岩見潤治・本宮宏美・本宮芳太郎・中村康弘 2018. 広島県安芸太田町深入山における希少チョウ類 5 種の生息状況. 高原の自然史, 18: 79-88.

(松田 賢)

ウラギンスジヒョウモン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Argyronome laodice japonica (Menetries, 1857)

チョウ目 タテハチョウ科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 北海道, 礼文島, 利尻島, 本州, 佐渡島, 隠岐島, 四国, 九州, 対馬, 壱岐, 五島列島 国外分布: サハリン, 朝鮮半島, 中国北東部, ヨーロッパ東南部からロシア沿海州 形態: 前翅長 30~36 mm。前・後翅とも茶褐色の地色に黒小紋がはいる。裏面は明るい黄褐色で, 前翅には黒紋, 後翅には銀色の帯と茶褐色の紋がはいる。オオウラギンスジヒョウモン <i>A. rulsana</i> に似るが, やや小型で, 前翅外縁の括れが小さく翅形が丸みを帯びることで区別できる。 生息環境: 落葉広葉樹林の林縁, 湿性草地。 その他: 年1回, 6月上旬頃から発生する。幼虫の食草はスミレ類。
生息・生育状況	もともと個体数が少ない種である。1990年代までは県内各地に記録があるが, 2000年代にはいって激減した。2010年以降の記録では, 2015年に東広島市と三原市, 2017年に北広島町で確認情報が得られているのみである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各種開発行為による森林伐採や湿原の埋め立てのほか, 里山管理の質的低下による落葉広葉樹林や畦畔の荒廃が, 本種の生息環境の消滅・衰退の原因となっている可能性が高い。
特記事項	全国的な減少傾向と本県における近年の確認状況を踏まえ, 「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」にカテゴリを変更した。
産地情報	広島市, 呉市, 尾道市, 福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 大竹市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 府中町, 熊野町, 安芸太田町, 北広島町, 世羅町, 神石高原町

佐藤祐輔・坂本 充 2017. 広島大学東広島キャンパスのチョウ相. 広島大学総合博物館研究報告, 9: 95-102.

矢後勝也・平井規央・神保宇嗣(編) 2016. 日本産蝶類都道府県別レッドリスト-第四訂(2015年版)-. やどりが特別号 日本産チョウ類の衰亡と保護 第7集, p. 280-284. 日本鱗翅学会, 東京.

(亀山 剛・松田 賢)

ヒメヒカゲ本州中部・近畿・中国地方亜種 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Coenonympha oedippus arothius Okada & Torii, 1945

チョウ目 タテハチョウ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 本州(中部・近畿・中国地方), 小豆島の16府県(長野県~山口県, 香川県) 国外分布: ー 形態: 前翅長 20~23 mm。翅表は様に淡黒褐色。翅裏は茶褐色から黄褐色の地に, 黄白色の縁取りのある眼状紋が列状に並び, よく目立つ。前翅の眼状紋は, 雌では大きく3~4個, 雄では小さく1~2個か, ないこともある。後翅裏の眼状紋列の内側に沿った白帯と, 亜外縁の青みがかった銀条は, 雄よりも雌でよく発達する。 生息環境: ススキ・シバ草原, 湿地(湧水のある草原や湿性草地)。 その他: 日本固有亜種。本州中部亜種が群馬県と長野県に生息する。成虫は年1回, 6~8月頃発生。幼虫の食草はスゲ類。
生息・生育状況	2000年代以降, 北広島町(芸北), 安芸太田町(戸河内)の生息地では, 継続して安定的に生息が確認されているが, その他の地域では, 生息環境となる湿地や草地の縮小や劣化にともない減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各種開発や圃場整備等による草地, 湿地等の生息地の消失, 縮小や, 草地管理の頻度低下や放棄による植生遷移の進行に加え, 採集圧が脅威となる。
特記事項	北広島町では, 生物多様性の保全に関する条例に基づき, 地域を定めて採集行為等が禁止されている。安芸太田町では, 西中国山地国定公園特別地域内等の町有地への希少な昆虫類の採集目的での立ち入りを禁止する掲示を行い, 宿泊観光施設・NPO団体などが連携, 協力し, 啓発している。
産地情報	尾道市(御調), 三次市, 東広島市(河内), 安芸太田町(戸河内), 北広島町(芸北), 世羅町, 神石高原町

中村慎吾 2019. 虫と草木と人びとと 第3集. 広島県の昆虫たち, p. 49-68. シンセイアート出版部, 庄原.

上手新一・松田 賢・上野吉雄 2017. 広島県北広島町雲月山におけるヒメヒカゲとゴマシジミの生息状況. 高原の自然史, 17: 13-18.

(松田 賢)

キマダラモドキ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Kirinia fentoni (Butler, 1877)

チョウ目 タテハチョウ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：アムール，ウスリー，中国北東部，朝鮮半島 形態：前翅長 28～32 mm。明るい茶褐色の地色で，黄褐色と黒褐色の紋がはいる。裏面はやや暗い黄褐色の地色で，茶褐色の細い帯と蛇の目状の小紋がはいる。 生息環境：落葉広葉樹林の二次林。 その他：年1回，6月中旬頃から発生する。幼虫の食草はススキ，カモジグサ，チガヤ，ミゾイチゴツナギなど。
生息・生育状況	年による発生数の変動が大きい，呉市周辺では継続して生息していると考えられる。また，近年は東広島市黒瀬町周辺に分布を広げている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	瀬戸内海沿岸の限られた地域に生息し，人家周辺の草地で発生しているため，土地利用の変化など人為的な影響を直接受けやすい。食草は普遍的に分布する路傍雑草であるにも拘らず，生息地が限られるのは食草のみが生息条件ではないことを示している。本種の保全にあたっては，発生地に隣接する落葉広葉樹林の保全が重要である。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉，下蒲刈，蒲刈，川尻），東広島市（黒瀬）

中村慎吾 2001. 広島県の蝶 過去と現状. 277pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, p. 2018. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(亀山 剛・松田 賢)

ウラナミジャノメ日本本土亜種 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Ypthima multistriata nipponica Murayama, 1969

チョウ目 タテハチョウ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，淡路島，四国，小豆島，九州，壱岐，五島列島，屋久島 国外分布：朝鮮半島，中国大陸，台湾 形態：前翅長 23～28 mm。表面は黒褐色の地色で，前後とも黒い小紋が1個ずつはいる。裏面は明るい茶褐色で，前翅には1個，後翅には3個の蛇の目状の小紋がはいる。ヒメウラナミジャノメ <i>Y. argus</i> に似るが，後翅裏面の蛇の目状の小紋が本種では3個，ヒメウラナミジャノメでは5個以上あることで区別できる。 生息環境：落葉広葉樹林の二次林，ススキ・シバ草原。 その他：6月と8月下旬～9月の年2回発生が基本である。県内で確認された食草はススキ，コウライシバ，イヌビエ，アキノエノコログサなどのイネ科。
生息・生育状況	県内各地に広く記録はあるが，1990年代以降，多くの生息地で確認できなくなった。近年では，広島市（西区），廿日市市，呉市の島嶼部（芸予諸島）などに生息情報があり，現地調査では2018年に廿日市市で生息が確認された。廿日市市の生息地は住宅地に隣接した線路脇の小規模な草地であるが，そこが発生地になっているかは未確認である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	山付きの道路脇や民家周辺などの小規模な草地で発生しているため，土地利用の変化など人為的な影響を直接受けやすく非常に不安定であるが，地域的に個体群が残っていれば，逆に新しくできた空地などが一時的な発生地となる可能性はある。食草は普遍的に分布する路傍雑草であるにも拘らず，生息地が限られるのは食草のみが生息条件ではないことを示しており，今後の生態解明が期待される。
特記事項	環境省 RL2020 に準拠し，和名「ウラナミジャノメ日本本土亜種」，学名「 <i>Ypthima multistriata nipponica</i> Murayama, 1969」に変更した。
産地情報	広島市（西区，安佐北区，佐伯区），呉市，三原市，尾道市，福山市，府中市，三次市，庄原市，大竹市，東広島市，廿日市市，坂町，安芸太田町，北広島町

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2012～2017）. 比婆科学, 263: 33-35.

廣本一信 2017. 広島市でウラナミジャノメを採集. 広島虫の会会報, 56: 74.

(亀山 剛)

アオハダトンボ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Calopteryx japonica Selys, 1869

トンボ目 カワトンボ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：中央シベリア以東，中国東北部，朝鮮半島 形態：腹長 40～48 mm。後翅長 31～40 mm。金属緑色の体と金緑色の光沢を帯びた濃紺色の翅をもつ。 ハグロトンボ <i>C. atrata</i> に似るが，本種の雄は翅に青藍色の金属光沢があり，雌は前・後翅の前縁先端寄りに白色の偽縁紋をそなえるなどの点で区別できる。 生息環境：河川中・下流域にある，岸辺にツルヨシが繁茂する緩流域。
生息・生育状況	内陸部を中心とした広域に，やや局地的に分布する。呉市など沿岸平野部においては減少が著しい。近年，多発している集中豪雨による河川の出水と，その後の復旧工事により，生息環境は大きく劣化していることから，内陸部においても緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫，護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する河川の激しい出水による生息環境の劣化や消失。 生活排水や産業排水，農薬などの流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	呉市，府中市，三次市，庄原市，東広島市，安芸高田市，安芸太田町，北広島町，神石高原町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

坂本 充 2014. 北広島町の昆虫類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門員会議，編），p. 353-500. 北広島町教育委員会. 北広島町. (坂本 充)

ゲンバイトンボ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Platycnemis foliacea sasakii Asahina, 1949

トンボ目 モノサシトンボ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：原亜種が中国に分布 形態：腹長 30～33 mm。後翅長 19～23 mm。モノサシトンボ <i>Copera annulata</i> に似るが，本種は翅胸の第2側縫線の下部に黒色条があり，雄の中・後脛節は白く，軍配状に広がるなどの点で区別できる。 生息環境：河川中・下流域にある，岸辺にツルヨシが繁茂する緩流域。
生息・生育状況	広域に分布する。河川中流域では，近年，多発している集中豪雨による出水と，その後の復旧工事により，生息環境は大きく劣化している。また，広島市郊外などの都市近郊では，河川公園や多自然型工法で整備された河川のように自然環境が維持される場合を除き，護岸整備の進行にともない，生息環境の多くが消失しているため，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫，護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。 生活排水や産業排水，農薬などの流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市，福山市，府中市，三次市，庄原市，東広島市，安芸高田市，府中町，安芸太田町，北広島町，世羅町，神石高原町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会，東広島.

(坂本 充)

モートンイトトンボ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Mortonagrion selenion (Ris, 1916)

トンボ目 イトトンボ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮，中国，ロシア 形態：腹長 18～24 mm。後翅長 12～17 mm。本種の成熟雄は，胸部は淡緑色に黒色条をそなえ，眼後紋がへ状になる。雌は成熟にともない，橙黄色から淡緑色となる。これらの点で他種と容易に区別できる。 生息環境：湿生植物が繁茂する開放的な湿原や湿地化した休耕田，ため池の浅場など。
生息・生育状況	広域に分布する。ハッチョウトンボ <i>Nannophya pygmaea</i> と混生することが多い。北広島町や世羅台地，賀茂台地には既知生息地が多く，2020年に複数の生息地で確認された。それ以外の地域の生息地は，孤立化していることが多い。湿地化した休耕田に多産することがある。しかし，そうした生息地は，植生遷移の進行や土地利用の再開などにより，劣化や消失しやすく，安定した環境とはいえない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化や消失。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市，三原市，府中市，庄原市，東広島市，廿日市市，安芸高田市，熊野町，安芸太田町，北広島町，世羅町，神石高原町

坂本 充 2014. 北広島町の昆虫類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議, 編), p. 353-500. 北広島町教育委員会. 北広島町.

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

(坂本 充)

ムスジイトトンボ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Cercion sexlineatum (Selys, 1883)

トンボ目 イトトンボ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：中国中南部，台湾 形態：腹長 21～27 mm。後翅長 13～18 mm。成熟すると，雄の体色は水青色，雌は淡褐色となる，セスジイトトンボ <i>Paracercion hieroglyphicum</i> やクロイトトンボ <i>P. calamorum</i> に似るが，本種は眼後紋が短く細い筋状で，後頭条を欠くなどの点で区別できる。 生息環境：平地や丘陵地にある，挺水植物が繁茂するため池の浅場や湿地など。
生息・生育状況	広域に分布するが，生息地はやや局地的である。セスジイトトンボやクロイトトンボと混生することが多い。2020年に廿日市市宮島で確認された。生息地はやや孤立的で，土地改変を受けやすい。生息地の減少や環境の劣化にともない，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる幼虫への捕食圧。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市，尾道市，福山市，大竹市，東広島市，廿日市市，大崎上島町，神石高原町

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

亀山 剛・中村慎吾 2011. 広島県太田川の昆虫類 2007年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, 52: 45-203.

(坂本 充)

ムカシヤンマ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Tanypteryx pryeri (Selys, 1889)

トンボ目 ムカシヤンマ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: ー 形態: 腹長 44~54 mm。後翅長 39~47 mm。サナエトンボ類に似るが, 本種は下唇中片の前縁中央が V 字に切れ込む点で区別できる。 生息環境: 丘陵地や低山地にある, 湧水湿地, 湿潤な谷戸や林道など。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	広域に分布する。2020 年に廿日市市宮島, 世羅町, 三原市, 広島市東区で確認された。幼虫は, 湧水湿地や水が染み出す崖, ため池堰堤の湿潤な斜面などで 3~4 年をかけて成長する。こうした環境は改変されやすいことから, 緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅などによる生息環境の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	ー
産地情報	広島市, 三原市, 府中市, 三次市, 庄原市, 大竹市, 東広島市, 廿日市市, 府中町, 熊野町, 坂町, 安芸太田町, 北広島町, 世羅町, 神石高原町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物 (第 3 版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2018~2019) . 比婆科学, 268: 31-37.

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

(坂本 充)

キイロサナエ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Asiagomphus pryeri (Selys, 1883)

トンボ目 サナエトンボ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: ー 形態: 腹長 42~49 mm。後翅長 37~44 mm。ヤマサナエ <i>A. melaenops</i> に似るが, 本種の雄の尾部下付属器は上付属器より長く, 雌の生殖弁は斜め下方に突出する点で区別できる。 生息環境: 河川中・下流域にある, 川床に砂泥が堆積した緩流域。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	広域に分布するが, 生息地はやや局地的である。2020 年に三次市で確認された。近年, 多発している集中豪雨による河川の出水と, その後の復旧工事により, 生息環境は大きく劣化していることから, 緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫, 護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。 生活排水や産業排水, 農薬などの流入による水質の劣化。
特記事項	ー
産地情報	広島市, 呉市, 三原市, 福山市, 府中市, 庄原市, 東広島市, 府中町, 大崎上島町, 世羅町

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

中村慎吾・波多野玄・阿部直巳 2012. 広島県芦田川の昆虫類 2010 年の調査結果. 比婆科学, 241: 1-88.

(坂本 充)

サラサヤンマ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Oligoaeschna pryeri (Martin, 1909)

トンボ目 ヤンマ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州，種子島，屋久島 国外分布：韓国 形態：腹長 41～47 mm。後翅長 36～41 mm。小型のヤンマで，腹部に三角形の淡黄緑色の小点が多数ある。 生息環境：平地や丘陵地にある，湿原や湿地化した休耕田など。
生息・生育状況	島嶼部から内陸の山間部に至る広域に分布する。2020年に廿日市市宮島や三原市，世羅町で確認された。既知生息地の数は少なくないが，その多くは恒久性が脆弱な湿地化した休耕田である。植生遷移の進行，道路の拡幅工事やソーラーパネルの設置などにより，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市，尾道市，福山市，三次市，庄原市，東広島市，廿日市市，江田島市，熊野町，坂町，北広島町，神石高原町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会，東広島.

(坂本 充)

アオヤンマ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Aeschnophlebia longistigma Selys, 1883

トンボ目 ヤンマ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国北・中部 形態：腹長 45～53 mm。後翅長 43～50 mm。腹部はくびれず，円筒形となる。体色は鮮やかな淡緑色となる。 生息環境：平地から丘陵地にある，アシやガマが繁茂するため池や湿地など。
生息・生育状況	広域に分布するが，生息地はやや局地的である。2020年に東広島市と江田島市能美島で確認された。アシやガマが繁茂するため池や湿地は，植生遷移が進み陸地化しやすい。また，休耕田に形成された湿地は，ソーラーパネルの設置や残土の投入など土地改変により消失しやすいため，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる幼虫への捕食圧。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。
特記事項	—
産地情報	呉市，三原市，福山市，東広島市，廿日市市，江田島市，大崎上島町，世羅町

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会，東広島.

中村慎吾・木下長則・青木哲哉・藤本俊仁・吉田浩史 2011. 広島県八田原ダムの昆虫類 2010年の調査結果. 比婆科学, 240: 1-70.

(坂本 充)

アキアカネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Sympetrum frequens (Selys, 1883)

トンボ目 トンボ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮，中国，ロシア 形態：腹長 25～30 mm。後翅長 26～33 mm。ナツアカネ <i>S. darwinianum</i> に似るが，本種の翅胸側面の第1側縫線上の黒色斑は上端が細まって消えることで区別できる。 生息環境：水田やその周辺の掘割，湿地化した休耕田など。
生息・生育状況	ほぼ全域に分布する。アカネ属 <i>Gen. Sympetrum</i> の他種より水田への依存度が強い。イネの箱苗殺虫殺菌剤の影響により，2000年代になり，減少が顕在化し始めた。湿地化した休耕田が増加しつつある中山間地域や内陸部の山間部では，現在も多くの個体が確認される。しかし，イネの水耕栽培が盛んな一部の地域では，著しく減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	農薬の流入による水質の劣化。 イネの箱苗殺虫殺菌剤の主成分であるフィプロニルには，水田中の非防除対象の節足動物を100%死滅させる効果がある。この農薬の使用を中止しない限り，本種の局所的な激減傾向は続くものと推測される。
特記事項	地域により状況は異なるが，一部地域において減少の進行が急速で，減少率も著しい状況が確認されていることを鑑み，「準絶滅危惧(NT)」に選定した。
産地情報	広島市，呉市，三原市，尾道市，福山市，府中市，三次市，庄原市，大竹市，東広島市，廿日市市，安芸高田市，熊野町，坂町，安芸太田町，北広島町，大崎上島町，世羅町，神石高原町

坂本 充・藤井敏男 2015. 昆虫館友の会によるアカネ属のモニタリング調査. 昆虫園研究, 16: 32-37.

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

(坂本 充)

ナギサスズ(ウミコオロギ) 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Caconemobius sazanami (Furukawa, 1970)

バッタ目 ヒバリモドキ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島 形態：体長 9.9～10.3 mm。雌雄とも無翅。ウスモンウミコオロギ <i>C. takarai</i> に似るが，本種の体色は光沢のある暗赤褐色となる点で区別できる。 生息環境：転石が多い海岸や海食崖，島嶼部の漁港にある石積みの岸壁や波止場など。
生息・生育状況	島嶼部に局地的に分布する。礫浜や磯，石積みの岸壁や波止場に生息し，夜間に潮上帯とその直近でしか活動しないため，発見しにくい。ウスモンウミコオロギが混生することもある。石積み構造が改修され，隙間が少ないコンクリートブロックになった場合，ウスモンウミコオロギしか生息しなくなる。漁港や護岸の改修にともない，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	石積み岸壁や波止場のコンクリート化。 タールや排油の漂着など海洋汚染による生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市

坂本 充 2000. ウミコオロギ類の安芸郡鹿島における採集記録. 比婆科学, 193: 40.

(坂本 充)

カワラスズ 準絶滅危惧(NT) NT-b
Dianemobius furumagiensis (Ohmachi & Furukawa, 1929)
 バッタ目 ヒバリモドキ科

環境省: なし
 広島県 2011: NT
 広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国北部, 台湾 形態: 体長 7.5~8.4 mm。体色は黒色から黒褐色。マダラスズ <i>D. nigrofasciatus</i> に似るが, 本種はより大型で, 前翅基部に白色斑紋があり, 小顎鬚の先端は白色となる点で区別できる。 生息環境: 河川中・下流域にある, 堆積した川砂の上に大小の転石が散在する河原や, 敷石のある鉄道の線路や操車場など。 その他: 雄はチリチリチリ…と連続音で鳴く。
生息・生育状況	局地的に分布する。本来の生息環境である河原は, 近年, 多発している集中豪雨による河川の出水と, その後の復旧工事により, 生息環境は大きく劣化していることから, 緩やかに減少しつつあると推測される。一方, 広島市内では, 操車場の敷石の間隙などを代替生息地とし, 繁殖していることが確認されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川改修や護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化や消失。 除草剤などによる土壌汚染。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 廿日市市, 安芸高田市, 安芸太田町

亀山 剛・中村慎吾 2011. 広島県太田川の昆虫類 2007 年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, 52: 45-203.
 岡本 巖 1981. 広島県コオロギ類. 広島虫の会会報, 20: 1-9.

(坂本 充)

タイワンクツワムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b
Mecopoda elongata (Linnaeus, 1758)
 バッタ目 クツワムシ科

環境省: なし
 広島県 2011: NT
 広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州, 南西諸島 国外分布: 朝鮮半島, 中国, 台湾 形態: 体長 50~75 mm。体色の変異幅が広く, 緑色型と褐色型およびその中間色の型もいる。クツワムシ <i>M. niponensis</i> に似るが, 本種は雌雄ともに, 前翅の先端が後腿節の末端より長く, 雌の産卵管は緩やかに上反するなどの点で区別できる。 生息環境: 臨海部の林縁に発達するマント群落や中茎草原など。 その他: 雄は前奏に続いてギョルルル…と大音量の連続音で鳴く。
生息・生育状況	沿岸部と島嶼部に局地的に分布する。2020 年に広島市似島と江田島市能美島で確認された。本土域生息地は少なく, いずれも孤立的である。廿日市市木材港の生息地は, 道路の敷設により消失した。クツワムシと同様に移動性が乏しく, 土地改変の影響を受けやすいため, 緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事, ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 廿日市市, 江田島市

細川哲生 2002. タイワンクツワムシを呉天応で採集. 比婆科学, 206: 49.
 坂本 充 2001. 広島県のキリギリス類 (バッタ目: キリギリス科). 比和科学博物館研究報告, 40: 99-121.

(坂本 充)

ハタケノウマオイ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Hexacentrus japonicus Karny, 1907

バッタ目 キリギリス科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州（山形県以西）、四国、九州、対馬、屋久島 国外分布：— 形態：体長 46～54 mm。体色に変異はなく緑色型のみ。ハヤシノウマオイ <i>H. hareyamai</i> に酷似し、雌雄とも外部形態での区別は困難。 生息環境：平地や丘陵地の堤防や河川敷、道路の法面などにある、開放的な中・高茎草原。 その他：日本固有種。ハヤシノウマオイとは雄の鳴き方が異なり、本種はシッコ・シッコ…と短く区切って鳴く点で区別できる。
生息・生育状況	広域に分布するが、生息地は局地的である。2020年に安芸高田市と呉市倉橋島で確認された。本土域では平地の堤防や河川敷などの草地に限って見られ、既知生息地数は少なく、孤立的である。近年、広島市太田川河川敷の生息地では再確認されていない。島嶼部においては草地に限らず林縁などにも見られるが、タイワンクツワムシ <i>Mecopoda elongata</i> と同様に、道路の拡幅工事やソーラーパネルの設置などにより、緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事、ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化や消失。
特記事項	—
産地情報	広島市、呉市、安芸高田市、江田島市

坂本 充 2001. 広島県のキリギリス類（バッタ目：キリギリス科）. 比和科学博物館研究報告, 40: 99-121.

(坂本 充)

セグロイナゴ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Shirakiacris shirakii (Bolivar, 1914)

バッタ目 バッタ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州、四国、九州、対馬、南西諸島 国外分布：台湾、朝鮮半島、中国、ロシア、カシミール、バルチスタン 形態：体長 30～40 mm。体色は灰色がかった淡褐色で、前翅に黒色の小斑紋が多数ある。イナゴ類の他種に似るが、本種の前胸背板上面には樽状の暗褐色斑紋があり、爪間盤が黒色となるなどの点で区別できる。 生息環境：山地や丘陵地にある、イネ科やクズなどが繁茂する開放的な高茎草原。
生息・生育状況	広域に分布するが、生息地は局地的である。2020年に安芸太田町深入山で確認された。本種は幼虫、成虫とも逃避行動がきわめて素早いため、確認されにくい。生息現状は明らかではないが、本種が生息するイネ科やクズなどが繁茂する開放的な高茎草原は、平地や丘陵地では土地改変されやすい。また、山地では植生遷移が進行しやすいため、緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事、ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。
特記事項	分布の現状は明らかではないが、既知生息地が少ないうえに孤立的である。また、都市近郊や里山にある生息環境は、とくに土地改変を受けやすいことを鑑み、「準絶滅危惧(NT)」に選定した。
産地情報	呉市、尾道市、東広島市、安芸太田町

小坂敏和 2005. 東広島市の直翅目 (1) 広島虫の会会報, 44: 54-55.

中村慎吾 1998. 昆虫類. 蒲刈町誌 自然編 (蒲刈町誌編集委員会, 蒲刈町教育委員会編), p. 233-252. 蒲刈町.

(坂本 充)

コオイムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Appasus japonicus Vuillefroy, 1864

カメムシ目異翅亜目 コオイムシ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，隠岐諸島，四国，九州，甌島（下甌島） 国外分布：韓国，北朝鮮，中国 形態：体長 17～20 mm。体は扁平な卵形，体色は淡黄褐色から淡褐色を呈する。オオコオイムシ <i>A. major</i> に似るが，より小型（オオコオイムシは体長 23～26 mm）であることなどで区別できる。 生息環境：ため池や水田等の比較的水深の浅い止水域に生息する。
生息・生育状況	県内に広く分布しているものの，その生息環境は休耕田由来の湿地や管理放棄されたため池など，不安定な環境が多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	圃場整備，ため池の統廃合や改修，ため池や水田の管理放棄などにより，生息環境が悪化，減少している。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区，佐伯区），呉市（倉橋），庄原市（庄原），大竹市，東広島市（志和），廿日市市（佐伯，吉和），安芸高田市（吉田），江田島市（大柿）

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫・科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会, 神奈川.

(野崎達也)

ホツケミズムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Hesperocorixa distanti hokkensis (Matsumura, 1905)

カメムシ目異翅亜目 ミズムシ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州（山形県以南），淡路島，四国，九州，甌島（下甌島） 国外分布：— 形態：体長 9.5～10.8 mm。同属の他種とは，腹面がより白っぽく，後胸腹面の剣状突起がほぼ正方形を呈することや，雄の前脚跗節が台形状となることなどで区別できる。 生息環境：湖沼（ため池）に生息し，時に，使用されていない期間のプール等で見つかることもある。早春の3月頃に，特定のため池に集合して繁殖し，水底の落ち葉や小枝に産卵する。新成虫は6月頃に現れて繁殖水域に残るものもいるが，一部は分散する。
生息・生育状況	県内に広く分布しているものの既産地は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ため池の統廃合や改修，管理放棄などにより，生息環境が悪化，減少している。
特記事項	過去に，別亜種ミズムシ <i>H. distanti distanti</i> が記録されているが，県内に分布するのは本亜種である。なお，ミズムシとして記録されたもののうち，庄原市立比和科学博物館に収蔵された標本（n=12）の再検討が行われ，すべて別種オオミズムシ <i>H. kolthoffi</i> であることが判明している。
産地情報	東広島市（志和），安芸高田市（吉田），北広島町（豊平）

野崎達也・野崎陽子 2011. 庄原市立比和自然科学博物館所蔵のカメムシ目標本の再検討（1）. 比和科学博物館研究報告, 52: 13-21.

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

(野崎達也)

オオミズムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Hesperocorixa kolthoffi (Lundblad, 1933)

カメムシ目異翅亜目 ミズムシ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州（近畿地方以西）、四国、九州 国外分布：韓国、中国、ロシア極東 形態：体長 9.8～13.4 mm。日本最大のミズムシ類で、同属の他種とは、腹面が濁黄色を呈することや、後胸腹面の剣状突起がほぼ縦長の長三角形を呈すること、雄の前脚跗節が長方形となることなどで区別できる。 生息環境：湖沼（ため池）に生息し、時に、使用されていない期間のプール等で見つかることもある。早春の3月頃に、特定のため池に集合して繁殖し、水底の落ち葉や小枝に産卵する。新成虫は6月頃に現れて繁殖水域に残るものもいるが、一部は分散する。
生息・生育状況	県内の既産地は多くないものの、大型ミズムシ類（ <i>Hesperocorixa</i> 属）の中ではもっとも個体数が多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ため池の統廃合や改修、管理放棄などにより、生息環境が悪化、減少している。
特記事項	過去に、別亜種ミズムシ <i>H. distanti distanti</i> として記録されていたものの一部が、本種であることが判明している。
産地情報	三原市（久井）、庄原市（庄原）、東広島市（志和、高屋）、安芸高田市（吉田）、江田島市（大柿）、北広島町（豊平）

野崎達也・野崎陽子 2011. 庄原市立比和自然科学博物館所蔵のカメムシ目標本の再検討 (1). 比和科学博物館研究報告, 52: 13-21.

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

(野崎達也)

ミヤケミズムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Xenocorixa vittipennis (Horváth, 1879)

カメムシ目異翅亜目 ミズムシ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州、四国、九州 国外分布：台湾、中国 形態：体長 7.2～9.1 mm。中型のミズムシ類で、県内には同サイズのミズムシ類が分布しないため容易に区別できる。 生息環境：湖沼（ため池）に生息する。
生息・生育状況	東広島市高屋で 1999 年に採集された例が唯一の記録である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ため池の統廃合や改修、管理放棄などにより、生息環境が悪化、減少している。
特記事項	—
産地情報	東広島市（高屋）

中村慎吾・野崎陽子・野崎達也 2004. 広島県東広島市高屋地区の昆虫類. 比和科学博物館研究報告, 43: 293-336.

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

(野崎達也)

ヒメコムズムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Sigara matsumurai Jaczewski, 1968

カメムシ目異翅亜目 ミズムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州, 大隅 (種子島) 国外分布: ー 形態: 体長 3.5~4.3 mm。県内に分布するコムズムシ類 (<i>Sigara</i> 属) の中で最小である。 生息環境: ため池の浅場や休耕田由来の湿地など, とくに水深の浅い止水域に生息する。
生息・生育状況	県内に広く分布すると考えられるものの既産地は少ない。その生息環境は, ため池の浅場や休耕田由来の湿地など, 水深の浅い不安定な環境が多く, 環境変化の影響を受けやすい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ため池の統廃合や改修, 管理放棄などにより, 生息環境が悪化, 減少している。
特記事項	ー
産地情報	広島市 (安佐北区), 安芸高田市 (吉田), 江田島市 (大柿)

野崎達也・野崎陽子 2011. 庄原市立比和自然科学博物館所蔵のカメムシ目標本の再検討 (1). 比和科学博物館研究報告, 52: 13-21.

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

(野崎達也)

ケシウミアメンボ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Halovelia septentrionalis Esaki, 1926

カメムシ目異翅亜目 カタビロアメンボ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州, トカラ (中之島・宝島), 奄美 (奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島), 沖縄 (沖縄本島・伊平屋島・伊是名島・粟国島・渡名喜島・久米島), 硫黄島, 宮古 (宮古島・伊良部島), 八重山 (石垣島・西表島・与那国島), 尖閣 (北小島) 国外分布: 台湾 形態: 体長 1.5~2.4 mm。体形は丸く, 体表面は全体が光沢のないベルベット状の黒色を呈する。 生息環境: 沿岸性で, おもに岩礁帯の潮間帯に生息する。
生息・生育状況	2003年に初めて記録された種であるが, その後, 島嶼部を中心に比較的広く分布していることが明らかになっている。ウミアメンボ類に比べて環境適応性がやや高く, 外海に面した小規模な岩礁地や漁港などからも発見されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為による入り江, 河口, 自然海岸の改変 (埋め立て, 人工護岸化) にともなって, 生息環境が減少している。
特記事項	ー
産地情報	呉市 (倉橋, 下蒲刈, 蒲刈), 廿日市市 (宮島), 江田島市 (大柿)

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫-科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会, 神奈川.

(野崎達也)

エサキアメンボ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Limnopus esakii (Miyamoto, 1958)

カメムシ目異翅亜目 アメンボ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州，対馬 国外分布：朝鮮半島，中国 形態：体長 9.1～10.5 mm。体は暗褐色～褐色で，体側にある銀白色毛による縦帯により，他のアメンボ類に比べ繊細でスマートな印象を与える。 生息環境：湖沼（ため池）や河川の抽水植物群落内に生息する。
生息・生育状況	旧大柿町で 2010 年に初めて記録された種である。ヨシ等の抽水植物群落内のやや暗い水面に生息し，開放水域には出てこないため，発見が困難で分布解明が遅れている。現時点での既産地は 1 か所のみであるが，今後新たな産地が発見される可能性が高い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ため池の統廃合や改修，管理放棄などにより，生息環境が悪化，減少している。
特記事項	—
産地情報	江田島市（大柿）

野崎達也・野崎陽子 2011. 広島県の水生半翅類. 比婆科学, 238: 1-14.

河合禎二・谷田一三(編) 2005. 日本産水生昆虫-科・属・種への検索-. 1342 pp. 東海大学出版会, 神奈川.

(野崎達也)

コエゾゼミ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Auritibicen bihamatus (Motschulsky, 1861)

カメムシ目頸吻亜目 セミ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：千島（国後島），色丹島，北海道，礼文島，焼尻島，天売島，奥尻島，本州（広島県以東），四国 国外分布：極東ロシア 形態：体長 50～56 mm。中型のセミ類で，中胸背は黒地に黄色のW紋を有し，前胸背を取り囲む黄白色の帯は左右 2 か所で切断される。酷似するキュウシュウエゾゼミ <i>A. kyushuensis</i> とは，雄腹弁が細長く左右がはっきりと分かれることなどで区別される。 生息環境：標高 700 m を超える高標高域の広葉樹林帯に生息する。
生息・生育状況	県内の産地は比婆山系以東の脊梁部に局限される。そのうえで，近年の地球温暖化の進行により，生息環境および生息条件が悪化している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	エゾゼミ類の中でもっとも高標高帯に生息する北方系の種であり，温暖化の進行による生息環境が悪化，減少が懸念される。
特記事項	広島県は本種の分布西限地であり，東中国山地以東にコエゾゼミが，西中国山地以西に酷似種キュウシュウエゾゼミが分布する。この 2 種は，四国地方においては同一山系に分布し標高帯ですみ分けているのに対し，中国地方では地域的なすみ分けが見られる点に特徴がある。両種の分布境界に及ぼす地球温暖化の影響についても，長期的視点で留意すべき事項である。
産地情報	庄原市

林 正美・税所康正編 2011. 日本産セミ科図鑑. 223pp. 誠文堂新光社, 東京.

(野崎達也)

ヒメハルゼミ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Euterpnosia chibensis chibensis Matsumura, 1917

カメムシ目 頸吻亜目 セミ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 伊豆 (大島), 淡路島, 四国, 九州, 奄美, 五島列島, 甌島列島, 大隅 (薩摩黒島・種子島・屋久島・口永良部島), トカラ (口之島・中之島・諏訪之瀬島), 奄美 (奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島・徳之島) 国外分布: ー 形態: 体長は雄で 24.5~29 mm, 雌で 23~26.5 mm。翅端までの全長は雌雄とも 32~36.5 mm。別属のハルゼミ <i>Terpnosia vacua</i> に似るが, 雄では第 4 腹節両側に角状突起を有すること, 雌では産卵管がより長いことで区別できる。 生息環境: 常緑広葉樹林の自然林, 二次林に生息する。
生息・生育状況	おもに県南部の広葉樹林帯に分布するが, 近年, 県北部からも少数が記録されている。本種の生息する常緑広葉樹林は平地や低山帯に多く, 人里に近接しているために開発による影響を受けやすい。広島市安佐北区 (高陽町) では絶滅した可能性が高い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為にともなう常緑広葉樹林 (シイ・カシ林) の伐採により, 生息環境が悪化, 減少している。
特記事項	ー
産地情報	三原市 (三原), 三次市 (三次), 庄原市 (口和), 廿日市市 (宮島), 安芸高田市 (吉田)

中村慎吾 2004. 口和町湯木でヒメハルゼミを採集. 比婆科学, 213: 35.

宮崎惣太 2004. 口和町金田でヒメハルゼミを採集. 比婆科学, 213: 39.

(野崎達也)

クヌギヒイロカスミカメ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Pseudoloxops miyamotoi Yasunaga, 1997

カメムシ目 異翅亜目 カスミカメシ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州 (栃木県・東京都・兵庫県・広島県), 九州 (長崎県・福岡県) 国外分布: ー 形態: 体長 3 mm 内外。体形は卵形で, 赤みを帯びた淡色地に赤褐色の斑紋を備える。また, 触角第 1 節が紅色となるほか, 後脚腿節先端に鮮紅色の斑紋を有する。 生息環境: 夏緑広葉樹の二次林 (クヌギ林) に生息する里山依存種である。
生息・生育状況	2009 年に北広島町掛頭山から初めて記録された種である。県内各地に生息に適した環境が残されていることから, 今後新たな産地が発見される可能性が高い。ただし, 生息環境となるクヌギ林の多くは, 人里近くに分布するため, 開発や管理放棄による影響を受けやすい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為にともなう夏緑広葉樹の二次林 (クヌギ林) の伐採, あるいは管理放棄により, 生息環境が悪化, 減少する可能性がある。また, ナラ枯れ病の拡大による生息環境の悪化, 減少も懸念される。
特記事項	ー
産地情報	北広島町 (芸北)

野崎達也・野崎陽子 2013. 広島県掛頭山の半翅目 (Hemiptera) . 高原の自然史, 15: 21-38.

(野崎達也)

ハリサシガメ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Acanthaspis cincticrus Stål, 1859

カメムシ目異翅亜目 サシガメ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，伊豆（新島），四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国，ミャンマー，インド 形態：体長 14.5～16 mm。黒色地に淡黄褐色の斑紋を装う。幼虫は粘着性の体毛を持ち，捕食したアリの死骸や枯葉などのごみを背負う特異な生態を有する。 生息環境：草原などの荒地の地表に生息する。
生息・生育状況	従来は，農耕地の畦畔やため池の堤体等の二次草地に広く分布していたと考えられるが，近年は発見例が少ない。県内各所に生息に適した環境が残されていることから，今後新たな産地が発見される可能性が高い。ただし，生息環境となる二次草地の多くは人里近くに分布するため，開発や管理放棄による影響を受けやすい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為にともなう草地の改変や管理放棄，圃場整備にともなう畦畔植生の質的变化などにより，生息環境が悪化，減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	大竹市

中村慎吾・辻村匡志 2007. 広島県弥栄ダムの昆虫類 2005 年の調査結果. 比婆科学, 222: 1-142.

(野崎達也)

シロヘリツチカメムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Canthophorus niveimarginatus Scott, 1874

カメムシ目異翅亜目 ツチカメムシ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，佐渡島，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国，モンゴル，ロシア，ベトナム，インド，カザフスタン，フィンランド 形態：体長 5～8 mm。体は楕円形で，体色は光沢のある黒味の強い藍色で，体側に沿って黄白色の縁取りがある。 生息環境：河川敷等のカナビキソウが生育する草地に生息する。
生息・生育状況	カナビキソウの生育する草地に生息し，とくに河川敷草地からの発見例が多い。カナビキソウは，山野の日当たりのよい草地に生育することから，こうした環境から新たな産地が発見される可能性が高い。ただし，生息環境となる草地の多くは人里近くに分布するため，開発や河川改修による影響を受けやすい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為にともなうカナビキソウの生育する草地の改変や管理放棄などにより，生息環境が悪化，減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	三次市（三次），東広島市（高屋），安芸太田町（戸河内）

中村慎吾・野崎陽子・野崎達也 2004. 広島県東広島市高屋地区の昆虫類. 比和科学博物館研究報告, 43: 293-336.

亀山剛・西真弘・中村慎吾 2006. 広島県太田川の昆虫類 2003 年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, 47: 1-184.

(野崎達也)

ニシキキンカメムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b, NT-c

Poecilocoris splendidulus Esaki, 1935

カメムシ目異翅亜目 キンカメムシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国 形態: 体長 16~20 mm。大型種で, 光沢のある金緑色に紫赤色の帯紋を備えた美麗種である。 生息環境: 石灰岩地に生育するツゲ類に生息する。とくに帝釈峽を含む阿哲地方の個体群は, チョウセンヒメツゲを寄主としていることが判明している。
生息・生育状況	チョウセンヒメツゲの生育する石灰岩地の崖地に生息し, 県内では帝釈峽一帯にのみ分布している。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	生息地の環境は比較的安定しているものの, 中国山地唯一の産地(阿哲地方)で孤立した個体群であり, 環境変化が生じた場合の脆弱性が高い種である。また, 美麗種ゆえ, 捕獲圧による影響も懸念される。
特記事項	—
産地情報	庄原市(東城), 神石高原町(神石)

中崎清隆・田上雅生 2006. ニシキキンカメムシの一生態. 広島虫の会会報, 45: 8.

(野崎達也)

キバネツトンボ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Libelloides ramburi (McLachlan, 1875)

アミメカゲロウ目 ツトンボ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 九州 国外分布: — 形態: 前翅長: 24~28 mm。触角は黒色で長く, 前翅前縁の中央を超える。前翅は透明で後縁基部に淡黄色の斑紋がある。後翅は黒色から暗褐色で, 淡黄色の条斑紋がある。 生息環境: 平地や緩傾斜地にある, ススキが疎生する乾燥した草原や荒地など。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	広域に分布するが, 生息地はやや局地的である。本種が生息するススキが疎生する乾燥した草原や荒地は, 耕作地への転換やソーラーパネルの設置など土地改変されやすい。また, 除草など適度に人為が加えられることで植生環境が維持されている生息地は, 行為の途絶により環境の劣化が進行するため, 継続的な発生は維持されにくい。緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事, ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 堤防整備による生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	呉市, 庄原市, 大竹市, 東広島市, 廿日市市, 安芸太田町, 北広島町, 神石高原町

中村慎吾・南 恭亮・畔上雅樹・小林達彦 2010. 広島県安芸太田町温井ダムの昆虫類 2007年~2008年の調査結果. 比婆科学, 234: 1-157.

中村慎吾・辻村匡志 2007. 広島県弥栄ダムの昆虫類 2005年の調査結果. 比婆科学, 222: 1-142.

(坂本 充)

エリザハンミョウ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Cylindera elisae novitia (Bates, 1883)

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国，台湾，シベリア南東部，モンゴル，チベット 形態：体長 9～11 mm。小型のハンミョウで，体型はやや幅広い。暗銅色で，上翅の淡色紋は強く湾曲する。 生息環境：海岸や河川敷，湖岸などの湿った粘土質や砂質の裸地に生息する。
生息・生育状況	生息地での個体数が多いが，生息地そのものは減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	洪水対策による河原の環境の改変や植生遷移による生息環境の消失。
特記事項	—
産地情報	広島市（中区，南区，安佐南区，安佐北区），呉市（安浦），尾道市（向島），庄原市（庄原），廿日市市（宮島），安芸高田市（八千代），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北）

中村慎吾・秋山美文・寺田勝幸 1993. 広島県のオサムシ類. 比和科学博物館研究報告, 31: 1-42.

小阪敏和 1986. 広島県産甲虫ノート (10) . 広島虫の会会報, 25: 55-57.

(秋山美文)

タイシャクメクラチビゴミムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Trechiana insolitus S. Ueno, 1959

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	国内分布：広島県 国外分布：— 形態：体長 6 mm 内外。アメ色の体色で複眼は退化している。 生息環境：地下浅層や石灰岩洞窟に生息し，地下生活に適応している。
生息・生育状況	現在確認されているのは 1 か所の洞窟のみで，個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息が確認されていた洞窟でも，大雨で洞窟内に水が流れ込み，その後は確認できなくなった例がある。
特記事項	帝釈峡の特産種。
産地情報	庄原市（東城），神石高原町（神石）

UÉNO, S. 1959. The Cave Trechids from the Central part of the Chugoku District, Japan (III). Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto, 26: 29-36.

(秋山美文)

キバネキバナガミズギワゴミムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Cillenus aestuarii S. Ueno & Habu, 1955

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 4.5 mm 内外。長い大顎を持ち，上翅は黄褐色で暗色の不明瞭な斑紋がある。 生息環境：大型河川の河口域に広がる，砂泥質の干潟に生息する。
生息・生育状況	生息地での個体数は多いと思われるが未確認。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	河川や護岸工事の影響を受けやすい。同じような環境でも生息していないこともあるため，工事に当たっては注意が必要である。
特記事項	—
産地情報	広島市（中区，南区，西区），廿日市市（宮島）

寺田勝幸 1984. 台風通過後に広島市太田川河川敷で得られたオサムシ科，ハネカクシ科，及びアリモドキ科. 広島虫の会会報, 22: 1-6.

寺田勝幸 1996. 新ことうへい橋（広島市）のアシ原で発見された好汽水域のゴミムシ類. 広島虫の会会報, 35: 34.

(秋山美文)

キバナガミズギワゴミムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Cillenus yokohamae (Bates, 1883)

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 4.2 mm 内外。体色は黒く，大顎は長い。 生息環境：河口域の右下に生息するほか，灯火にも飛来する。
生息・生育状況	生息地は限定されるが，生息地での個体数は少なくない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	護岸工事や港湾工事などにより，生息地の改変が行われやすい場所である。
特記事項	—
産地情報	広島市（中区，東区，西区），三原市（三原），廿日市市（廿日市，宮島）

寺田勝幸 1984. 台風通過後に広島市太田川河川敷で得られたオサムシ科，ハネカクシ科，及びアリモドキ科. 広島虫の会会報, 22: 1-6.

寺田勝幸 1996. 新ことうへい橋（広島市）のアシ原で発見された好汽水域のゴミムシ類. 広島虫の会会報, 35: 34.

(秋山美文)

クロホシコガシラミズムシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Haliphus basinotatus latiusculus Nakane, 1985

コウチュウ目 コガシラミズムシ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州，対馬 国外分布：朝鮮半島，中国，ロシア極東部 形態：体長 3.9～4.1 mm。体型は卵形で，体色は黄褐色。前翅には明瞭な黒色斑紋がある。ヒメコガシラミズムシ <i>H. ovalis</i> に似るが，本種の上翅基縁は黒色に縁取られる点で区別される。また，マダラコガシラミズムシ <i>H. sharpi</i> にも似るが，上翅会合部に沿った黒色条斑は細く，第1点刻列に達しない点で区別される。 生息環境：水生植物が繁茂するため池や水田周辺の掘割，湿地化した休耕田など。 その他：成虫は動物質を，幼虫は糸状の藻類を食べる。
生息・生育状況	広域に分布するが，生息地はやや局地的で個体数も少ない。幼虫の食物である藻類が繁殖する掘割や湿地化した休耕田などが，土地改変や植生遷移の進行などによって失われ続けている。また，農薬の影響を受けやすいため，減少していると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地改変による生息地の消失。 植生遷移の進行による湿地の陸地化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	三原市，府中市，三次市，庄原市，東広島市，江田島市，世羅町

秋山美文 2002. 広島県産甲虫の分布記録 (6) . 比和科学博物館研究報告, 41: 85-103.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

キイロコガシラミズムシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Haliphus eximius Clark, 1963

コウチュウ目 コガシラミズムシ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州（関東地方以西），四国，九州，対馬，南西諸島（与那国島） 国外分布：朝鮮半島，中国～東南アジア 形態：体長 3.2～3.5 mm。体色は黄褐色。前翅には明瞭な黒色斑紋はなく，この点でコガシラミズムシ類の他種と区別される。ただし，会合線の先端約 1/2 がやや黒ずみ，外側縁に沿って 2～3 の不明瞭な黒色斑紋をそなえる個体もいる。 生息環境：水生植物が繁茂するため池や水田周辺の掘割，湿地化した休耕田。 その他：成虫は動物質を，幼虫は糸状の藻類を食べる。
生息・生育状況	広域に分布するが，生息地はやや局地的である。幼虫の食物となる藻類が繁殖する掘割や河川敷の定常的なたまり水，湿地化した休耕田などは，土地改変や植生遷移の進行などによって失われ続けている。また，農薬の影響を受けやすいため，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	三原市，府中市，三次市，庄原市，東広島市，江田島市，世羅町，神石高原町

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

坂本 充 2000. 広島県産昆虫類の分布資料 (3) -倉橋島, 江田島, 能美島, 上蒲刈島, 下蒲刈島の水生甲虫類-. 比婆科学, 193: 1-14.

(坂本 充)

マダラコガシラミズムシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Haliplus sharpi Wehncke, 1880

コウチュウ目 コガシラミズムシ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州，種子島 国外分布：朝鮮半島，中国，台湾 形態：体長 3.3～3.8 mm。体色は黄褐色～黄赤褐色。前翅には明瞭な黒色斑紋がある。ヒメコガシラミズムシ <i>H. ovalis</i> に似るが，本種の上翅基縁は黒色に幅広く縁取られる点で区別される。また，クロホシコガシラミズムシ <i>H. jbasinotatus latiusculus</i> にも似るが，上翅会合部に沿った黒色条斑は太く，第1点刻列に達する点で区別される。 生息環境：水生植物が繁茂するため池や水田周辺の掘割，湿地化した休耕田など。 その他：成虫は動物質を，幼虫は糸状の藻類を食べる。
生息・生育状況	広域に分布するが，生息地は局地的である。個体数は少なく，クロホシコガシラミズムシよりさらにまれである。幼虫の食物となる藻類が繁殖する掘割や河川敷の定常的なたまり水，湿地化した休耕田などは，土地改変や植生遷移の進行などによって失われ続けている。また，農薬の影響を受けやすいため，減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置などによる生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	三原市，庄原市，東広島市，神石高原町

大塚健之 2015. 広島県神石高原町で採集したコウチュウの記録. 広島虫の会会報, 54: 89-91.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

カンムリセスジゲンゴロウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Copelatus kammuriensis Tamu & Tsukamoto, 1955

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州（近畿地方以西），四国，九州 国外分布：— 形態：体長 4.6～5.6 mm。体型は長卵形で，体厚は扁平。頭部，前胸背板，上翅は褐色から暗褐色で，鈍い光沢がある。上翅の基部は白色に縁取られる。テラニセスジゲンゴロウ <i>C. kammuriensis</i> とナチセスジゲンゴロウ <i>C. tomokunii</i> に似るが，本種の雄交尾器中央片は，中央部が湾曲と同方向（内方）にのみこぶ状に突出する点で区別できる。雌の区別は困難。 生息環境：平地や丘陵地にある，湿地化した休耕田，造成地や低茎草原にある定常的な水たまりなど。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	広域に分布するが，生息地はやや局地的である。2020年に，東広島市西条の湿地化した休耕田で，多数の個体を確認した。島嶼部には多産地もあったが，近年，道路の敷設やソーラーパネルの設置などの土地改変によってほとんどが消失した。また，農薬の影響を受けやすいため，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置などによる生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	呉市，福山市，三次市，東広島市

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

坂本 充 2000. 広島県産昆虫類の分布資料 (3) -倉橋島, 江田島, 能美島, 上蒲刈島, 下蒲刈島の水生甲虫類-. 比婆科学, 193: 1-14.

(坂本 充)

ナチセスジゲンゴロウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Copelatus tomokunii M. Sato, 1985

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州（東海地方以西）、九州（宮崎県） 国外分布：— 形態：体長 4.5～4.9 mm。体型は長卵形で、体厚は扁平。頭部、前胸背板、上翅は褐色～暗褐色で、鈍い光沢がある。上翅の全体が淡色となる個体も多い。カンムリセスジゲンゴロウ <i>C. kammuriensis</i> やテラニセスジゲンゴロウ <i>C. teranishii</i> に似るが、雄の交尾器中央片は強く湾曲せず、半円状にならない点で区別できる。雌の区別は困難。 生息環境：樹林内の細流や、林道上にある定常的な水たまりなど。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	既知生息地域は、呉市の野呂山山頂付近に局限される。樹林内を流れる小溪流の淀みや定常的な水たまりで繁殖している。2020年に再確認したが、過去に比較して個体数は少なかった。渇水や集中豪雨による林床土壌の流入などにより生息環境が劣化することで、緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路の敷設・拡幅などによる生息環境の消失や劣化。 集中豪雨による生息環境の劣化。 長期渇水による生息環境の劣化や消失。
特記事項	広島県の個体群は、中国地方唯一であり、学術的に貴重である。 第3版では、本種の和名を「トモクニセスジゲンゴロウ」として掲載したが、現在は「ナチセスジゲンゴロウ」と称することが一般的であるために変更した。
産地情報	呉市

坂本 充・秋山美文 2003. ナチセスジゲンゴロウの広島県における記録. 月刊むし, 367: 49.

(坂本 充)

オオミズスマシ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Dineutus orientalis (Modeer, 1776)

コウチュウ目 ミズスマシ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道、本州、四国、九州、南西諸島 国外分布：朝鮮半島、中国、サハリン、シベリア、ベトナム、ラオス 形態：体長 7～12 mm。背面は光沢のある黒褐色。前胸背板上と上翅の側縁は黄色に縁取られる。上翅側縁後端は、棘状となって後方に突出する。 生息環境：水生植物が繁茂するため池。 その他：止水性種。
生息・生育状況	広域に分布する。既知生息地数はミズスマシ <i>Gyrinus japonicus</i> とともに多く、かつては普通種だった。本種を含むミズスマシ類の多くの種は、近年、全国的に著しく減少している。県内における本種の確認例のほとんどは、2000年代までのものである。2010年以降は絶えていたが、2020年に世羅町の二つのため池で確認された。こうした減少過程は、他のミズスマシ類やゲンゴロウ類と共通している。減少の主要因の一つとして、ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とするイネの箱苗殺虫殺菌剤の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事など土地改変による生息環境の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる幼虫への捕食圧。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。
特記事項	広域分布種で、既知生息地数も多い普通種であったが、2000年代以降、明らかに減少していることを鑑み、「準絶滅危惧(NT)」に選定した。
産地情報	広島市、呉市、三原市、尾道市、福山市、三次市、庄原市、東広島市、江田島市、熊野町、北広島町、世羅町、神石高原町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門委員会編）, p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

中村慎吾・喜田 賢 2010. 広島県庄原市西城町南西部の昆虫, 2006年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, 51: 1-114.

(坂本 充)

コオナガミズスマシ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Orectochilus punctipennis Sharp, 1884

コウチュウ目 ミズスマシ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島（韓国），シベリア 形態：体長 5.5～6.2 mm。体型は長楕円形で，背面に強く膨隆する。背面は黒色で，全面に褐色の短毛を装う。オナガミズスマシ <i>O. regimbarti</i> とツマキレオナガミズスマシ <i>O. agilis</i> に似るが，本種の体長は 7 mm 以下で，上翅会合部の最先端は，上翅側縁後端の裁断部より外側に位置する。また，雄交尾器の中央片の側部に細毛をそなえないなどの点で区別できる。 生息環境：河川中・下流域にある，岸辺にツルヨシなどが繁茂する緩流域。 その他：流水性種。
生息・生育状況	広域に分布するが，生息地はやや局地的である。本種を含むミズスマシ類の多くの種は，全国的に著しく減少している。県内における本種の確認例のほとんどは，2000 年代までのものである。2010 年に北広島町川戸で確認された以降，確認例は途絶えていたが，広島市安佐北区を流れる太田川の支流で，2017～2020 年にかけて継続的に確認された。本種はおもに河川中・下流域に生息し，近年，多発している集中豪雨による河川の出水と，その後の復旧工事の影響を受けやすいことから，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川改修や護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 生活排水や産業排水，農薬などの流入による生息環境の劣化。 激しい増水による生息環境の劣化や消失。
特記事項	広域分布種で，既知生息地数も多いが，2010 年代以降，緩やかに減少していることを鑑み，「準絶滅危惧」相当と判断した。
産地情報	広島市，福山市，府中市，庄原市，廿日市市，安芸高田市（美土里），世羅町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門委員会編），p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

秋山美文 2008. 広島県産甲虫の分布記録（8）. 比和科学博物館研究報告, 49: 119-146.

(坂本 充)

キベリマメゲンゴロウ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Platambus fimbriatus Sharp, 1884

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州； 国外分布：朝鮮半島，中国，ロシア極東部 形態：体長 6.5～8.5 mm。体型は長楕円形。体色は黒色～暗赤褐色で，強い光沢がある。モンキマメゲンゴロウ <i>P. pictipennis</i> に似るが，本種の上翅側縁は黄色に縁取られる点で区別できる。 生息環境：河川中・下流域にある，岸辺に水生植物が繁茂する緩流域。
生息・生育状況	局地的に分布する。現在，本種の生息を確実に確認できるのは，芦田川とその支流に限られる。同地域での個体数は少ない。しかし，近年，多発している集中豪雨による河川の出水と，その後の復旧工事により，生息環境は大きく劣化していることから，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫，護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化や消失。 生活排水や産業排水，農薬などの流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市，尾道市，福山市，府中市

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

中村慎吾・波多野玄・阿部直巳 2012. 広島県芦田川の昆虫類 2010 年の調査結果. 比婆科学, 241: 1-88.

(坂本 充)

オオヒメゲンゴロウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Rhantus erraticus Sharp, 1884

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省：なし

広島県 2011：NT

広島県 2003：なし

概要	国内分布：北海道，本州（山陽地方以北） 国外分布：ロシア極東部 形態：体長 13～14 mm。体型は長楕円形で，体厚は扁平。ヒメゲンゴロウ <i>R. pulverosus</i> に似るが，本種はより大型で，前胸背板中央の黒色の横条斑紋は長く伸長し，複眼間長を越える点で区別できる。 生息環境：内陸部にある，オオミズゴケが堆積した中間湿原やため池など。
生息・生育状況	既知生息地域は，北広島町八幡高原と庄原市東城に限られる。八幡高原ではオオミズゴケが堆積した中間湿原に生息する。多数のメタ個体群が維持されているが，乾燥化が進行している湿原もある。東城ではオオミズゴケが堆積したため池で確認されているが，個体数はきわめて少ない。また，道路脇にあることから，拡幅工事など土地改変による環境の劣化や消失が懸念される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	林道の敷設や拡幅による生息環境の劣化や消失。 森林伐採や植生遷移の進行，人の踏み込みなどによる生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	庄原市，北広島町

秋山美文 2012. 広島県産甲虫の記録. 広島虫の会会報, 51: 39-46.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

マルヒラタガムシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Enochrus subsignatus (Harold, 1877)

コウチュウ目 ガムシ科

環境省：NT

広島県 2011：NT

広島県 2003：NT

概要	国内分布：本州，四国，九州，南西諸島 国外分布：朝鮮半島，中国，台湾 形態：体長 4.8～5 mm。体型は楕円形で，背面はやや膨隆する。頭部，前胸背板は赤褐色。上翅は淡褐色で，不鮮明な黒色から暗褐色の縦条斑紋をそなえる。中胸腹板は板状に突出し，前角には歯をそなえる。 生息環境：臨海部にある，水生植物が繁茂する池沼やため池，湿地化した休耕田，ハス田など。
生息・生育状況	既知生息地域は，江田島と能美島に限られる。2019・2020年に東能美島深江で確認された。2000年以降，道路の拡幅や植生遷移の進行による湿地の乾燥化により，生息地の環境劣化や消失が進んでいることから，明らかに減少しつつある。主要因の一つとして，ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とする農薬の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	江田島市

坂本 充 2000. 広島県産昆虫類の分布資料 (3) -倉橋島，江田島，能美島，上蒲刈島，下蒲刈島の水生甲虫類-. 比婆科学, 193: 1-14.

(坂本 充)

ナカネダルマガムシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Ochthebius nakanei Matsui, 1986

コウチュウ目 ダルマガムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州, 九州 国外分布: ー 形態: 体長 1.9~2.4 mm。体型はゆるやかな長楕円形。体色は全体がほぼ黒色で緑色の強い金属光沢がある。セスジダルマガムシ属 <i>Gen. Ochthebius</i> の他種に似るが, 前胸背板はより長く, 側縁後半は強くくびれ, 脚は明るい黄色となるなどの点で区別できる。 生息環境: 水質が良好で河川勾配が小さく, 岸辺に樹林が発達した閉鎖的な溪流。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	確実な確認例は少ない。既知生息地が北西部に限られるのは, 個体数が少なく, うす暗い溪流に生息するために確認が困難であることに起因していると考えられる。多くの生息地は, 2014年8月の集中豪雨による激しい出水により, 流路と周辺の景観が著しく変容した。2015年以降, 数地点でモニタリングを開始したが, 2020年現在まで再確認されていない。明らかに減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅などによる生息環境の劣化や消失。 生活排水や農薬の流入による水質の劣化。 河川の激しい増水による生息環境の劣化。
特記事項	ー
産地情報	廿日市市, 安芸高田市, 北広島町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門委員会編), p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

(坂本 充)

オオクワガタ 準絶滅危惧(NT) NT-b, NT-c, NT-d

Dorcus hopei binodulosus Waterhouse, 1874

コウチュウ目 クワガタムシ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国 形態: 体長: 雄 27~53 mm, 雌 25~40 mm。全体黒色。 生息環境: 樹洞がある古木を交える林。
生息・生育状況	個体数が少なく, 散発的に確認されている。近年の記録は1例だけである。飼育個体の放逐などによる, 明らかに野生個体ではないと判断される採集記録もあり, 生息状況の判断が困難になっている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	飼育個体が放逐されたり, 同属外来種との交雑や競合などが心配される他, ペットとして扱われることが多いため, 採集圧も懸念される。
特記事項	ー
産地情報	広島市 (東区), 尾道市 (尾道), 庄原市 (庄原), 廿日市市 (佐伯, 吉和), 世羅町 (甲山)

小阪敏和 1973. 広島県産甲虫ノート (7). 広島虫の会会報, 12: 3-5.

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物 (第3版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2012~2017年). 比婆科学, 263: 33-35.

(秋山美文)

コブナシコブスジコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Trox nohirai Nakane, 1954

コウチュウ目 コブスジコガネ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 5.5～7.2 mm。黒色で，背面には光沢がある。コブスジコガネとしては例外的に，コブや毛塊を欠く。 生息環境：林内やその周辺。
生息・生育状況	近年灯火に飛来した個体が記録されているが，まとまって採集されることはない。薄く広く分布しているようである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	フクロウの営巣できる樹洞がある自然度の高い林が必要で，林の伐採や改変によりフクロウの営巣環境が消失することが危険要因となる。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐南区），庄原市（庄原），廿日市市（吉和），安芸太田町（戸河内）

角島幸二・小阪敏和 2012. 広島市安佐南区沼田町のコガネムシ類. 広島虫の会会報, 51: 32.

水田國康・東常哲也 1991. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 30: 39-47.

(秋山美文)

チビコブスジコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Trox niponensis Lewis, 1895

コウチュウ目 コブスジコガネ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 4.3～6.5 mm。表面の被覆物が少なく暗褐色。頭部にコブを欠き，前胸背中央に浅い縦溝をもつ。 生息環境：サギのコロニーなど，餌となる乾燥動物質のあるところ周辺。 その他：フクロウの巣で幼虫が育つ。
生息・生育状況	旧吉和村のみの記録があり，現在の生息状況は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	自然度の高い森林が伐採されると，フクロウなどが営巣できる環境が消失し，その結果，本種も生息できなくなると懸念される。
特記事項	—
産地情報	廿日市市（吉和）

水田國康・西 真弘 2000. 広島県産フン虫の記録追加(3). 広島虫の会会報, 39: 14.

大塚健之 2012. 2012年までに広島県内各地で採集した甲虫の記録. 広島虫の会会報, 51: 47-54.

(秋山美文)

ゴホンダイコクコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Copris acutidens Motschulsky, 1860

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：中国 形態：体長 10～16 mm。光沢のある黒色で，雄成虫の頭部に 1 本，前胸に 4 本の角をもつ。 生息環境：牛の放牧地やシカ生息地。
生息・生育状況	各地で牛を飼育していた時代には広く生息していたが，牛の飼育をやめたり，配合飼料で飼育することが普通になり，しだいに減少している。ホンシュウジカの個体密度が増加している広島市近郊の一部地域を除き，従来の生息地における近年の記録は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区），庄原市（庄原，西城，東城，高野，比和），廿日市市（宮島），神石高原町（油木，神石，豊松）

水田國康 1987. 1987 年備北のフン虫. 広島虫の会報, 48: 7-9.

水田國康・西 真弘 1998. 広島県産フン虫の記録追加(2). 広島虫の会報, 37: 5-6.

(秋山美文)

ツノコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Liatongus minutus (Motschulsky, 1860)

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国，台湾，インドシナ半島からインド，ヒマラヤ 形態：体長 7～11.3 mm。光沢のない黒色から暗褐色。雄は頭部に後方に湾曲した角を持ち，前胸背は中央が広くくぼみ周縁は角張って隆起する。雌は角がなく，前胸背中央は縦にくぼみ，その両側と前方は隆起する。 生息環境：山間の放牧地や山地の獣糞に集まる。
生息・生育状況	各地で牛を飼育していた時代には広く生息していたが，牛の放牧が行われなくなり，近年の記録は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	餌資源の枯渇が最大の要因と考えられる。
特記事項	—
産地情報	広島市（南区，安佐北区），三次市（三良坂），庄原市（庄原，西城，東城，高野，比和），東広島市（福富），廿日市市（吉和），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北），神石高原町（油木，豊松）

水田國康・西 真弘 1998. 広島県産フン虫の記録追加(2). 広島虫の会報, 37: 5-6.

水田國康・東常哲也 1991. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会報, 30: 39-47.

(秋山美文)

マルエンマコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Onthophagus viduus Harold, 1874

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省：なし

広島県 2011： NT

広島県 2003： VU

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州，南西諸島 国外分布：朝鮮半島，中国 形態：体長 5.0～9.8 mm。やや光沢のある黒色～黒褐色。上翅基部と翅端部に赤褐色紋をもつこともある。雄頭部前縁は強く上反し，前胸背に2個のコブとその前方中央にまるく大きなくぼみをもつ。 生息環境：獣糞のある河川敷などのオープンランド。
生息・生育状況	琉球地方以外では，全国的に個体数が減少している。本県においては，呉市での記録があるのみで，現状は不明。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	平野部の獣糞に依存していると考えられ，犬糞等餌資源の減少が危険要因となる。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉）

保田信紀・小阪敏和 1965. 呉市付近のコガネムシ. 広島虫の会会報, 4: 41-43.

水田國康・東常哲也 1991. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 30: 39-47.

(秋山美文)

オオフタホシマグソコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Aphodius elegans Allibert, 1847

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省：なし

広島県 2011： NT

広島県 2003： なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州，南西諸島 国外分布：朝鮮半島，中国 形態：体長 11～13 mm。体は黒色で，上翅は黄褐色に中央後方に黒紋をもつ。 生息環境：牛の放牧場。
生息・生育状況	牛の飼育が各地で行われていた時代には普通種であったが，現在では非常にまれな種となった。現在でも生息しているのは，牛の放牧が行われている場所の周辺である。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉），三次市（三良坂），庄原市（庄原，東城，高野，比和），東広島市（西条），廿日市市（佐伯，吉和，宮島），安芸高田市（甲田），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北），神石高原町（油木，神石）

水田國康・小阪敏和・大澤省三 1972. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 11: 3-8.

水田國康・東常哲也 1991. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 30: 39-47.

(秋山美文)

コツヤマグソコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Aphodius maderi Balthasar, 1938

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州西部，九州 国外分布：中国，台湾 形態：体長 5～6 mm。光沢のある濃褐色。頭楯前縁はやや湾入し，微小点刻を散布し，中央を除いて大点刻を疎布する。 生息環境：林内のシカ糞や放牧地の牛糞に集まる。
生息・生育状況	既知産地のうち，高野町と比和町では放牧中止後生息の確認はできていない。宮島の場合はシカ糞を食べていると考えられるが，現状は確認できていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	局所的な分布をしており，シカの生息地でも広く生息しているとは限らない。生息地の分断が懸念される。
特記事項	—
産地情報	庄原市（高野，比和），廿日市市（宮島）

西 真弘 1997. 毛無山牧場でコツヤマグソコガネを採集. 広島虫の会会報, 36: 16.

水田國康・東常哲也 1991. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 30: 39-47.

(秋山美文)

オオマガソコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Aphodius quadratus Reiche, 1847

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，サハリン，シベリア東部 形態：体長 8～12.5 mm。光沢のある黒色～黄褐色。上翅間室に点刻を散布し，間室側縁は縁取られる。第1間室基部は隆起する。 生息環境：牛の放牧場。
生息・生育状況	牛の放牧地では近年でも確認されている。牛糞以外に集まるため，今後，シカの分布域で新しい産地が発見されるだろうと期待される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	庄原市（庄原，東城，高野，比和），東広島市（西条），廿日市市（佐伯，吉和），安芸高田市（甲田），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北），神石高原町（油木）

水田國康・東常哲也 1991. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 30: 39-47.

水田國康 2004. 広島県産フン虫の追加記録（4）. 広島虫の会会報, 43: 18.

(秋山美文)

ヨツボシマゲソコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Aphodius sordidus sordidus (Fabricius, 1775)

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，シベリア，コーカサス，ヨーロッパ 形態：体長 5～7.8 mm。光沢のある黄褐色で，上翅は肩付近と後方に 1 対ずつの黒紋をもつが，黒紋が消失することもある。 生息環境：牛の放牧地。
生息・生育状況	高野町や比和町の牛の放牧地では以前は普通に見られたが，放牧をやめるとともに生息地は減少し，生息地が消失してきた。
存在を脅かす要因・保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	庄原市（庄原，西城，高野，比和）

水田國康・東常哲也 1991. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 30: 39-47.

水田國康・小阪敏和・大澤省三 1972. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 11: 3-8.

(秋山美文)

ヒゲコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Polyphylla laticollis laticollis Lewis, 1887

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：関東以西の本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 29.2～39.5 mm。濃褐色の地に白斑を散らす。雄の触角片状部は長く，湾曲する。 生息環境：砂質の河原。
生息・生育状況	生息地は，江の川と太田川の流域に限定されている。生息地での個体数は多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川工事等で砂地の河原が消失することが懸念される。
特記事項	—
産地情報	広島市（東区，安佐南区，安佐北区），三次市（三次），安芸高田市（吉田，高宮），安芸太田町（戸河内）

中村慎吾・亀山 剛・片山舜輔 2001. 江の川の昆虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, 5: 17-114.

松田 賢・中村慎吾 1999. 江の川水系の昆虫類. 比和科学博物館研究報告, 37: 39-176.

(秋山美文)

シロスジコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Polyphylla albolineata (Motschulsky, 1861)

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 国外分布: ー 形態: 体長 27~35 mm。濃褐色で, 前胸と上翅にはそれぞれ 3 本の白条をもつ。雄の触角片状部は長く, 湾曲する。 生息環境: 海岸沿いの松林で得られることが多いが, 内陸部でも記録がある。
生息・生育状況	県西部から記録されている。松が減少するとともに記録が少なくなっている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	人里周辺にすむため, 環境の改変を受けやすい。また, 灯火に飛来することで, カラス等に食べられやすい。
特記事項	ー
産地情報	広島市 (中区, 西区), 呉市 (呉, 音戸), 大竹市, 廿日市市 (宮島), 坂町, 安芸太田町 (戸河内), 北広島町 (芸北)

野津幸夫 1996. 広島県産甲虫類の分布記録. 広島虫の会会報, 35: 27-33.

清水健一 2007. 尾崎沼でシロスジコガネを採集. 広島虫の会会報, 46: 40.

(秋山美文)

オオチャイロハナムグリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Osmoderma opicum Lewis, 1887

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島 形態: 体長 26.3~36.1 mm。黒褐色で, 鈍い光沢がある。上翅は上面が平たい。前胸背板中央に 1 対の縦隆起がある。縦隆起は, 雄では強く稜状, 雌ではかすか。 生息環境: 樹洞のある古木を交えた良好な状態の広葉樹林。
生息・生育状況	県内では, 西部に偏った分布をしているが, これは生息に適した樹洞のある古木が, 県西部に多いためである。樹洞周辺で見られ, 個体数は多くない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	古木が存在する良好な原生林の減少。森林の乾燥化。
特記事項	ー
産地情報	廿日市市 (吉和, 宮島), 安芸太田町 (筒賀, 戸河内), 北広島町 (芸北)

中村慎吾 1966. 広島県産コガネムシ・クワガタムシ類. 比和科学博物館研究報告, 10: 7-10.

小阪敏和 1990. 灯火に飛来した? オオチャイロハナムグリ. 広島虫の会会報, 29: 46.

(秋山美文)

ホソコハナムグリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Glycyphana gracilis viridis Sawada, 1942

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州西部, 四国, 九州 国外分布: 台湾 形態: 体長 10.8~12.4 mm。他の緑色のハナムグリ類に似るが, 体型が細く, 上翅は無紋か, 周縁部にのみ白斑をもつ。 生息環境: 暖地の林。
生息・生育状況	最近の記録は, 広島市沿岸部と宮島のみで, 沿岸部の林には生息している可能性が高い。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	人口密集地に接した地域で, 生息地の改変の恐れが高い地域である。
特記事項	—
産地情報	広島市 (南区, 西区), 呉市 (呉), 廿日市市 (宮島)

保田信紀・小阪敏和 1965. 呉市付近のコガネムシ. 広島虫の会報, 4: 41-43.

(秋山美文)

アカマダラコガネ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Anthrachophora rusticola Burmeister, 1842

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: DD

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国, ロシア東部, ベトナム 形態: 体長 15~21.6 mm。体はやや平たい長楕円形。背面は黄褐色と黒の斑状。 生息環境: 二次林周辺で見られる。 その他: 幼虫は大型鳥類の巣の中で成長する。
生息・生育状況	全国的に 1970 年代以降減少している。県内では各地から記録があるが, 1970 年代前半の記録を最後に記録がない。大型鳥類の営巣できる環境が減少してきたことが, 本種の生息にも影響していると考えられる。ただ, 生態が通常のコガネムシと異なることが, 発見を難しくしていることも考えられる。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	幼虫が育つ大型鳥類の営巣環境が失われることが, 本種の生息にも大きく影響する。
特記事項	—
産地情報	広島市 (東区, 南区, 安佐南区), 呉市 (呉), 庄原市 (高野, 比和), 廿日市市 (廿日市, 吉和, 宮島), 安芸太田町 (戸河内)

中村慎吾 1966. 広島県産コガネムシ・クワガタムシ類. 比和科学博物館研究報告, 10: 7-10.

渡辺泰明 1972. 内黒峠で採集した甲虫類(3). 広島虫の会報, 11: 14-17.

(秋山美文)

ヨコミゾドロムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Leptelmis gracilis Sharp, 1888

コウチュウ目 ヒメドロムシ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島 形態：体長 2.6～3 mm。体型はゴマの実様で，体色は全体がほぼ黒色。上翅に褐色の縦筋斑が現れる 個体もいる。前胸背板は強くくびれる。 生息環境：河床に流木が散在する河川中・下流域。
生息・生育状況	内陸部の広域に分布する。成虫，幼虫とも河床に沈んだ流木に付着して生活するため，集中豪雨による 出水や浚渫などの影響を受けやすい。2014年8月の集中豪雨は，激しい出水を発生させて，生息地の環境 を大きく劣化させた。現在の生息状況は明らかではないが，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	河道掘削や浚渫，護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化や消失。 生活排水や産業排水，農薬などの流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	非公開

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門委員会編），p. 339-351. 北広島町教育委員会.
北広島町.

秋山美文 2005. 広島県のヒメドロムシ科, 比和科学博物館研究報告, 44: 205-219.

(坂本 充)

ハガマルヒメドロムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Optioservus hagai Nomura, 1958

コウチュウ目 ヒメドロムシ科

環境省: EN

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州（鳥取県，島根県，広島県），九州（福岡県） 国外分布：— 形態：体長 2.2～2.5 mm。体型は短楕円形で，前胸背板と上翅は強く膨隆する。体色は黒色。上翅の 前縁と後端には赤褐色斑紋がある。 生息環境：内陸部にある，樹林内を流れる閉鎖的な小溪流。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	分布は局地的で，北広島町のブナ林内を流れる二つの溪流だけで確認されている。集中豪雨による出水 の影響を受けやすい環境に生息するため，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅などによる生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水や土砂の流入などによる生息環境の劣化や消失。
特記事項	—
産地情報	北広島町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門委員会編），p. 339-351. 北広島町教育委員会.
北広島町.

藤原淳一 2008. 広島県におけるハガマルヒメドロムシの記録. 甲虫ニュース, 162: 14.

(坂本 充)

ジウクホシテントウ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Anisosticta kobensis Lewis, 1896

コウチュウ目 テントウムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，シベリア，千島，中国 形態：体長 3.8～4.1 mm。テントウムシとしては縦長の体型で，黄褐色の地に黒点がある。黒点は前胸背に 6 個，上翅全体で 19 個あるが，黒点が消失することもある。 生息環境：湿地のアシ原。
生息・生育状況	生息環境が限定されるため，生息地は分断されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	平野部のアシ原は人為的に改変されやすい環境である。干拓地の悪水溜にできたアシ原に見られることが多く，埋め立てられやすい環境である。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉，音戸），竹原市，東広島市（安芸津）

秋山美文 1998. ウェットランドで得られた甲虫. 広島虫の会会報, 37: 13-14.

小阪敏和 1998. 広島県の甲虫 25 種. 広島虫の会会報, 37: 41-42.

(秋山美文)

ジウスンホシテントウ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Hippodamia tredecimpunctata (Linnaeus, 1758)

コウチュウ目 テントウムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：シベリア，朝鮮半島，中国，モンゴル，中央アジア，ヨーロッパ，北米 形態：体長 5.6～6.2 mm。テントウムシとしては細長い体型で，扁平。上翅は橙色で，左右あわせて 13 個の黒紋があるが，紋が消失することもある。 生息環境：湿地や川岸のアシ原。
生息・生育状況	生息環境が限定されるため，生息地は分断されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	平野部のアシ原は人為的に改変されやすい環境である。干拓地の悪水溜にできたアシ原に見られることが多く，埋め立てられやすい環境である。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区），福山市（福山），大竹市，東広島市（西条，八本松），安芸高田市（吉田）

佐々治寛之・秋山美文 1999. 広島県のテントウムシ科の分布記録 (2). 比和科学博物館研究報告, 37: 33-38.

中村慎吾・中島元康・浜口敬太 1998. 広島県大竹市小瀬川の昆虫類 1996 年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, 36: 53-142.

(秋山美文)

オオクロカミキリ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Megasemum quadricostulatum Kraatz, 1879

コウチュウ目 カミキリムシ科

環境省：なし

広島県 2011：NT

広島県 2003：NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，サハリン，シベリア東部 形態：体長 19～29 mm。雄は暗褐色，雌は黒色。サビカミキリやツシمامナクボカミキリに似るが，前胸背の中央は幅広くくぼむことでサビカミキリと，上翅端内角がまるく，棘状にならないことでツシمامナクボカミキリと区別できる。 生息環境：針葉樹を交えた二次林ないし自然林。
生息・生育状況	県西部から記録されているが，記録は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	県内ではおもにモミを植樹としているようで，モミの良好な林がなくなることは本種の生存に大きく影響を与える。
特記事項	—
産地情報	広島市（南区，安佐南区），廿日市市（吉和，宮島），安芸太田町（加計，戸河内），北広島町（芸北）

大林一夫 1934. 広島縣天牛科目録. 広島昆蟲同好會會誌, 1(2): 28-35.

赤木克己 1982. 広島県産カミキリムシ数種の採集記録. 広島虫の会会報, 21: 27-28.

(秋山美文)

フタスジカタビロハナカミキリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Brachyta bifasciata japonica (Matsushita, 1933)

コウチュウ目 カミキリムシ科

環境省：なし

広島県 2011：NT

広島県 2003：NT

概要	国内分布：本州，四国 国外分布：朝鮮半島・中国・極東アジアは別亜種 形態：体長 16～18 mm。体は黒色で，上翅は黄色く，小楯板周辺と肩後方の3対の小紋，上翅端とそのやや前方の紋は黒い。 生息環境：ヤマシャクヤクの自生地。 その他：一生を通じてヤマシャクヤクを食べる。
生息・生育状況	生息地での個体数は少なく，分布もヤマシャクヤクの生育地に限定される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	山野草としてヤマシャクヤクが掘りとられると本種の生存にも悪影響を与えるので，落葉広葉樹林の保全とヤマシャクヤク群落を保全することが必要である。
特記事項	—
産地情報	庄原市（高野，比和），廿日市市（吉和），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北）

矢野立志 1988. 比婆郡高野町で採集した特筆すべきカミキリムシ(2). 広島虫の会会報, 27: 65-66.

中崎清隆・赤木克己・岩本道彦・角島幸二 1984. 広島県産カミキリムシ20種. 広島虫の会会報, 23: 21-24.

(秋山美文)

セラネクイハムシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Donacia akiyamai Komiya, 2001

コウチュウ目 ハムシ科

環境省: DD

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州（静岡県，三重県，兵庫県，広島県） 国外分布：— 形態：体長 5.8～8.4 mm。体色は緑色がかった赤銅色で，強い金属光沢がある。後腿節の内側に雌は一つ，雄は二つの刺状突起をそなえる。ガガブタネクイハムシ <i>D. lenzi</i> やイネネクイハムシ <i>D. provostii</i> に似るが，本種は触角第3節が第2節より明らかに長く，雄の部第1節に1対のこぶ状突起がない点で区別できる。 生息環境：丘陵地にある，寄主植物であるオグラコウホネやコウホネなどが自生するため池。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	広域に分布するが，生息地はやや局地的である。生息地は，世羅・賀茂台地に多く，北西部では北広島町にある，孤立した数か所のため池に限られる。それらの一部では，集中豪雨に起因する土砂流入によって寄主植物であるコウホネ類が衰亡し，局所絶滅が確認された。また，アメリカザリガニの食害によってコウホネ類が衰亡し，局所絶滅した生息地もある。近年，緩やかに減少しつつあると推測される。北西部では著しい減少が疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 集中豪雨に起因する土砂流入による生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 アメリカザリガニの食害による寄主植物の減少。 ウシガエルによる成虫の捕食圧。
特記事項	—
産地情報	三原市，三次市，東広島市，北広島町，世羅町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門員会議編），p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔 2003. 中国山地及びその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 6: 1-25.

(坂本 充)

クロガネネクイハムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Donacia flemora Goecke, 1944

コウチュウ目 ハムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州 国外分布：ロシア，朝鮮半島，中国東北部 形態：体長 6.5～7 mm。体色は全体がほぼ黒色で，強い光沢がある。体色の変異は知られていない。 生息環境：内陸部にある，寄主植物であるスゲ類が繁茂する中間湿原やため池など。
生息・生育状況	県内の分布は2地域に局限される。北広島町八幡高原には多数のメタ個体群が存在する。しかし，乾燥化が進行している湿原もあり，減少が緩やかに進行しているおそれがある。一方，庄原市北部の湿原は狭く，個体群のサイズは小さい。同湿原の上端には，すでに道路が敷設されている。今後，周辺で森林伐採や道路の拡幅工事などが行われた場合，貴重な隔離個体群が一気に局所絶滅する可能性が高い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事など土地改変による生息環境の劣化や消失。 森林伐採や植生遷移の進行などによる生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	庄原市，北広島町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門員会議編），p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔 2003. 中国山地及びその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 6: 1-25.

(坂本 充)

アキミズクサハムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Plateumaris akiensis Tominaga & Katsura, 1984

コウチュウ目 ハムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州 (広島県) 国外分布: 一 形態: 体長 6.4~7.6 mm。体型は太く短い。体色は黒色から暗褐色で、銅色の金属光沢がある。前胸背板は盛り上がり、前縁の側部は突出して棘状となる。 生息環境: 西中国山地にある、寄主植物であるスゲ類や、訪花植物であるハリイ類が繁茂する中間湿原やため池など。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	北広島町の固有種で、既知生息地域は八幡高原と荒神原に局限される。八幡高原では多数のメタ個体群が維持されているが、乾燥化が進行している湿原もある。荒神原では数か所で確認されているが、いずれの生息地も道路脇にある小規模な湿原であることから、拡幅工事など土地改変による環境の劣化や消失が懸念される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅などによる生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	北広島町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議, 編), p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔 2003. 中国山地及びその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 6: 1-25.

(坂本 充)

キヌツヤミズクサハムシ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Plateumaris sericea (Linnaeus, 1761)

コウチュウ目 ハムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 北海道, 本州, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国, モンゴル, ロシア, 中央アジア, ヨーロッパ 形態: 体長 6.5~8.8 mm。体型はやや細長い筒状。体色は銅色, 黒色, 紫色, 緑色, 青色, 赤色と変異が大きく、強い金属光沢がある。金属光沢があるネクイハムシ類の他種に似るが、本種は腹部第1節長が第2~5節の合長より短い点で区別できる。 生息環境: 寄主・訪花植物であるスゲ類や、訪花植物であるハリイ類が繁茂する湿原やため池など。
生息・生育状況	既知生息地域は、東中国山地の庄原市域に局限される。発生個体数は少なくないが、生息地は孤立しており、ため池や湿原など生息環境の規模も小さい。道路の敷設や拡幅、森林伐採などにより、減少や局所絶滅が一気に進行する可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅などによる生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による湿原やため池の乾燥化。
特記事項	—
産地情報	庄原市

林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔 2003. 中国山地及びその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 6: 1-25.

秋山美文 2001. 広島県のネクイハムシの記録. 広島虫の会会報, 40: 15-17.

(坂本 充)

ムギクビボソハムシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Oulema erichsoni (Suffrian, 1841)

コウチュウ目 ハムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 北海道, 本州, 九州 国外分布: 南千島, サハリン, シベリア, ヨーロッパ 形態: 体長 4.3~4.8 mm。全体に光沢のある黒藍色で, 前胸は丸みがある。 生息環境: 小麦畑, 野生の麦類自生地。
生息・生育状況	麦栽培が盛んであった頃は各地に生息していたであろうが, その当時でも個体数は少なかったようで, 栽培麦が減少した今では非常にまれな状態になったと考えられる。いくつかの場所で記録されているが, 現状は不明。
存在を脅かす要因・保全の留意点	野生の麦類が生育する安定した環境が消失する。
特記事項	—
産地情報	三次市 (三次), 庄原市 (庄原), 世羅町 (甲山)

前藤文三 2003. 里山の昆虫誌—本村町 (大炭谷, 菅田) の昆虫—。比婆科学, 209: 1-236.

亀山 剛・片山舜輔・中村慎吾 2000. 広島県八田原ダムの昆虫類。比婆科学, 197: 1-187.

(秋山美文)

クロルリハムシ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Chrysolina difficilis yezoensis (Matsumura, 1911)

コウチュウ目 ハムシ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国 国外分布: サハリン 形態: 体長 5~8 mm。体色は暗藍色で弱い光沢がある。点刻列は 2 列 1 組である点でニッコウルリハムシに似るが, 前胸背には全体に強い点刻をもつ点で, 中央部に点刻をもたないニッコウルリハムシと区別できる。 生息環境: 平地~山地に生息。分布は局地的で, 日当たりのよい乾燥した環境に多い。 その他: オトギリソウを食べる。
生息・生育状況	西日本では隔離的に分布しており, 広島県では 1967 年に採集された標本があるのみで, その後まったく記録されていない。詳しい採集場所も不明であり, 現状は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息地が不明のため, 知らぬ間にいなくなることが強く懸念される。わずかな改変により生存を大きく脅かす事態になり得る。
特記事項	—
産地情報	北広島町 (芸北)

中村慎吾・秋山美文・木元新作 1994. 広島県産ハムシ科目録。比和科学博物館研究報告, 32: 69-101.

末長晴輝・竹本拓矢 2017. 中国・四国地方のシラタカハムシとクロルリハムシ。さやばね N.S., 28: 24-26.

(秋山美文)

シラタカハムシ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Chrysolina seriepunctata (Weise, 1887)

コウチュウ目 ハムシ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 山形県, 岡山県, 広島県 国外分布: ロシア極東地域 形態: 体長約 5.5 mm。体色は金属光沢を帯びた銅色である。クロルリハムシに似るが, 前胸背後援に点刻が並んでしわ状になることや, 上翅の点刻列が不規則なこと, 背面がより強く隆起することなどで区別できる。 生息環境: 湿地のミズオトギリに見られる。 その他: 成虫は夜行性である。
生息・生育状況	広島県では旧芸北町で 1965 年と 1968 年に採集された各 1 頭の標本が知られるのみで, 現状は不明である。本州に隔離的に分布する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ミズオトギリの生育する水に見られるが, 夜行性であり, 日中には食草付近で見られないため, 生息確認が困難である。
特記事項	2008 年に山形県で採集された標本に基づいて 2016 年に国内から初めて記録され, その後岡山県と広島県から記録された。現在も生息が確認されているのは山形県内の 2 か所のみである。
産地情報	北広島町 (芸北)

末長晴輝・竹本拓矢 2017. 中国・四国地方のシラタカハムシとクロルリハムシ. さやばね N.S., 28: 24-26.

秋山美文 2018. 庄原市立比和自然科学博物館に寄贈された渡部泰明氏採集の甲虫標本及び中本 寛・修氏採集のフン虫標本. 比和科学博物館標本資料報告, 18: 45-74.

(秋山美文)

エゾクシケアリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Myrmica jessensis Forel, 1901

ハチ目 アリ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 北海道, 本州 国外分布: サハリン 形態: 働きアリの体長は 3~4.5 mm。体色は褐色から赤褐色で, 頭部と腹部はより暗色。同属で県北に広く分布するハラクシケアリ隠蔽種群 <i>M. ruginodis</i> Nylander, 1846 (s. l.) に似るが, 触角柄節が基部で角ばり急に曲がることで容易に区別できる。 生息環境: 中部地方以北では, 水域裸地 (河原) や開けた草地に生息し, 石下や土中に営巣するという。
生息・生育状況	中部地方以北ではおもに河原に生息し, ハラクシケアリ隠蔽種群とともに, 本属の最普通種である。本県では, 2007 年に安芸太田町の太田川河川敷で働きアリが 1 個体得られているが, その後追加記録がない。県内の生息範囲や生息環境の詳細は不明であるが, 少なくとも太田川の上から中流域の礫河原に生息している可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	北方系の種で本県が国内分布の西南限であることから, もともと生息範囲や個体群サイズが小さく, 近年の局地的な大雨による出水などで, 生息地が消滅しやすい状況にあると考えられる。また, 地球温暖化の影響により, 分布限界が縮退 (北上) しつつある可能性も考えられる。
特記事項	—
産地情報	安芸太田町 (加計)

亀山 剛・中村慎吾 2011. 広島県太田川の昆虫類 2007 年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, 52: 45-203.

寺山 守・久保田敏・江口克之 2014. 日本産アリ類図鑑, p. 186-187. 朝倉書店, 東京.

(亀山 剛)

キゴシジガバチ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Sceliphron madraspatanum kohli Sickmann, 1894

ハチ目 アナバチ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州, 南西諸島 国外分布: ベトナム, 中国など 形態: 体長 20~28 mm。スマートな体型をしたジガバチ類。体は黒色で, 前胸背板, 中胸側板, 肩板, 脚に黄色部があり, 腹柄節は全体が黄色である。同属の外来種であるアメリカジガバチ <i>S. caementarium</i> は, 腹柄節が黒色であるため容易に区別できる。 生息環境: 民家や耕作地周辺などに生息する。 その他: 水田等の泥で建物の壁などに巣を作り, オニグモ類の幼体やハナグモ類を狩って幼虫の餌とする。
生息・生育状況	1990年代までは広島市内でも目撃したが, 近年は確実な記録がない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	本種と入れ替わるように, 同属の外来種アメリカジガバチは 1990年代以降県内各地で記録され, 現在は普通にみられることから, 餌や営巣場所をめぐる競合が, 本種の生息に影響を与えている可能性は否定できない。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市 (川尻)

岡山県版レッドデータブック 2020, 2020年3月31日公表, https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/656841_5702293_misc.pdf, 2020年11月20日.

寺山 守・須田博久 2016. 日本産有剣ハチ類図鑑, p.8. 東海大学出版部, 神奈川.

(亀山 剛)

フクイアナバチ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Sphex inusitatus fukuianus Tsuneki, 1957

ハチ目 アナバチ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州 国外分布: 中国 形態: 体長 20~30 mm。全身黒色で大型のアナバチ類。頭盾と顔面の毛が黒色であること, 翅の黒ずみがより強いことで, 同属で普通種のクロアナバチ <i>S. argentatus</i> と容易に区別できる。 生息環境: 民家や耕作地周辺などに生息する。 その他: 成虫は7~8月に出現し, 山道の裸地などのほか, 民家の庭や空き地に営巣する。幼虫の餌としてハネナシコロギス <i>Nippancistroger testaceus</i> のみを狩る。
生息・生育状況	産地は局地的で個体数も多くないものの, 継続して生息していると思われる。現地調査では 2018年に安芸太田町で生息が確認された。産地では, クロアナバチに混じってヤブガラシやノブドウなどを訪花する様子が観察されるが, 個体数はクロアナバチに比べてはるかに少ない。調査が進めば, 新産地が見つかる可能性が高い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	本種の生息には幼虫の餌となるハネナシコロギスが生息する夏緑広葉樹林の存在が不可欠である。そのため, 開発などによって樹林が伐採されると, 局所的に姿を消す可能性がある。
特記事項	—
産地情報	福山市, 庄原市, 安芸太田町, 世羅町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2018~2019). 比婆科学, 268: 31-37.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌 [改訂増補版] IV, p. 2187. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(亀山 剛)

ヤマトスナハキバチ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Bembecinus hungaricus (Frivaldsky, 1876)

ハチ目 ギングチバチ科

環境省: DD

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 南西諸島, 伊豆諸島 国外分布: 中国, ユーラシア 形態: 体長 9~12 mm。体は黒色で頭盾の大部分が黄色。腹部第 1~5 節背板の後縁部には黄帯または左右に分かれた黄斑がある。 生息環境: 海岸や河川の砂地。 その他: おもに自然海岸や河川の砂地に営巣する。成虫は 7~9 月に出現し, 幼虫の餌としてヨコバイ類を狩る。
生息・生育状況	廿日市市宮島で 1970 年代に記録があるほか, 1990 年代~2000 年代にかけて太田川や小瀬川で採集されている。現地調査では, 2018 年に廿日市市宮島と福山市宇治島で生息が確認された。島嶼部に残された砂浜や, 規模の大きな河川の砂地に生息していると思われる。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	各種開発による自然海岸 (砂浜) の消失のほか, 近年の豪雨による出水で河川敷の局所的な生息地が消失している可能性がある。
特記事項	開発の影響を受けやすい自然海岸 (砂浜) や, 不安定な環境である河川中下流の砂地に依存していることから, 2000 年代以前に比べて個体数が減少していると考えられ, 「準絶滅危惧(NT)」相当と判断した。
産地情報	福山市 (福山), 廿日市市 (宮島)

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2018~2019). 比婆科学, 268: 31-37.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌 [改訂増補版] IV, p. 2195. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(亀山 剛)

キアシハナダカバチモドキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Stizus perrisi Dufour, 1838

ハチ目 ギングチバチ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国, 極東ロシア, モンゴルなど 形態: 体長 23 mm 前後。体は黒色で, 脚は赤褐色。腹部第 1~5 節にそれぞれ 1 対の黄白色の紋があるが, 後方の紋は左右が繋がって帯状となる傾向がある。 生息環境: 海岸や河川下流域など。 その他: 成虫は 7~8 月に出現し, 幼虫の餌としてバッタ類を狩る。
生息・生育状況	県内では 1962 年に呉市安浦町で採集されたのが最初の記録である。1900 年代以降, おもに太田川, 小瀬川, 芦田川の下流域で採集されている。現地調査では, 2018 年に広島市安佐南区 (太田川) と佐伯区でそれぞれ生息が確認された。安佐南区の生息地ではヤブガラシを訪花する個体が観察された。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	本種の生息には, 営巣環境となる適度に攪乱を受けた裸地と餌となるバッタ類の生息する草地が必要である。これらを満たす環境として, 規模の大きな河川の中下流域に広がる河川敷がよい生息地となっているが, 不安定な環境であり, 年によって個体数の変動が大きいとされる。
特記事項	—
産地情報	広島市 (西区, 安佐南区, 安佐北区, 佐伯区), 呉市 (安浦), 福山市, 府中市, 大竹市

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2018~2019). 比婆科学, 268: 31-37.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌 [改訂増補版] IV, p. 2195. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(亀山 剛)

キヌゲハキリバチ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Megachile kobensis Cockerell, 1918

ハチ目 ハキリバチ科

環境省：なし

広島県 2011： NT

広島県 2003： なし

概要	国内分布：本州，四国，九州，対馬，屋久島，種子島 国外分布：－ 形態：体長 10～13 mm。体は黒色で体全体が白毛で覆われた中型のハキリバチ類。雌雄とも触角の少なくとも先半分は赤褐色。雄の顔面の毛は黄色味を帯びる。 生息環境：おもにハマゴウが生育する砂浜海岸に生息する。 その他：成虫は6～9月に出現する。
生息・生育状況	海浜植物のハマゴウとの結びつきがきわめて強く、重要な餌源として利用しており、ハマゴウにとっても重要なポリネーターとなっている。砂地に穴を掘って営巣する。現地調査では、2015・2016・2018年に宮島，2017年に呉市蒲刈町，2017・2018・2019年に福山市内海町で生息が確認された。宮島では個体数が比較的多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	宮島を除いて県内のハマゴウ群落は規模が小さいため、それらが海岸の整備や開発などによって消失すると、本種の分布域が縮小する可能性がある。
特記事項	－
産地情報	呉市（呉，蒲刈），福山市（内海），廿日市市（宮島）

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2012～2017）. 比婆科学, 263: 33-35.
 亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

（亀山 剛）

キバラハキリバチ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Megachile xanthothrix Yasumatsu & Hirashima, 1964

ハチ目 ハキリバチ科

環境省： NT

広島県 2011： NT

広島県 2003： NT

概要	国内分布：本州，四国，九州，屋久島，種子島 国外分布：中国北東部，朝鮮半島 形態：体長 15～18 mm。比較的大型のハキリバチ類。体は黒色で腹部背面が橙色の毛で覆われ、雌の腹部の刷毛も同色である。雌の前翅付け根の直前に白い毛塊がある。その特徴的な色彩から、一見して他のハキリバチ類と区別できる。 生息環境：自然海岸の砂浜や河川敷の砂地に営巣する。 その他：成虫は7～8月に出現し、ハマゴウ，ヨメナ，クズ，ハギ類などを訪花する。
生息・生育状況	これまでの記録は1962年の呉市と、2010年の福山市の2例のみであった。現地調査では、2017年と2019年に呉市蒲刈町，2018年に福山市内海町で生息が確認された。個体数は少ないが、自然海岸や河川敷などに生息していると考えられ、調査が進めば新産地が発見される可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ももとの個体数が少ないこともあり、営巣場所である海岸や河川敷の自然裸地（砂地）が整備や開発などによって消失すると、地域的な個体群が大きな影響を受ける可能性がある。
特記事項	－
産地情報	呉市（蒲刈），福山市（福山，内海）

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2012～2017）. 比婆科学, 263: 33-35.
 亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

（亀山 剛）

ギンイチモンジセセリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Leptalina unicolor (Bremer & Grey, 1852)

チョウ目 セセリチョウ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国北部, ロシア極東地方 (ウスリー, アムール, シベリア) 形態: 前翅長 15~16 mm。翅形は横長。翅表は前・後翅とも黒褐色で, 無紋。前翅裏も濃い褐色だが周縁部は黄白色。後翅裏は黄褐色で, 基部から外縁に達する銀白色に輝く 2 本の条がある。この条は春型でよく発達し, とくに翅中央の一本条がよく目立つ。 生息環境: ススキ・シバ草地, 河川敷。 その他: 成虫は年 1~3 回発生し, チガヤやススキが優占する明るい草地を緩やかに飛ぶ。幼虫の食草はそれらのイネ科。亜終齢の幼虫は, 枯れ残った食草の葉を筒状に巻いた巣の中で冬を越す。
生息・生育状況	2009 年春に北広島町 (芸北) で, 2017 年夏と 2018 年春に安芸太田町 (戸河内) で, 2020 年春に安芸高田市 (吉田) で, それぞれごく少数が確認されている (坂本 2014, 松田ほか 2018, 亀山 未発表, など)。近年では江の川水系などの大河川の河川敷や堤防草地などで継続的に発生しているものの, 県下全体では消失した生息地も少なくない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	開発行為など土地改変による生息地の消失, 縮小に加え, 草地の維持管理の頻度低下や放棄による草地植生の変化が, 生息環境の悪化につながっている。適度な撾乱の継続 (年 2~3 回程度の定期的な草刈りなど) が, 生息に適した草地 (チガヤ, ススキが優占する草丈の低い二次草原) の長期的な維持に関係しているとみられる事例が多く, 生命線となっている可能性がある。
特記事項	安芸太田町では, 西中国山地国定公園特別地域内等の町有地への希少な昆虫類の採集目的での立ち入りを禁止する掲示を行い, 宿泊観光施設・NPO 団体などが連携, 協力し, 啓発している。
産地情報	庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市 (吉田), 安芸太田町 (戸河内), 北広島町 (芸北)

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌 [改訂増補版] IV, p. 1871-1884, 1888-1889. 比婆科学教育振興会, 庄原.

坂本 充 2014. 北広島町の昆虫類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議, 編), p. 353-500. 北広島町教育委員会. 北広島町. (松田 賢)

スジグロチャバネセセリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Thymelicus leoninus leoninus (Butler, 1878)

チョウ目 セセリチョウ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 北海道, 本州, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 中国大陸, ロシア南東部 形態: 前翅長 14~15 mm。翅表は赤橙色で, 目立つ紋はなく, 外縁と翅脈は黒褐色で鮮明である。翅裏は黄橙色で翅脈の黒褐色が目立ち, 縁毛は肌色である。近縁のヘリグロチャバネセセリ <i>T. sylvaticus</i> に酷似する。 生息環境: 落葉広葉樹林の二次林, 疎林, ススキ・シバ草原。 その他: 四国産は別亜種とされる。成虫は年 1 回, 7~8 月に発生し, 木漏れ日の差す疎林や林縁の草原を好み, 敏速に飛ぶ。幼虫の食草はイネ科のカモジグサ類などで, 孵化した 1 齢幼虫は食草を食べることなく休眠にはいり, 越冬する。
生息・生育状況	県内での生息地は限られ, 2000 年代以降では, 庄原市 (西城), 世羅町 (甲山), 北広島町 (千代田・豊平), 安芸太田町 (戸河内) などの山間部で, いずれもごく少数が確認されているに過ぎず, 生息実態は不明である。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	改変や管理不足による生息地の縮小や草原環境の変化が減少要因とみられるが, 不明な場合も多い。草原性のチョウであるが, 林縁の草地など樹林に接する環境を好むため, 森林環境との関わりにも着目する必要がある。
特記事項	安芸太田町では, 西中国山地国定公園特別地域内等の町有地への希少な昆虫類の採集目的での立ち入りを禁止する掲示を行い, 宿泊観光施設や NPO 団体などが連携, 協力し, 啓発している。
産地情報	福山市 (福山, 神辺), 庄原市 (庄原, 西城, 東城, 口和, 高野, 比和), 廿日市市, 安芸太田町 (戸河内), 北広島町 (千代田, 豊平), 世羅町 (甲山)

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌 [改訂増補版] IV, p. 1871-1884, 1892. 比婆科学教育振興会, 庄原.

松田 賢・上手新一・上野吉雄 2018. 広島県深入山のチョウ類とその保全-2017 年夏の調査結果から-. 高原の自然史, 18: 89-98.

(松田 賢)

ツマグロキチョウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Eurema laeta betheseba (Janson, 1878)

チョウ目 シロチョウ科

環境省: EN

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>国内分布: 本州, 四国, 九州, 南西諸島 国外分布: 台湾, 中国, インドシナ半島, インド, スリランカ, ジャワ島, フィリピン, オーストラリアなど。 形態: 前翅長 18~21 mm。黄褐色から茶褐色の地色に前後とも翅端に黒紋がはいる。キタキチョウ <i>E. mandarina</i> に似るが, 夏型では前翅端の黒紋が中央部で凹まず後角でほぼ消失すること, 秋型では前翅端が尖り, 後翅裏面に 2 本の黒条がはいることによって区別できる。 生息環境: ススキ・シバ草原。 その他: 5 月下旬頃から年 3~4 回発生し, 秋型が成虫で越冬する。食草はカワラケツメイ。</p>
生息・生育状況	<p>河川敷などで少数ながら安定して発生していると考えられる。近年では, 2016 年に宮島, 2017, 2018 年に北広島町や安佐北区可部, 2020 年に安佐南区八木 (松田 未発表) などの確認情報が得られた。また, 現地調査では, 2016 年に広島市佐伯区, 2018, 2019 年に安佐北区, 2019 年に庄原市高野町, 2020 年に東広島市安芸津町でそれぞれ確認された。カワラケツメイ群落では時に多産する。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>全国的には減少が著しいとされるが, 本県では個体数は少ないものの各地に広く分布する。本種は移動性があるとされており, 付近に食草がない場所でもみられる。</p>
特記事項	<p>本県では比較的安定して発生しているが, 全国的な減少傾向を鑑み, 「準絶滅危惧(NT)」にカテゴリを変更した。</p>
産地情報	<p>広島市, 呉市, 尾道市, 福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 大竹市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 府中町, 熊野町, 坂町, 安芸太田町, 北広島町, 世羅町, 神石高原町</p>
	<p>亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2012~2017). 比婆科学, 263: 33-35. 亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2018~2019). 比婆科学, 268: 31-37. (亀山 剛)</p>

ハヤシドリシジミ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Favonius ultramarinus (Fixsen, 1887)

チョウ目 シジミチョウ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>国内分布: 北海道, 本州, 佐渡島, 九州 国外分布: ロシア南東部, 中国北東部および中部~西部, 朝鮮半島 形態: 前翅長 20~22 mm。雄は青みがかった金緑色の地色で, 翅端には細い黒帯がはいる。雌は黒褐色の地色で前翅に灰白色の紋がはいる。裏面は灰褐色で白色のやや太い帯がはいり, 中室端条はほぼ消失する。 生息環境: 夏緑広葉樹 (カシワ) の二次林。 その他: 年 1 回, 6 月下旬頃から発生する。食樹はカシワ。</p>
生息・生育状況	<p>1990 年代までは比較的記録があるが, 2000 年代以降ほとんど報告されていない。現地調査では 2016, 2018 年に廿日市市吉和で, 2019 年に庄原市高野町で生息が確認されたが, いずれも個体数は少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>カシワ林がまとまって残っている地域では現在も生き残っている可能性があるが, 森林伐採や農業形態の変化による里山管理の質的低下により, 多くの産地で生息環境の劣化, 消失が進んでいると思われる。個体数が減少した産地では採集圧も心配される。本種の保全にあたっては, カシワ林の大規模な伐採を極力避けることがもっとも重要である。</p>
特記事項	<p>カシワのみに依存しているため, 経済的価値を失ったカシワ林の減少にともない急激に生息地が減少・消失していることを鑑み, 「準絶滅危惧(NT)」相当と判断した。</p>
産地情報	<p>三次市 (君田), 庄原市, 廿日市市 (吉和), 安芸高田市, 北広島町 (芸北, 大朝)</p>
	<p>亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2018~2019). 比婆科学, 268: 31-37. 中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌 [改訂増補版] IV, p. 1952, 1946. 比婆科学教育振興会, 庄原。 (亀山 剛)</p>

カラスシジミ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Strymonidia w-album fentoni (Butler, [1882])

チョウ目 シジミチョウ科

環境省：なし

広島県 2011： NT

広島県 2003： NT

概要	国内分布：北海道，利尻列島，本州，隠岐島，四国，九州 国外分布：サハリン，朝鮮半島，中国北東部からヨーロッパ 形態：前翅長 15~19 mm。やや暗い茶褐色の地色で，雄の前翅に褐色の小紋がある。裏面はやや明るい茶褐色の地色で，細くて白い帯がはいり，後翅端に朱色と黒の紋がはいり。ミヤマカラスシジミ <i>S. mera</i> に似るが，後翅の白帯が内側に湾曲することで区別できる。 生息環境：夏緑広葉樹の二次林。 その他：年 1 回，5~6 月に発生する。幼虫の食樹は主としてハルニレ。
生息・生育状況	もともと個体数の少ない種であるが，1990 年代中頃以降，確認が困難となっている。2004 年に高野町で確認されたが，それ以降の生息情報は把握できていない。ハルニレの生育地や大木があれば，生息している可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ハルニレが生育する夏緑広葉樹林の伐採等が，生息環境の劣化や消失に繋がる可能性がある。発生木のハルニレが特定されている場合には，残置または移植するなどの配慮が望まれる。また，発生木が限られ個体数の少ない状況下では，過度の採集が個体群の存続に影響する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	福山市，府中市，三次市（布野），庄原市（西城，東城，高野，比和），廿日市市（吉和），北広島町（芸北），神石高原町

中村慎吾 2001. 広島県の蝶 過去と現状. 277pp. 比婆科学教育振興会，庄原.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, p. 1958. 比婆科学教育振興会，庄原.

(亀山 剛・松田 賢)

オオムラサキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Sasakia charonda (Hewitson, [1863])

チョウ目 タテハチョウ科

環境省：NT

広島県 2011： NT

広島県 2003： NT

概要	国内分布：北海道，本州，佐渡島，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国北東部，ベトナム，台湾 形態：前翅長 49~61 mm。表面は黒褐色の地色に白黄色の小紋がはいり。雄は翅の基部の地色が鮮やかな青紫色に輝く。裏面は汚黄色の地色で黄白紋がはいり，前翅基部は黒紋がはいり。後翅の肛角部には表裏とも通常朱色の小紋がある。タテハチョウ科では国内最大。 生息環境：夏緑広葉樹の二次林。 その他：年 1 回，6 月中旬頃から発生する。食樹はエノキ，エゾエノキ。
生息・生育状況	県内に広く生息しているが，多くの生息地で個体数の減少がみられる。とくに広島市安佐北区可部では近年急激に減少したとの情報が得られている（減少原因は不明）。現地調査では，2017 年 12 月に廿日市市で，2020 年 2 月に広島市佐伯区でそれぞれ越冬幼虫，2012 年 7 月に広島市東区，2020 年 6 月に庄原市で成虫が確認された。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各種開発にともなう森林伐採や林縁に生育するエノキの伐採などが本種の減少要因となっている可能性がある。本種の保全にあたっては，食樹のエノキと成虫の餌源となるクヌギ・コナラなどの夏緑広葉樹林の維持が重要である。また，神社の境内や公園などにある発生木の場合は，冬季に根際の落葉を除去しないなどの配慮（越冬幼虫の保護）も重要である。
特記事項	府中市では，民間団体による保護活動が行われている。
産地情報	広島市（東区，西区，安佐北区），呉市，竹原市，三原市，尾道市，福山市，府中市，三次市，庄原市，東広島市，廿日市市，安芸高田市，府中町，坂町，安芸太田町，北広島町，世羅町，神石高原町

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第 3 版）に掲載された昆虫類の確認記録（2012~2017）. 比婆科学, 263: 33-35.
 矢後勝也・平井規央・神保宇嗣（編） 2016. 日本産蝶類都道府県別レッドリステア第四訂（2015 年版）一. やどりが特別号 日本産チョウ類の衰亡と保護 第 7 集, p. 280-284. 日本鱗翅学会，東京.

(亀山 剛)

クロヒカゲモドキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Lethe marginalis (Motschulsky, 1860)

チョウ目 タテハチョウ科

環境省：EN

広島県 2011：NT

広島県 2003：NT

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：アムール，ウスリー，中国，朝鮮半島 形態：前翅長 30～34 mm。表面は茶褐色の地色にぼんやりした白帯と蛇の目状の黒紋がはいる。裏面はややはっきりした白帯と蛇の目状の黒紋がはいる。ヒカゲチョウ <i>L. sicelis</i> やクロヒカゲ <i>L. diana</i> に似るが，本種は翅形が丸みを帯び，前翅裏面の蛇の目紋の上から 3 番目が最大になる点でこれら 2 種から区別できる。 生息環境：落葉広葉樹林の二次林。 その他：年 1 回，7 月中旬頃から発生する。幼虫の食草はチヂミザサ，ススキ，オオアブラススキなど。
生息・生育状況	山間部の落葉広葉樹林に生息するが，もともと個体数が少ない種である。中国山地を中心に少数ながら継続的に発生していると考えられるが，近年の確認情報が得られておらず，生息実態の現状は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各種開発行為による森林伐採や，里山管理の質的低下による落葉広葉樹林や畦畔の荒廃が，本種の生息環境の衰退，消滅の原因となっている可能性がある。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区，佐伯区），福山市，府中市，東広島市（西条），廿日市市（廿日市，大野，吉和），安芸太田町，北広島町（芸北），神石高原町

中村慎吾 2001. 広島県の蝶 過去と現状. 277pp. 比婆科学教育振興会，庄原.

中村慎吾 2014. 広島県昆虫誌〔改訂増補版〕IV, p. 2024. 比婆科学教育振興会，庄原.

(亀山 剛・松田 賢)

ホソバミツモンケンモン 準絶滅危惧(NT) NT-b

Cymatophoropsis unca (Houlbert, 1921)

チョウ目 ヤガ科

環境省：なし

広島県 2011：NT

広島県 2003：NT

概要	国内分布：本州（中国地方），四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国 形態：開張 30～38 mm。暗褐色の地色で，前翅に白色に縁取られた褐色の円紋を 3 つそなえる。 生息環境：山地や丘陵地にある落葉広葉樹林。 その他：寄主植物としてクロウメモドキ科のネコノチチとキビノクロウメモドキが知られる。
生息・生育状況	広域に分布する。既知生息地は内陸部に多く，寄主植物であるネコノチチが少ない臨海部での確認例は少ない。稀種であるが，キビノクロウメモドキの自生地である帝釈峠では，比較的多くの個体が確認されている。寄主植物の減少にともない，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅などによる生息環境の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 盗掘による寄主植物の減少にともなう生息環境の劣化。 集中豪雨に起因する生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市，福山市，三次市，庄原市，廿日市市，安芸太田町，神石高原町

清水健一・矢野立志 2017. 大野町渡ノ瀬の蛾類（第 3 報）. 広島虫の会会報, 56: 41-64.

落合三郎 2012. 広島県三良坂町における蛾類の記録（4）. 比婆科学, 243: 13-29.

(坂本 充)

ナマリキシタバ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Catocala columbina Leech, 1900

チョウ目 ヤガ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 小豆島, 九州 国外分布: 中国中央部 形態: 開張 43~53 mm。前翅は暗青色の地色をしている。他のシタバガ類に似るが、本種は前翅の淡黄色と黒色からなる鋸状の縦条が2本とも明瞭で、後翅頂に白色斑があるなどの点で区別できる。 生息環境: 山地や丘陵地にある, シモツケ属植物が自生する石灰岩質の岩場。 その他: 寄主植物としてバラ科のイブキシモツケやユキヤナギ, コデマリなどが知られる。
生息・生育状況	分布は局地的で、既知生息は4か所に限られる。いずれも寄主植物であるシモツケ類が多く自生する山地にある。森林伐採や道路の敷設, 拡幅工事, 護岸整備などにより、一気に減少する可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅などによる生息環境の劣化や消失。
特記事項	—
産地情報	福山市, 廿日市市, 神石高原町

清水健一 2002. 広島虫の会採集会報告. 広島虫の会会報, 41: 35-39.

清水健一 2001. 2000年度広島虫の会採集会報告. 広島虫の会会報, 40: 69-74.

(坂本 充)

オオシロシタバ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Catocala lara Bremer, 1861

チョウ目 ヤガ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 国外分布: アムール, ウスリー, サハリン, 朝鮮半島, 中国北部 形態: 開張 78~85 mm。前翅は暗灰色の地色で、複雑な黒帯と白褐色の斑紋がはいる。シロシタバ <i>C. nivea</i> に似るが、本種はより小型で、後翅中央のC型の白色帯斑の内側は一様に褐色となる点で容易に区別できる。 生息環境: 山地にある, 自然度が高い落葉広葉樹林。 その他: 寄主植物としてシナノキ科のシナノキが知られる。
生息・生育状況	関東以西では稀種として知られる。県内の既知生息地は、寄主植物であるシナノキが自生する内陸部の三か所に限られる。中国山地のブナ林に広く分布していると考えられるが、個体数が少ないため、確認は困難である。自然林の伐採にともない、緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採による生息環境の劣化。 道路の敷設や拡幅工事, 風力発電設備の設置など土地改変による生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	庄原市, 廿日市市

岡村正昭 2011. 広島県冠高原で採集した蛾5種. 月刊むし, 490: 24-25.

清水健一 2006. 2000年度採集会報告. 広島虫の会会報, 45: 79-82.

(坂本 充)

フシキキシタバ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Catocala separans Leech, 1889

チョウ目 ヤガ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 九州, 対馬 国外分布: 朝鮮半島 形態: 開張 55 mm 前後。前翅は暗い灰褐色の地色をしている。他のシタバガ類に似るが、本種の前翅は幅広の淡色帯を欠き、ほぼ一様に暗色である。また、後翅中央の J 型の黒色縦斑の外縁は外方に突出しないなどの点で区別できる。 生息環境: 低山地や丘陵地にある、落葉広葉樹林。 その他: 寄主植物としてブナ科のクヌギとアベマキ, コナラが知られる。
生息・生育状況	シタバガ属 Gen. <i>Catocala</i> のなかで最稀種とされていたが、寄主植物と夜間に樹液に集まる習性が判明し、全国で確認例が増加している。県内では広域に分布するが、生息地はやや局地的である。都市近郊にも生息し、近年、廿日市市阿品台で確認されている。ミヤマカミキリ <i>Massicus raddei</i> やシロスジカミキリ <i>Batocera lineolata</i> などの減少にともない、幼虫が寄生した樹液を滲出するアラカシ, コナラなどが減りつつあることが、本種の減少の一因となっていると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅などによる生息環境の劣化や消失。 雑木林の荒廃や老熟化にともなう生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	福山市, 庄原市, 廿日市市

清水健一・矢野立志 2019. 阿品台の蛾類 (第3報). 広島虫の会会報, 58: 1-10.

神垣健二・住岡昭彦 2018. 昆虫類. レッドデータブックくれー 一 呉市の絶滅のおそれのある野生動植物—(ひろしま自然の会編), p. 30-60. くれ環境市民の会, 呉.

(坂本 充)

ヒメサナエ 情報不足(DD) DD-a

Sinogomphus flavolimbatus (Matsumura in Oguma, 1926)

トンボ目 サナエトンボ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: — 形態: 腹長 31~34 mm。後翅長 24~28 mm。雄の上付属器と雌の尾毛は、白色となる。他のサナエトンボ類に似るが、本種は翅胸前面の背隆線に襟条に達する黄白色条がある。また、翅胸前面に小さな三角斑と八字状斑があるなどの点により区別できる。 生息環境: 山地溪流~河川中流域。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	おもに内陸部にやや局地的に分布する。2020年に北広島町芸北で確認された。成熟した成虫は、溪流や河川上流部に遡上して産卵し、幼虫は成長につれ流下するため、羽化殻や未成熟個体は中流域で発見される。現在の生息状況は明らかではないが、集中豪雨による出水や、その後の浚渫など復旧整備の影響を受けやすいため、減少が疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河道掘削や浚渫, 護岸整備などによる生息環境の消失。 河川の激しい増水による生息環境の劣化や消失。 生活排水や産業排水, 農薬などの流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	福山市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸太田町, 北広島町

坂本 充 2010. 昆虫類. 吉和の動物ガイド (「よしまなびの森」資料検討委員会 動物部会編), p. 176-212. 廿日市市.

神垣敬子・神垣健司 1999. 広島県産トンボ類の調査報告 (1999年). 広島虫の会会報, 38: 7-13.

(坂本 充)

ヒメアカネ 情報不足(DD) DD-d

Sympetrum parvulum (Bartenev, 1912)

トンボ目 トンボ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州，対馬 国外分布：台湾，朝鮮，中国，ロシア 形態：腹長 17～25 mm。後翅長 20～27 mm。マユタテアカネ <i>S. eroticum</i> に似るが，本種のほうがやや小型で，顔面に眉状の黒色斑紋を欠く点で区別できる。 生息環境：平地や丘陵地にある，湿原や湿地化した休耕田など。
生息・生育状況	山地を除く広域に分布する。2020年に廿日市市宮島，東広島市，世羅町，三原市などで確認された。生息地数，個体数とも，やや減少していると感じられる。湿地化した休耕田の植生遷移の進行や，イネの箱苗殺虫殺菌剤の影響によるものと推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置などによる生息環境の劣化や消失。 管理不足に起因する植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市，三原市，尾道市，福山市，府中市，三次市，庄原市，大竹市，東広島市，廿日市市，安芸高田市，江田島市，熊野町，坂町，安芸太田町，大崎上島町，神石高原町

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物 (第3版) に掲載された昆虫類の確認記録 (2018～2019). 比婆科学, 268: 31-37.

福永みちる 2013. 東広島市のトンボ. 東広島市文化財基礎調査報告 11. 128 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

(坂本 充)

ウスバカマキリ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Mantis religiosa (Linnaeus, 1758)

カマキリ目 カマキリ科

環境省: DD

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州，南西諸島 国外分布：朝鮮半島，中国，ユーラシア大陸広域 形態：体長 52～60 mm。淡緑色型と淡褐色型がいる。他のカマキリ類に似るが，本種の前脚の黒色斑紋は基節のみにあり，腿節にはない点で区別できる。 生息環境：平地にある，埋立地や河川敷の中・高茎草原。
生息・生育状況	広域に分布するが，確認例は少ない。2010年に広島市西区の太田川放水路河川敷で確認されたのを最後に，それ以降確認されていない。個体数が少ないため，県内の分布の実情は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	護岸整備や親水公園化などによる生息環境の劣化。 河川の激しい増水による生息環境の劣化や消失。
特記事項	—
産地情報	広島市，福山市，庄原市，大竹市，東広島市，安芸太田町

中村慎吾・梅森龍史 2003. 広島県小瀬川水辺の昆虫類 2001年の調査結果. 比婆科学, 207: 1-73.

中村慎吾・梅森龍史 2001. 広島県太田川の昆虫類, 1998～1999年の調査結果. 比婆科学, 199: 1-166.

(坂本 充)

マメカマドウマ 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-c, DD-d

Paratachycines parvus (Chopard, 1954)

バッタ目 カマドウマ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州, 四国 国外分布: ー 形態: 体長 6.5~9 mm。体色は光沢のある濃褐色から暗赤褐色。カマドウマ <i>Atachycines apicalis</i> の幼虫に似るが, 本種は体色および触角の色がより暗色となる点で区別できる。 生息環境: 森林中に開口している湿潤な鍾乳洞や人工洞穴など。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	生息地は庄原市総領町と広島市湯来町の鍾乳洞, 北広島町八幡高原の人口洞穴に局限される。森林中に開口した洞窟内でしか発見されていない。生活史において, 森林と洞窟の両域を利用していると考えられていることから, 洞窟周辺の樹木が伐採された場合, 減少や局所絶滅が一気に進行する可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅などによる生息環境の劣化や消失。
特記事項	ー
産地情報	広島市, 庄原市, 大崎上島町

坂本 充 2014. 北広島町の昆虫類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議, 編), p. 353-500. 北広島町教育委員会. 北広島町.

(坂本 充)

イソカナタタキ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Ornebius bimaculatus (Shiraki, 1930)

バッタ目 カネタタキ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州(房総半島以西), 四国, 九州, 沖縄 国外分布: 台湾, 東南アジア 形態: 体長 11~15 mm。頭部, 前胸背板は橙褐色で, 腹部背面にはそれよりやや暗色の鱗毛が密生する。カナタタキ <i>O. kanetataki</i> に似るが, 本種の雌は体色が淡褐色で, 雄の前翅外縁の後端に小黑点をそなえるなどの点で区別できる。 生息環境: 臨海部にある, 雑木林の林縁やそれに続くマント群落。 その他: 雄はピピピピピ…と, やや小さな音量の連続音で鳴く。
生息・生育状況	既知生息地域は呉市鹿島と宮島に限られる。2020年に鹿島に近い呉市鹿老渡で確認された。島嶼部には広く分布すると推測されるが, 個体数が少ないため, 県内の分布の実情はほとんど未解明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事, ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の消失。
特記事項	ー
産地情報	呉市, 廿日市市

岡本 巖 1981. 広島県コオロギ類. 広島虫の会会報, 20: 1-9.

岡本 巖 1966. 厳島産コオロギ類目録. 広島虫の会会報, 5: 15-16.

(坂本 充)

クツワムシ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Mecopoda nipponensis (de Haan, 1842)

バッタ目 クツワムシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: 台湾, 朝鮮半島, 中国 形態: 体長約 50~53 mm。緑色型と褐色型がいる。タイワンクツワムシ <i>M. elongata</i> によく似るが, 本種の前翅の先端は, 雌雄ともに後腿節の末端とほぼ同長かやや短い点で区別できる。 生息環境: 平地から丘陵地にある, 雑木林の林縁部やマント群落など。 その他: 雄はガシヤガシヤ…と大音量の連続音で鳴く。
生息・生育状況	内陸部の山地を除き, 広域に分布する。広島市と近郊で継続的に発生が確認されている生息地は, 孤立的で, 個体群のサイズも小さい。タイワンクツワムシと同様に移動性が乏しいため, 土地改変の影響を受けやすい。都市近郊においては, 緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事, ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 三次市, 大竹市, 廿日市市, 江田島市, 坂町, 安芸太田町

東常哲也・中井和彦 2009. 昆虫. 坂町史自然編(坂町史編集委員会, 編), p. 195-307. 広島県坂町.

坂本 充 2001. 広島県のキリギリス類 (バッタ目: キリギリス科). 比和科学博物館研究報告, 40: 99-121.

(坂本 充)

コバネヒメギス 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Chizuella bonneti (Bolivar, 1890)

バッタ目 キリギリス科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島, 極東ロシア, 中国北東部 形態: 体長 15~26 mm。体色は黒褐色から暗赤褐色。雌雄とも前翅は茶褐色で短く, 腹部中央に達しない。 生息環境: 河川堤防や河川敷, 放牧地などにある, 乾燥した中・低茎草原。 その他: 雄はチリッ・チリッ…と短く区切りながら小さな音量で鳴く。
生息・生育状況	既知生息地は少ない。河川堤防や河川敷の中・低茎草原に生息し, 雄の鳴き声は音量が小さいため, 確認は非常に困難である。2020年に広島市安佐北区の三篠川堤防で確認された。分布の現状は明らかではないが, 河川堤防や河川敷は, 近年, 多発している河川の出水やその復旧, 改修などにより, 各地で改変が進行しているため, 緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川堤防の改修や護岸整備による生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市, 尾道市, 福山市, 庄原市, 北広島町

坂本 充 2014. 北広島町の昆虫類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議, 編), p. 353-500. 北広島町教育委員会. 北広島町.

坂本 充 2001. 広島県のキリギリス類 (バッタ目: キリギリス科). 比和科学博物館研究報告, 40: 99-121.

(坂本 充)

カヤキリ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Pseudorhynchus japonicus Shiraki, 1930

バッタ目 キリギリス科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島 形態: 体長 63~67 mm。体色は淡緑色型と淡褐色型がある。 生息環境: ススキが繁茂する高茎草原や休耕田, ツルヨシが繁茂する河川敷など。 その他: 雄はヴィイーと大音量の連続音で鳴く。
生息・生育状況	県内の広域に分布する。河川敷のツルヨシ群落は, 近年, 多発している集中豪雨による河川の出水と, その後の復旧工事により, 大きく劣化している。また, 広島市内とその近郊の一部では, ススキやメダケがホンシュウジカの食害で衰亡し, 本種も確認できなくなっている。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事, ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。 集中豪雨に起因する河川の出水による生息環境の劣化や消失。 河川改修や護岸整備などによる生息環境の劣化や消失。 ホンシュウジカの食害による生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 三次市, 庄原市, 安芸高田市, 江田島市, 安芸太田町

桑田健吾 2013. 野鳥と秋の虫等異変の記録. 比婆科学, 245: 27.

坂本 充 2001. 広島県のキリギリス類 (バッタ目: キリギリス科). 比和科学博物館研究報告, 40: 99-121.

(坂本 充)

スオウササキリモドキ 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-c

Asymmetricercus suohensis Mitoki, 1999

バッタ目 ササキリモドキ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州 (鳥取県, 岡山県, 広島県, 山口県) 国外分布: — 形態: 体長, 雄 12.4~13.2 mm, 雌 (尾肢基部まで) 8.9~11.3 mm。体色は光沢のある緑色。雌雄とも前翅はきわめて短く, 後翅を欠く。ハダカササキリモドキ <i>Tettiigoniopsis hiurai</i> に似るが, 本種の前胸背板上面の柿色縦条斑は, 側縁が黒色に明瞭に縁取られる。また, 雄の尾肢は左右非対称となるなどの点で区別できる。 生息環境: ブナ林とその下部の落葉広葉樹林。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	山口県の羅漢山が模式産地で, 寂地山でも発見されている。県内では廿日市市生山峠が唯一の既知生息地である。2012年以降, 再確認されていない。個体数が少ないため, 生息の実情は不明である。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	森林伐採や道路の拡幅などによる生息環境の劣化や消失。
特記事項	—
産地情報	廿日市市

加納康嗣・富永 修・田畑郁夫・別府隆守・石川 均・村井貴史・三時輝久・河北 均・豊嶋 弘・高橋耕司 1999. 日本の短翅ササキリモドキ類 (直翅目, キリギリス科, ヒメツユムシ亜科). *Tettiigonia*, 1(2): 1-81

(坂本 充)

キュウシュウエゾゼミ 情報不足(DD) DD-b

Auritibicen kyushyuensis (Kato, 1926)

カメムシ目 頸吻亜目 セミ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州 (広島県・山口県), 四国 (徳島県・愛媛県・高知県), 九州 (福岡県・大分県・熊本県・宮崎県) 国外分布: 一 形態: 体長 34~40 mm。体は黒色で中胸背に赤褐色~黄褐色の W 字状紋がある。コエゾゼミ <i>A. bihamatus</i> に似るが, 雄の第 7 腹板が縦長で, 幅より長いことで区別される。 生息環境: 夏緑広葉樹 (ブナ帯) の自然林に生息する。
生息・生育状況	西中国山地の脊梁部のブナ帯に生息し, 臥龍山, 恐羅漢山などから記録がある。生息地の環境は比較的安定しているものの, 個々の生息地は狭く生息基盤は脆弱である。個体数の年変動が大きく, 年によってはほとんど確認されない場合もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為にともなうブナ帯の夏緑広葉樹林の伐採により, 生息環境が悪化, 減少する可能性がある。また, ナラ枯れ病や温暖化の進行による生息環境が悪化, 減少も懸念される。
特記事項	—
産地情報	安芸太田町 (戸河内), 北広島町 (芸北)

中村慎吾 2005. 恐羅漢山でシラキトビバナフシとキュウシュウエゾゼミを採集. 比婆科学, 217: 30-31.

林 正美・税所康正編 2011. 日本産セミ科図鑑. 223pp. 誠文堂新光社, 東京.

(野崎達也)

カワムラヨコバイ 情報不足(DD) DD-b

Mimotettix kawamurae Matsumura, 1914

カメムシ目 頸吻亜目 ヨコバイ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州, 大隅 (屋久島) 国外分布: 韓国, 極東ロシア, 台湾 形態: 体長 4.5~5.8 mm。体は茶褐色~黒褐色で, 前翅に白斑を装う。 生息環境: 樹上性と考えられるが詳しい生態は不明。
生息・生育状況	1962 年に比和町から記録された例が唯一であり, その後再発見されていない。近年, 岡山県からまとまった個体数の記録があり, 今後生態解明が進めば本県でも再発見される可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	樹林性の種と考えられるため, 広葉樹林の伐採等による影響が想定されるものの, 詳細は不明。
特記事項	成虫は盛夏に出現するとされるが, 岡山県の例では 7~10 月にかけて相当数が採集されており, 従来の知見より出現期が長い可能性がある。灯火に飛来する。
産地情報	庄原市 (比和), 北広島町 (芸北)

野崎達也・野崎陽子 2006. 岡山県沿岸部におけるカメムシ目 (Hemiptera)~瀬戸内市邑久町虫明宇藤の事例~. すずむし, 141: 1-14.

(野崎達也)

コリヤナギゲンバイ 情報不足(DD) DD-b

Physatocheila distinguenda (Jakovlev, 1880)

カメムシ目異翅亜目 グンバイムシ科

環境省: DD

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州（長野県・栃木県・広島県） 国外分布：朝鮮半島，中国北部，モンゴル，中央アジア，ロシア西部 形態：体長 3～4 mm。体はオレンジ味を帯びた灰褐色から黒褐色で，前翅に大きくて明瞭な目玉状の暗色斑がある。 生息環境：国内ではコリヤナギを寄主とする個体群が知られているが，国外からは別のヤナギ類（ <i>Salix</i> 属）にも寄生することが知られている。本県の個体群における寄主植物は明らかではないが，掛頭山および雲月山の個体はいずれもヤマヤナギから採集されている。さらにごく最近，鳥取県の伯耆大山・鏡ヶ成のヤマヤナギ自生種から本種が報じられるに至り，その実態解明に向けた機運が高まっている。
生息・生育状況	2009年に掛頭山から，2010年に雲月山から発見されたが，いずれも個体数は少なく，安定した発生地は特定されていない。なお，上述のとおりヤマヤナギなど別のヤナギ類（ <i>Salix</i> 属）を寄主とする可能性もあり，中国山地脊梁部を中心に新たな産地が発見される可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	コリヤナギ栽培の衰退が影響している可能性が高いが，本県における寄主植物が明らかでなく，詳細は不明。上述のヤマヤナギ等における生息実態解明が待たれる。
特記事項	かつてはコリヤナギの害虫として知られていたが，コリヤナギ栽培の衰退とともにほとんどの地域で姿を消した。
産地情報	北広島町（芸北）

野崎達也・野崎陽子 2013. 広島県掛頭山の半翅目（Hemiptera）. 高原の自然史, 15: 21-38.

野津幸夫・渡辺正明 2020. コリヤナギゲンバイを伯耆大山・鏡ヶ成でヤマヤナギ自生種から採集～付・食草コリヤナギの知見について～. ゆらぎあ, 38: 1-11.

(野崎達也)

キベリマルクビゴミムシ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Nebria livida angulata Bänninger, 1949

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，シベリア東部，中国 形態：体長 13～16.5 mm。体は黒色で，後縁を除く前胸背，上翅側縁と翅端部は黄褐色部。頭部は複眼間に1対の赤紋をもつ。 生息環境：水田やため池の周辺，河川敷など，たびたび水が出入りするような湿地にすむ。
生息・生育状況	全国的に減少傾向が著しく，近年記録がない地域も多い。本県では十数年前までの記録はあるが，その後の状況は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	農地整備や河川改修，ため池護岸のコンクリート張りなど，生息環境が急激に消失している。また，農業の影響もあると考えられる。
特記事項	—
産地情報	広島市（中区，南区，安佐南区，安佐北区，安芸区），呉市（呉），尾道市（尾道），安芸高田市（吉田，八千代）

松田 賢・中村慎吾 1999. 江の川水系の昆虫類. 比和科学博物館研究報告, 37: 39-176.

岡本 巖・大澤省三 1967. 広島県の歩行虫類(第1報). 広島虫の会会報, 6: 21-29.

(秋山美文)

セアカオサムシ 情報不足(DD) DD-b

Carabus tuberosus Dejean, 1826

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：北海道，本州，四国，九州 国外分布：朝鮮半島，中国，シベリア 形態：体長 16～22 mm。小型のオサムシで，前胸背板は緑色を帯びた赤銅色，上翅はこぶ状隆起の列がある。 生息環境：草原や疎林などの明るい環境に生息し，おもに夜間活動する。
生息・生育状況	県南部での記録もあるが，近年の記録はなく，現在確実に生息しているのは中国山地沿いの地域のみである。生息地での個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	草地環境が維持されることが必要で，生息地の改変や管理放棄による植生遷移が懸念される。
特記事項	新しい生息地も見つかり，カテゴリーを1ランク下げた。
産地情報	呉市（呉），尾道市（尾道），庄原市（西城，口和，高野，比和），廿日市市（吉和），北広島町（芸北）

宮川和夫 1964. 芸北地方の注目すべき昆虫. 広島虫の会会報, 3: 11-12.

中村慎吾 1977. 広島県比和町とその周辺の昆虫類. 比和の自然: 255-294.

(秋山美文)

ナガサキクビナガゴミムシ 情報不足(DD) DD-b

Eucolluris litura (Schmidt-Göbel, 1846)

コウチュウ目 オサムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 5.5～6.5 mm。体色は黒く，上翅端は黄褐色で，前胸は細長い。アトモンクビナガゴミムシに似るが，頭部全面に点刻があることで区別できる。 生息環境：ススキ草原やアシ原。
生息・生育状況	生息地での個体数は少ないが，生態的に発見しにくいことも影響している。生息地の面積は狭く，環境の変化で絶滅しやすい種である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	3か所の生息地の内1か所はため池を埋め立てて湿地になった場所で，土砂の堆積により乾燥化が進んでいる。ススキ草原やアシ原の維持が必要である。
特記事項	新産地も見つかり，カテゴリーを1ランク下げた。
産地情報	三原市（久井），東広島市（安芸津），安芸太田町（戸河内）

秋山美文 2010. 広島県未記録の甲虫2種の記録. 月刊むし, 478: 19-20.

大塚健之 2015. 2015年に広島県内で採集した甲虫の記録. 広島虫の会会報, 54: 77-79.

(秋山美文)

コマルケシゲンゴロウ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Hydrovatus acuminatus Motschulsky, 1859

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: NT

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州，南西諸島，大東諸島 国外分布：中国，台湾，東南アジア～中東，オセアニア，アフリカ 形態：体長 2.4～2.7 mm。体型はやや幅広い卵形で，体厚は厚い。体色は黄赤褐色で，前翅はやや暗色となる。マルケシゲンゴロウ <i>H. subtilis</i> に似るが，本種の上翅の小点刻はより小さく，疎にそなえる点で区別できる。 生息環境：平地や丘陵地にある，水生植物が繁茂するため池や湿地化した休耕地，水田周辺の掘割など。
生息・生育状況	やや局地的に分布する。生息地は島嶼部に多いが，近年，東広島市や広島市で複数の生息地が新たに確認された。生息状況は十分に把握されていない。道路の敷設や宅地造成などによって消失した生息地もある。また，マルケシゲンゴロウや他の水生コウチュウ類と同様に，農薬の影響により，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や宅地造成，ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	—
産地情報	広島市，呉市，尾道市，東広島市，江田島市

坂本 充 2000. 広島県産昆虫類の分布資料 (3) -倉橋島，江田島，能美島，上蒲刈島，下蒲刈島の水生甲虫類-. 比婆科学, 193: 1-14.

濱田将大・木谷昌喜・島添信一・井上大輔 2008. 東広島市の水生甲虫. 広島虫の会会報, 47: 1-6.

(坂本 充)

マルケシゲンゴロウ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Hydrovatus subtilis Sharp, 1882

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: NT

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国，九州，対馬，南西諸島，伊豆諸島 国外分布：朝鮮半島，中国，台湾，東南アジア，南アジア 形態：体長 2.4～2.7 mm。体型はやや幅広い卵形で，体厚は厚い。体色は黄赤褐色で，前翅はやや暗色となる。コマルケシゲンゴロウ <i>H. acuminatus</i> に似るが，本種は上翅の小点刻がより大きく，密にそなえる点で区別できる。 生息環境：平地や丘陵地にある，水生植物が繁茂するため池や湿地化した休耕地，水田周辺の掘割など。
生息・生育状況	やや局地的に分布する。近年，近年，東広島市や廿日市市で新たに確認された。分布の現状把握は不十分だが，コマルケシゲンゴロウや他の水生甲虫類と同様に，農薬の影響により，緩やかに減少しつつあると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や宅地造成，ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	—
産地情報	東広島市，世羅町

小坂敏和・矢野立志 2019. 廿日市市阿品台で灯火により採集された甲虫類 (3) -新記録種と3年連続で記録された種-. 広島虫の会会報, 58: 13-19.

濱田将大・木谷昌喜・島添信一・井上大輔 2008. 東広島市の水生甲虫. 広島虫の会会報, 47: 1-6.

(坂本 充)

チャイロマメゲンゴロウ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Agabus browni Kamiya, 1934

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州, 四国, 九州 国外分布: 中国東北部 形態: 体長 10~11.5 mm。体型は楕円形。頭部, 前胸背板は光沢のある黒色。クロズマメゲンゴロウ <i>A. conspicus</i> に似るが, 本種は前胸背板の側縁が黄褐色に縁どられる。また, 上翅は暗黄褐色で, 側縁基部は淡色となるなどの点で区別できる。 生息環境: 水生植物が繁茂するため池や水田周辺の掘割など。
生息・生育状況	広域に分布し, かつてはごく普通に見られた。2010年頃から, 生息地および個体数ともに急激に減少した。現在も各地で確認されるが, 過去に比較して個体数は少ない。良好な環境が維持されているにもかかわらず再確認できない生息地も多い。近年の減少の主要因の一つとして, ネオニコチノイドやフィプロニルを主成分とする農薬の影響が強く疑われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や宅地造成, ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 江田島市, 北広島町, 大崎上島町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議編), p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科), 比和科学博物館研究報告, 39: 5-33.

(坂本 充)

ミジンダルマガムシ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Limnebius kweichowensis Pu, 1951

コウチュウ目 ダルマガムシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州 国外分布: 中国 形態: 体長 1.3~1.4 mm。体型は卵形。体色は光沢のある黒色~黒褐色。前翅端は裁断され, 尾節板が露出する。 生息環境: 平地や丘陵地にある, 水生植物が繁茂する浅場があるため池。
生息・生育状況	生息地は三原市久井町坂井原に限られる。2010年, 樹林に囲まれたため池の岸辺に堆積した植物遺体の間から1個体が得られた (未発表)。以降, 同所で調査を複数回実施したが, 再確認されていない。微小なために発見は困難であるが, 生息に適した景観を呈するため池は世羅・賀茂台地に多く残っているため, 今後, 新たに確認される可能性はある。生息状況は不明だが, 他の水生甲虫類と同様に, 農薬の影響により, すでに減少が進行していると推測される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や宅地造成, ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 護岸整備による生息環境の劣化。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 オオクチバスやブルーギルによる捕食圧。 アメリカザリガニの食害による水生植物の減少。
特記事項	—
産地情報	尾道市

森 正人 2013. 微小水生甲虫の生息環境について—ミジンダルマガムシとナガマルチビゲンゴロウの例—. Sayabane N.S. 9: 34-36.

(坂本 充)

チビコエンマコガネ 情報不足(DD) DD-b, DD-d

Caccobius unicornis (Fabricius, 1798)

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州西部，四国，九州，南西諸島 国外分布：朝鮮半島，中国，台湾，インドシナ半島，ミャンマー，インド 形態：3～3.5 mm。やや光沢のある黒色から黒褐色，体表には微毛をもつ。雄は，頭部に1本の短い角をもつ。 生息環境：市街地や公園などで新鮮な犬糞や人糞に集まるほか，シカ・鶏などの糞にも集まる。
生息・生育状況	採集例が少なく，同様の環境を詳細に調査すると新たな産地が見つかる可能性はあるが，現在まで追加記録はない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	市街地で獣糞が見つかりにくくなっており，餌資源の減少が危険要因となる。
特記事項	—
産地情報	三原市（三原）

水田國康 1990. 三原市のチビコエンマコガネを再確認. ふくがん, 3: 2-3.

水田國康・東常哲也 1991. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 30: 39-47.

(秋山美文)

マキバマグソコガネ 情報不足(DD) DD-b, DD-d

Aphodius pratensis Nomura & Nakane, 1951

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，九州 国外分布：— 形態：体長4～5.3 mm。光沢のある黒色であるが，部分的に赤褐色。前胸背は大小の点刻を密布する。 生息環境：林内から開けた場所まで広く生息する。
生息・生育状況	もっとも最近の記録は，油木町で1988年に採集されたもので，その後の記録はない。牛以外の獣糞で生き延びている可能性があるが，現状は不明。
存在を脅かす要因・保全の留意点	現状では，牛の放牧場に生息地は限られている。
特記事項	—
産地情報	庄原市（庄原，高野，比和），神石高原町（油木）

水田國康 1988. 1987年備北のフン虫（その続編）. ふくがん, 1: 2-4.

中村慎吾 1977. 広島県比和町とその周辺の昆虫類. 比和の自然: 255-294.

(秋山美文)

ニセオオマグソコガネ 情報不足(DD) DD-b, DD-d

Aphodius propraetor Balthasar, 1932

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州西部, 四国, 九州 国外分布: ー 形態: 体長 8~12.5 mm。光沢のある黒色~赤褐色。上翅間室に点刻がほとんどなく, 間室側縁が縁取られないことで, 点刻があり, 間室側縁が縁取られるオオマグソコガネと区別できる。 生息環境: 牛の放牧地。 その他: オオマグソコガネと混生することがある。
生息・生育状況	県内 2 か所の生息が確認されているだけで詳細は不明。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	配合飼料を与えて飼育した牛糞では生息に適さない。屋外で草を食べさせた牛の飼育が必要。
特記事項	ー
産地情報	廿日市市 (吉和)

水田國康 2004. 広島県産フン虫の追加記録 (4). 広島虫の会会報, 43: 18.

(秋山美文)

スジマグソコガネ 情報不足(DD) DD-b, DD-d

Aphodius rugosostriatus Waterhouse, 1875

コウチュウ目 コガネムシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: VU

概要	国内分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 国外分布: 朝鮮半島 形態: 体長 4.4~6.8 mm。光沢のある赤褐色~暗褐色。前胸背板は大小の点刻を散布する。上翅条溝は深く, 条溝内の点刻は強く, 横長で間室にはみ出す。 生息環境: 獣糞のある開けた場所。
生息・生育状況	1989 年までの記録しかなく, 現状は不明。当時は, 牧場内に少ないながら生息していたという。現在, 生息可能な場所は激減している。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	牛の飼育をやめたり, 配合飼料で飼育することが普通になり, 生息が困難になっている。
特記事項	ー
産地情報	庄原市 (庄原)

水田國康・小阪敏和・大澤省三 1972. 広島県の食糞性コガネムシ類. 広島虫の会会報, 11: 3-8.

中村慎吾 1977. 広島県比和町とその周辺の昆虫類. 比和の自然: 255-294.

(秋山美文)

オビマグソコガネ 情報不足(DD) DD-b, DD-d

Aphodius uniplagiatus Waterhouse, 1875

コウチュウ目 コガネムシ科

環 境 省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概 要	国内分布：日本全土 国外分布：朝鮮半島，台湾 形 態：体長 3.5～5 mm。光沢のある黒色で，前胸背と上翅の側方は赤褐色。 生息環境：牛やシカの糞がある開けた環境。
生息・生育状況	放牧を中止した地域が多く，1990 年以降の記録はない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	牛の放牧が継続されても，配合飼料を与えられた牛糞では糞虫の生息には適さないため，種の保全のためには，牛の飼育方法にも配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	庄原市（庄原，高野，比和），廿日市市（吉和）

水田國康 1987. 1987 年備北のフン虫. 広島虫の会雑報, 48: 7-9.

中村慎吾 1977. 広島県比和町とその周辺の昆虫類. 比和の自然: 255-294.

(秋山美文)

キンイロネクイハムシ 情報不足(DD) DD-b, DD-d

Donacia japana Chujo & Goecke, 1956

コウチュウ目 ハムシ科

環 境 省: NT

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概 要	国内分布：本州，九州 国外分布：朝鮮半島，中国北東部 形 態：体長 7～8.9 mm。体色は強い金属光沢のある金銅色で，前翅には赤色～青色の大きな斑紋がある。 生息環境：寄主・訪花植物であるミクリ類や，訪花植物であるスゲ類が繁茂する湿原やため池など。
生息・生育状況	広域に分布するが，生息地はやや局地的である。植生遷移の進行，ため池の改修や護岸整備などにより寄主植物であるミクリ類が衰亡した場合，本種も追従して減少する。ミクリ類が自生しないため池で発見される場合もあるが，同所における寄主植物は不明である。集中豪雨に起因する土砂の流入により，生息環境が著しく劣化した例が知られる。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 改修や護岸整備による生息環境の劣化。 集中豪雨に起因する土砂流入による生息環境の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。 ウシガエルによる成虫への捕食圧。 アメリカザリガニの食害による寄主植物の減少。
特記事項	—
産地情報	広島市，三次市，庄原市，東広島市，北広島町，世羅町，神石高原町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然（北広島町生物多様性専門委員会編），p. 339-351. 北広島町教育委員会，北広島町.

林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔 2003. 中国山地及びその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 6: 1-25.

(坂本 充)

カツラネクイハムシ 情報不足(DD) DD-b, DD-d

Donacia katurai Kimoto, 1981

コウチュウ目 ハムシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 本州 (愛知県以西), 九州 国外分布: ー 形態: 体長 6~8 mm。体色は弱い金属光沢のある銅色で, 赤味の強い個体もいる。ツヤネクイハムシ <i>D. nitidior</i> に似るが, 本種は腿節の全体が上翅と同系の金属色となる点で区別できる。 生息環境: 寄主・訪花植物であるスゲ類や, 訪花植物であるイグサ・ハリイ類が自生する湿原や湿地化した休耕田など。 その他: 日本固有種。
生息・生育状況	広域に分布するが, 生息地はやや局地的である。ツヤネクイハムシと同様に, 中間湿原のほか, 小規模な湧水湿地や湿地化した休耕田にも生息するが, そうした環境は植生遷移の進行や, 周囲の土地改変により劣化しやすく, 本種の繁殖を安定的に支えるものではない。生息地の規模は, 北広島町八幡高原を除き, ほとんどが狭く孤立している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事, ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	ー
産地情報	呉市, 東広島市, 北広島町

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議編), p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔 2003. 中国山地及びその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 6: 1-25.

(坂本 充)

ツヤネクイハムシ 情報不足(DD) DD-b, DD-d

Donacia nitidior (Nakane, 1963)

コウチュウ目 ハムシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 本州 (宮城県以南) 国外分布: ー 形態: 体長 5~6.5 mm。体色は強い金属光沢のある銅色で, 赤みがかったり, 黒紫色となる個体もいる。カツラネクイハムシ <i>D. katurai</i> に似るが, 腿節は黒色で, 基部のみ赤褐色となる。 生息環境: 寄主・訪花植物であるスゲ類が自生する湿原や湿地化した休耕田。
生息・生育状況	広域に分布する。カツラネクイハムシと同様に, 中間湿原のほか, 小規模な湧水湿地や湿地化した休耕田にも生息するが, そうした環境は植生遷移の進行や, 周囲の土地改変により劣化しやすく, 本種の繁殖を安定的に支えるものではない。生息地の規模は, 北広島町八幡高原を除き, ほとんどが狭く孤立している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の敷設や拡幅工事, ソーラーパネル設置など土地改変による生息地の劣化や消失。 植生遷移の進行による生息環境の劣化。 農薬の流入による水質の劣化。
特記事項	ー
産地情報	なし

坂本 充 2014. 北広島町の水生コウチュウ類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議編), p. 339-351. 北広島町教育委員会. 北広島町.

林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔 2003. 中国山地及びその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 6: 1-25.

(坂本 充)

ネギオオアラメハムシ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Galeruca extensa (Motschulsky, 1861)

コウチュウ目 ハムシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布: 北海道, 本州 国外分布: 朝鮮半島, シベリア, 中国 形態: 体長 11~12 mm。暗褐色から黒褐色で, 背面は強い点刻を密に装い, 前胸背中央は弱い 1 対のくぼみをもつ。上翅には 4 対の隆起条がある。 生息環境: ネギ畑や草原。
生息・生育状況	他県ではネギ畑で大発生した記録もあるが, 本県では生息状況は不明。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	本県での詳細な生息環境が不明であり, わずかな環境の改変が生存に大きな影響を与えかねない。
特記事項	—
産地情報	北広島町 (芸北)

中村慎吾・秋山美文・木元新作 1994. 広島県産ハムシ科目録. 比和科学博物館研究報告, 32: 69-101.

秋山美文 2010. 北広島町雲月山の甲虫. 広島虫の会会報, 49: 65-66.

(秋山美文)

ギンボシツツビケラ 情報不足(DD) DD-a, DD-d

Setodes argentatus Matsumura, 1906

トビケラ目 ヒゲナガトビケラ科

環境省: NT

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布: 北海道, 本州, 九州 国外分布: 中国, ロシア 形態: 前翅長 5~6 mm。前翅は細長く黄褐色で, 銀白色の線状斑紋を多数そなえる。触角長は前翅長の約 2 倍。 生息環境: 平地や丘陵地にある, 水田やため池, 湿原など。
生息・生育状況	既知生息地は県内の広域にある。しかし, 2000 年代以降は確認されていない。水田では農薬の影響により減少していると推測されるが, 湿原や流水域における生息状況は不明である。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	水田における中干の励行や冬季乾田化などによる生息環境の劣化。 農薬の使用, 流入による水質の劣化。
特記事項	—
産地情報	三次市, 庄原市, 大竹市, 安芸高田市, 世羅町

松田 賢・中村慎吾 1999. 江の川水系の昆虫類. 比和科学博物館研究報告, 37: 29-176.

谷 幸三・中村慎吾 1997. 広島県のカゲロウ目, カワゲラ目, ヘビトンボ目とトビケラ目. 比和科学博物館研究報告, 55: 43-66.

(坂本 充)

マイコトラガ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Maikona jezoensis jezoensis Matsumura, 1928

チョウ目 ヤガ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	国内分布：北海道，本州，伊豆大島，四国，九州，対馬 国外分布： 形態：開張 43～46 mm。前翅の周縁に沿って細い赤色帯があり，中央やや翅頂寄りにそら豆型の白紋をそなえる。頭部と胸部は長毛に覆われる。 生息環境：低山地や丘陵地にある雑木林。 その他：日本固有種。寄主植物はブドウ科のノブドウが知られる。
生息・生育状況	既知生息地は呉市灰ヶ峰と福山市横島に限られる。寄主植物であるノブドウは多様な自然環境に普通に自生していることから，本種も広く分布していると考えられる。しかし，個体数が少なく，出現時期が3月中から下旬の短期間に限られることから，生息状況は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採による生息環境の劣化や消失。 道路の敷設や拡幅工事，ソーラーパネル設置など土地改変による生息環境の劣化や消失。
特記事項	既知生息地数は少ない。しかし，寄主植物であるノブドウは多様な自然環境に普通に見られる種である。また，個体数が少ないうえ，発生期間早春の短期間に限られるため，減少傾向が確認できていない。これらを鑑みて，「準絶滅危惧」からカテゴリーを変更した。
産地情報	呉市，福山市

神垣健二・住岡昭彦 2018. 昆虫類. レッドデータブックくれー呉市の絶滅のおそれのある野生動植物ー(ひろしま自然の会編), p. 30-60. くれ環境市民の会, 呉.

灰ヶ峰の蛾類と鳥類, 2016年2月27日公表, <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~satoyama/index.html>, 2020年10月20日

(坂本 充)

カタマルヒラアシキバチ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Tremex contractus Maa, 1949

ハチ目 キバチ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	国内分布：本州，四国 国外分布：朝鮮半島，中国 形態：体長 50～53 mm。ヒラアシキバチ <i>T. longicollis</i> やナカネヒラアシキバチ <i>T. nakanei</i> に似るが，本種の前胸背板の側縁は前方に向けて明らかに狭まる点で区別できる。 生息環境：平地や丘陵地にある，寄主植物であるコナラやアベマキが混じる落葉広葉樹林。
生息・生育状況	既知生息地は広島市東区の鷹の条山と安佐南区の権現山に限られる。寄生している枯死木の腐朽が進行すると，雌は産卵をしなため，条件が整った別の枯死木が存在しない場合，同所で継続的に発生することはない。また，個体数が少ないうえに出現機関が短いため，発見はきわめて困難である。現在の県内の分布の実情は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や植林，道路の敷設や拡幅工事などによる生息環境の劣化や消失。
特記事項	—
産地情報	広島市

内藤親彦・篠原明彦・原 秀穂 2020. 日本産ハバチ・キバチ類図鑑 552pp. 北海道大学出版会.

竹内吉蔵 1962. 日本昆虫分類図説 第2集 第4 膜翅目・キバチ科 16pp. 北隆館. 東京.

(坂本 充)

ヒロシマウロコアリ 情報不足(DD) DD-b

Pyramica hiroshimensis (Ogata & Onoyama, 1998)

ハチ目 アリ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州（広島県・岐阜県） 国外分布：— 形態：働きアリの体長は 1.5～2 mm。体色は赤褐色。頭部から胸部背面にかけて丸い毛が密生し、頭盾前縁や触角柄節にはへら状の毛が並ぶ。南西諸島に分布するマルゲウロコアリ <i>P. circothrix</i> に似るが、体サイズが大きいこと、大顎がより長いこと、後腹柄節の海綿状付属物が多いことなどで区別できる。 生息環境：常緑広葉樹の自然林の林床に生息する。
生息・生育状況	県内ではこれまでに広島市内の 2 か所でのみ生息が確認されているまれな種である。最初に発見された産地の南区元宇品で、2010 年に追加個体が得られたが、以降は採集されていない。今後、沿岸部を中心に調査が進めば、新たな産地が発見される可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	これまでに確認された生息地は、いずれも市街地や海域に囲まれた孤立した山塊の樹林内であり、伐採などによる人為的な環境変化のほか、自然災害などによっても消滅する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	広島市（東区、南区）

亀山 剛 2012. 広島県のアリ科分布資料(2). 比和科学博物館研究報告, 53: 59-64.

頭山昌郁 1996. 広島市のアリ類. 広島虫の会会報, 35: 5-10.

(亀山 剛)

キバジュズフシアリ 情報不足(DD) DD-b

Protanilla izanagi Terayama, 2013

ハチ目 アリ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，九州 国外分布：— 形態：働きアリの体長は 2.5 mm 前後。体色は黄色から黄褐色。触角柄節は長く頭部後縁を越え触角鞭節は数珠状。大顎が前方へこぶ状に膨らみ先端近くで下方へ急に曲がる。前脚の基節と腿節が著しく扁平に広がる。 生息環境：ブナ林などの夏緑広葉樹林の落葉層に生息する。
生息・生育状況	全国的にもきわめてまれな種で、県内では 1992 年に庄原市西城町県民の森で採集された 1 例のみであり、その後追加個体は得られていない。近県では島根県の匹見峡で記録がある。中国山地脊梁部などで調査が進めば、新産地が発見される可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各種開発や森林伐採などによる人為的な環境変化が本種の生息に影響を及ぼす可能性がある。
特記事項	広島県 2011 版時点では未記載種であったが、2013 年に新種記載された。
産地情報	庄原市（西城）

緒方一夫・頭山昌郁・崔 炳文 1994. 広島県のアリ類. 蟻, 18: 18-25.

寺山 守・久保田敏・江口克之 2014. 日本産アリ類図鑑, p.91. 朝倉書店, 東京.

(亀山 剛)

シロスジフトハナバチ 情報不足(DD) DD-b

Amegilla quadrifasciata (Villers, 1789)

ハチ目 ミツバチ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：旧北区 形態：体長 14～16 mm。体は黒色で，頭頂部や胸部背面には黄褐色毛が密生する。腹部第 1～4 節背板後端に明瞭な白毛帯を備える。同属のスジボソフトハナバチ <i>A. florea</i> はこの白毛帯に黄褐色毛が混じり，やや不明瞭となることで区別できる。 生息環境：自然海岸や河川敷など。 その他：成虫は 7～9 月に出現し，ハマゴウなどに訪花する。
生息・生育状況	県内では記録がなかったが，現地調査により 2017 年に呉市蒲刈町で初めて記録され，2019 年には福山市内海町と広島市安佐北区でも生息が確認された。呉市と福山市では海岸のハマゴウ群落，安佐北区では住宅の庭に植栽された園芸種の <i>Salvia</i> 属に訪花していた。宮島のハマゴウ群落では本種がみられず，代わりにスジボソフトハナバチが多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川沿いにやや内陸部にも生息するようであるが，海浜部のハマゴウへの依存度が高いと考えられる。海岸の整備や開発などによってハマゴウ群落が縮小・消失すると，もともと個体数の少ない本種の生息環境が失われ，短期間で姿を消す可能性がある。
特記事項	県内では 2017 年に初めて記録された。開発の影響を受けやすい自然海岸（砂浜）に立地するハマゴウ群落への依存度が高いこと，もともとの個体数が少ないうえ，さらにまれなウスルリモンハナバチの寄主であることなどを考慮して，現時点では「情報不足(DD)」として扱うことが妥当と判断した。
産地情報	広島市（安佐北区），呉市（蒲刈），福山市（内海）

亀山 剛 2018. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第 3 版）に掲載された昆虫類の確認記録（2012～2017）. 比婆科学, 263: 33-35.

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第 3 版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

(亀山 剛)

ウスルリモンハナバチ 情報不足(DD) DD-b

Thyreus centrimacula (Perez, 1905)

ハチ目 ミツバチ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	国内分布：本州，四国，九州 国外分布：— 形態：体長 12 mm 内外。体は黒色で，胸部背面と腹部のほか脛節にもやや白い青色の毛からなる斑紋がはいる。同属のナミルリモンハナバチ <i>T. decorus</i> に似るが，全体に青色部の色が薄く斑紋のパターンも異なるので区別は容易である。 生息環境：労働寄生するシロスジフトハナバチ <i>Amegilla quadrifasciata</i> が生息する自然海岸や河川敷など。 その他：成虫は 7～9 月に出現し，ハマゴウなどに訪花する。
生息・生育状況	県内ではこれまでに呉市川尻町野呂山で 1962 年に採集されたのが唯一の記録で，その後の追加記録がなかったが，現地調査によって 2018 年に福山市内海町で生息が確認された（56 年ぶり）。ここでは，寄主のシロスジフトハナバチが生息するハマゴウ群落で採集された。一方，宮島のハマゴウ群落ではシロスジフトハナバチがみられず，代わりにスジボソフトハナバチが多産することから，本種は生息していない可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	海岸の整備や開発などによってハマゴウ群落が縮小・消失すると，もともと個体数の少ない本種の生息環境が失われ，短期間で姿を消す可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市（川尻），福山市（内海）

亀山 剛・杉村光俊 2020. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第 3 版）に掲載された昆虫類の確認記録（2018～2019）. 比婆科学, 268: 31-37.

田口英成 1986. 広島県付近の膜翅類（第 1 報）. 広島虫の会会報, 25: 21-24.

(亀山 剛)

ニホンアミカモドキ 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-d

Deuterophlebia nipponica Kitakami, 1938

ハエ目 アミカモドキ科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: VU

概要	国内分布：本州，九州 国外分布：— 形態：体長 1.8～4 mm。前翅は膜質で幅広く，翅脈は退化している。雄の触角は非常に長く 10 mm を超える。 生息環境：山地にある，水質が良好で流れが速い渓流域。 その他：日本固有種。
生息・生育状況	既知生息地は，1995 年に確認された滝山川上流域の北広島町川小田に限られる。それ以外の確認例はない。分布および生息状況は不明である。水量が豊かな渓流域に生息することから，近年，多発している集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化が懸念される。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	集中豪雨に起因する出水による生息環境の劣化。 護岸整備による生息環境の劣化。
特記事項	—
産地情報	北広島町

坂本 充 2014. 北広島町の昆虫類. 北広島町の自然 (北広島町生物多様性専門員会議, 編), p. 353-500. 北広島町教育委員会. 北広島町.
建設省河川局河川環境課 1997. 平成 7 年度河川水辺の国勢調査年鑑 魚介類調査, 底生動物調査編 CD-ROM 版 (リバーフロント整備
センター 編集), 山海堂, 東京.

(坂本 充)